

安全・健康・コミュニティに関する調査報告書

平成24年 2 月

厚 木 市

～目次～

・ 調査実施の概要

1 . 調査の目的	3
2 . 調査対象と調査方法	3
3 . 配布・回収結果	3
4 . 調査項目	3
5 . 集計方法について	4
6 . 回答者（世帯）の基本属性	4
7 . 回答者（個人）の基本属性	5

・ 調査結果の概要

1 . 調査の概要	9
2 . アンケート調査結果の概要	9

・ 調査結果の分析

1 . 自宅外（市内）でのけがの状況	13
過去1年間の自宅外でのけがの状況	13
過去1年間にけがをした原因	14
過去1年間にけがをした場所	16
2 . 自宅での事故やけがの状況	18
過去1年間の自宅でのけがの状況	18
過去1年間に一番大きなけがをした原因と場所	19
a . けがをした原因	19
b . けがをした場所	22
c . けがをした場所とけがの原因の関係	25
時間帯別にみたけがの状況	26
3 . こども（15歳未満）の事故やけがの状況	28
自宅外（市内）でのけがの状況	28
自宅でのけがの状況	31
4 . 体感不安（犯罪被害等含む）に関する実態	34
地域の治安の変化に対する意識	34
犯罪等被害や不安を感じる事項と程度	36
犯罪等被害に合う不安を感じる状況と程度	41
犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策の状況	46
犯罪防止のために重要と考える対策	48
5 . 「セーフコミュニティ」の認知状況	49
厚木市の取組みの認知状況	49
今後の「セーフコミュニティ」の取組みに関する意識	50

6 . 市民生活の安心・安全に関する意識	51
居住地域の安心・安全に関する意識	51
近所付き合いと安心・安全に関する意識	53
a . 近所付き合いの状況と今後の意向	53
b . 近所付き合いの程度と安心・安全に関する意識	56

. 調査票と集計結果

1 . 世帯調査票	61
2 . 個人調査票	63

・ 調査実施の概要

・調査実施の概要

1．調査の目的

市民の安全・健康・コミュニティに対する考えやその現状を調査するとともに、集計、分析を行い、今後のセーフコミュニティ活動等の資料とすることを目的とする。

2．調査対象と調査方法

2011(平成23)年9月1日現在、厚木市に住民登録している世帯主7000人を無作為抽出(地域・年齢バランスを考慮)し、世帯主及び同居家族(世帯票1通+個人票3通同封)を対象とする。(配付・回収ともに郵送)

3．配付・回収結果

配布対象 (調査実施期間)	配布数	有効回収数(%)	備 考
厚木市内の世帯 (2011年10月22日 ～11月5日)	7,000世帯	1,741世帯 24.9(%)	個人票回収数 3,258票

4．調査項目

世帯票(世帯主あるいは、それに代わる方が世帯を代表して記入)

- 世帯属性(居住地区、居住年数、家族人数・構成、住居の種類)
- 「セーフコミュニティ」について(認知、協働推進の必要性)
- 厚木市の生活(満足度、近所付き合い～現状と今後の意向)
- こどもの外傷実態(こどもの年齢、自宅外・自宅における外傷経験、外傷状況、付き添いの有無、医療機関への受診経験)

個人票(15歳以上の世帯構成員全員が回答。世帯主も記入。)

- 自宅外における過去1年以内の外傷実態(外傷経験、外傷原因、医療機関への受診有無、外傷の場所)
- 自宅における過去1年以内の外傷実態(外傷経験、外傷状況、医療機関への受診経験、一番大きな外傷の原因・場所・時間帯)
- 体感治安(1年前と比べた体感治安、事例別の犯罪被害への不安、不安を感じる地域の状況)
- 犯罪被害対策の実施状況
- 犯罪抑止対策の重要度
- 基本属性(性別・年齢・通勤通学先)

5. 集計方法について

- ・集計結果を表すグラフには、回答者数（n）も併せて表記する。
- ・無回答や不明な回答は除く。このため、項目により回答者数（n）は異なる。
- ・複数回答の場合の回答者数（n）は、設問に回答した人数を表記する。
- ・集計表およびグラフ中の構成比は、四捨五入の関係で合計が100%とならないことがある。

6. 回答者（世帯）の基本属性

a. 居住地

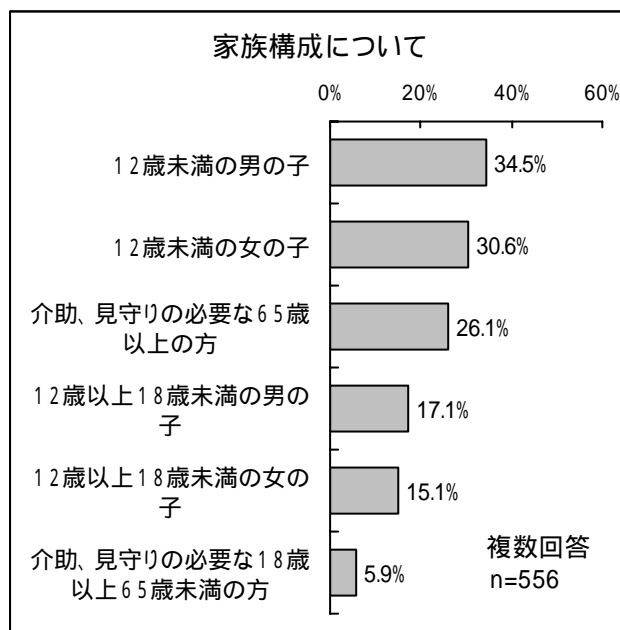
地区	回答数	構成比
厚木北	175	10.5%
厚木南	176	10.6%
依知北	96	5.8%
依知南	93	5.6%
睦合北	58	3.5%
睦合南	149	9.0%
睦合西	61	3.7%
荻野	191	11.5%
小鮎	114	6.9%
南毛利	251	15.1%
南毛利南	60	3.6%
玉川	33	2.0%
森の里	78	4.7%
相川	80	4.8%
緑ヶ丘	45	2.7%
合計	1660	100.0%

b. 居住年数

居住年数	回答数	構成比
1年未満	92	5.5%
1年以上5年未満	279	16.5%
5年以上10年未満	207	12.3%
10年以上15年未満	184	10.9%
15年以上20年未満	124	7.4%
20年以上	801	47.5%
合計	1687	100.0%

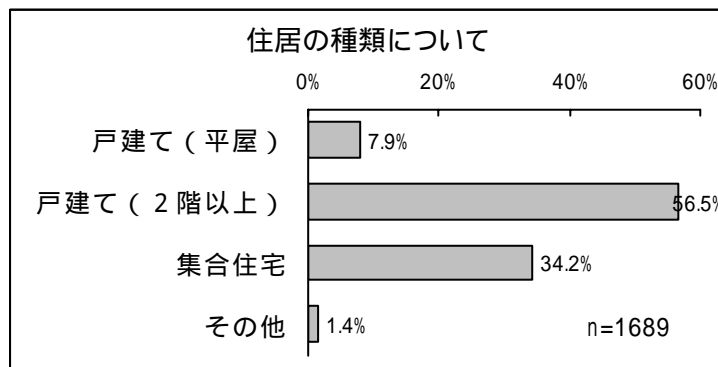
c. 家族構成

人数	回答数	構成比
1人	295	17.4%
2人	548	32.3%
3人	396	23.4%
4人	296	17.5%
5人	94	5.5%
6人	41	2.4%
7人	18	1.1%
8人	3	0.2%
9人	2	0.1%
10人以上	2	0.1%
合計	1695	100.0%



d. 住居の種類

住居の種類	回答数	構成比
戸建て（平屋）	133	7.9%
戸建て（2階以上）	955	56.5%
集合住宅	577	34.2%
その他	24	1.4%
合計	1689	100.0%



7. 回答者（個人）の基本属性

a. 性別

性別	回答数	構成比
男性	1500	48.4%
女性	1602	51.6%
合計	3102	100.0%

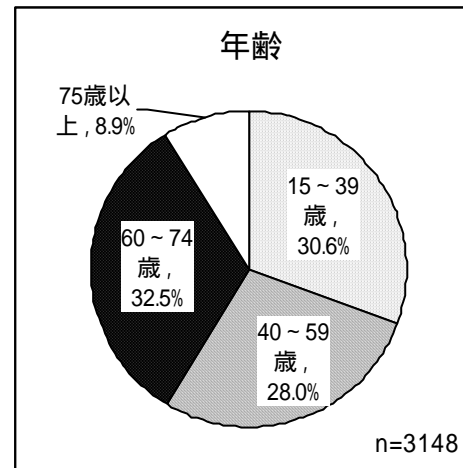
地区	性別			構成比		
	男性	女性	計	男性	女性	計
厚木北	141	159	300	47.0%	53.0%	100.0%
厚木南	149	148	297	50.2%	49.8%	100.0%
依知北	85	86	171	49.7%	50.3%	100.0%
依知南	80	84	164	48.8%	51.2%	100.0%
睦合北	53	66	119	44.5%	55.5%	100.0%
睦合南	139	141	280	49.6%	50.4%	100.0%
睦合西	46	64	110	41.8%	58.2%	100.0%
荻野	172	185	357	48.2%	51.8%	100.0%
小鮎	97	105	202	48.0%	52.0%	100.0%
南毛利	220	226	446	49.3%	50.7%	100.0%
南毛利南	45	51	96	46.9%	53.1%	100.0%
玉川	33	28	61	54.1%	45.9%	100.0%
森の里	72	78	150	48.0%	52.0%	100.0%
相川	73	84	157	46.5%	53.5%	100.0%
緑ヶ丘	31	35	66	47.0%	53.0%	100.0%

無回答除く

b. 年齢

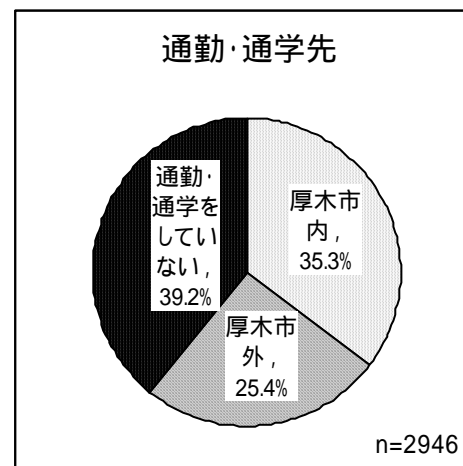
年齢階層	回答数	構成比
15～39歳	963	30.6%
40～59歳	881	28.0%
60～74歳	1024	32.5%
75歳以上	280	8.9%
合計	3148	100.0%

無回答除く



c. 通勤・通学先

通勤・通学先	回答数	構成比
厚木市内	1041	35.3%
厚木市外	749	25.4%
通勤・通学をしていない	1156	39.2%
合計	2946	100.0%



・ 調査結果の概要

・調査結果の概要

1. 調査の概要

厚木市における「セーフコミュニティ」の取組みを進めていくため、全市的な外傷動向及びハイリスクグループの特定や外傷発生メカニズムの解明、体感治安を構成する要素、「セーフコミュニティ」認証取得や市の取組みの認知状況、継続推進の必要性の把握を目的としたアンケート調査を実施した。

2. アンケート調査結果の概要

「セーフコミュニティ」の認知状況

- ・言葉を聞いたことがある人を含めて「セーフコミュニティ」の認証取得や取組みに関する認知状況は53.0%（「よく知っている(9.7%)」+「聞いたことがある(43.3%)」）で、前回調査結果の33.8%から19.2%増加した。
- ・「セーフコミュニティ」の継続推進が必要と感じている人は80.7%（「必要(57.5%)」+「どちらかという(23.2%)」）で、前回調査結果と比較しても、引き続き多くの人が高い関心を持っていることがうかがえる（「セーフコミュニティ」の活動理念に賛同する(75.7%)、「セーフコミュニティ」に関心がある(64.7%) 前回調査結果）。



市民生活の安心・安全に関する意識

- ・居住地の安心・安全について不安感を持っている人は14.9%（「まったくそう思わない(3.7%)」+「どちらかといえば思わない(11.2%)」）で、前回の22.4%から7.5%減少した。
- ・近所付き合いについて、現状では「世間話や立ち話をする(46.6%)」、「会ったら挨拶する(34.0%)」、「生活面での協力関係ができる程度(14.4%)」の順だが、今後の意向では「生活面での協力関係ができる程度(33.2%)」が増加し、前回調査結果同様、近所付き合いの必要性を感じている人が多いことがうかがえる。
- ・全体として居住地の安心・安全に不安感を持っている人の割合が減少したため、近所付き合いがほとんどないと答えた人でも、居住地が安心・安全と考える人の割合が増加したが、前回調査結果にも増して、近所付き合いが親密になるほど、居住地が安心・安全と考える人が多い傾向がうかがえる。
「生活面での協力関係(安心度71.4% 前回57.4%)」、「世間話や立ち話(同61.0% 51.2%)」、「あいさつ程度(同51.2% 42.4%)」、「ほとんど付き合いがない(同50.0% 31.9%)」

15歳以上の自宅外での事故やけがの状況（過去1年間）

- ・12.4%の人が自宅外でけがをし、そのうち2人に1人が医療機関を利用。
年齢階層別では後期高齢者がけがをして医療機関を利用する割合が大きくなる傾向（通院7.2% 前回11.0%）。
- ・けがの原因は「転倒(40.8% 前回47.4%)」が最も多く、次いで「切傷・刺傷(23.7% 21.5%)」、「交通事故(13.2% 16.2%)」の順。
年齢階層別では、高齢になるほど転倒によりけがをする人の割合が多くなる傾向。特に後期高齢者は56.8%の人がけがの原因として「転倒」を挙げている。 前回74.0%
- ・けがをした場所は「道路・歩道(48.4% 前回47.4%)」が最も多く、次いで「勤務先(16.1% 14.8%)」でのけがが多い。
年齢階層別でも、けがをした場所はすべての階層で「道路・歩道」が最も多く（15～39歳=44.9%、40～59歳=51.1%、60～74歳=50.0%、75歳以上=45.7%）けがをした場所として「勤務先」の割合が2番目に多いのは、「15～39歳(24.6%)」、「40～59歳(18.5%)」、「60～74歳(9.4%)」の階層である。「75歳以上」の階層においては、「農地・林地」が8.6%と2番目に多い割合となっている。

15歳以上の自宅での事故やけがの状況（過去1年間）

- ・12.3%の人が自宅だけでけがをしており、そのうち約3人に1人が医療機関を利用。
年齢階層別では後期高齢者がけがをして医療機関を利用する割合が大きくなる傾向（通院9.8% 前回9.1%）。
- ・一番大きなけが（以下同）の原因は「切傷・刺傷(40.2% 前回35.7%)」が最も多く、次いで「転倒(21.9% 26.2%)」、「火傷(9.2% 9.7%)」の順。
「74歳以下」の各階層では「切傷・刺傷」が、「75歳以上」では「転倒」が第1位。 前回調査では、59歳以下の各階層で「切傷・刺傷」が、60歳以上の各階層では「転倒」が第1位。

- ・けがをした場所は、前回調査結果と同様に「台所(39.2% 前回 41.4%)が最も多く、「居室(20.6% 17.2%)」、「庭(14.9% 13.1%)」の順。
年齢階層別では、けがをした場所は「74歳以下」の階層で「台所」が最も多く(15~39歳=47.7%、40~59歳=47.7%、60~74歳=30.9% 75歳以上は14.7%で台所は第四位) けがをした場所として「居室」の割合が二番目に多いのは、「59歳以下」の階層。「60~74歳」の階層においては、「庭」が二番目に多い割合となり、「75歳以上」では第1位となっていることから、高齢になるほど屋外でけがをする人の割合が多くなる傾向がうかがえる。
- ・けがをした時間は、夕方(17-19時：ピークは「18時台」)が多い。
午前中では10-11時頃(前回調査結果同様「10時台」がピーク)
女性では、特に17~19時台にけがをする割合が高く、男性に比べてけがをした時間帯の差が明確となっている。これは、前回調査結果同様、台所でけがをする人が多いことや、けがの原因として切傷・刺傷が多いことを勘案すると、夕食の準備に係る家事によるけがであることが推察される。

こども(15歳未満)の事故やけがの状況(過去1年間)

- ・市内(自宅外)では15歳未満の子どものいる世帯の38.0%(前回 44.0%)が何らかのけがをしている。
けがをした時の状況は「道路や歩道での転倒(12.3% 17.6%)」、「学校でのけが(11.7% 13.6%)」、「公園(7.6% 11.0%)」が上位3位。全体として、前回調査結果よりもけがをした子どもがいると答えた世帯の割合が減少したため、個々の項目においてもそれぞれ割合が減少した。
- ・自宅では15歳未満の子どものいる世帯の29.8%(前回 38.8%)が何らかのけがをしている。
けがをした時の状況は「家具等に体をぶつけるなどの衝突(11.5% 18.8%)」、「ベッドやイス等からの転落(7.5% 12.1%)」、「ドアや窓等にはさまれる(7.1% 11.1%)」が上位3位。こちらも、全体の割合が減少したため個々の項目においてもそれぞれ割合が減少した。

体感治安、犯罪被害対策に関する実態

- ・1年前と比べて7人に1人が治安が悪くなったと感じている。(前回は5人に1人)
前回調査結果と比較して、治安が「悪くなった」と回答した人の割合は7.0%減少し、代わりに「良くなった」、「変わらない」と回答した人の割合はそれぞれ1.2%と6.4%増加した。(「良くなった(5.2% 4.0%)」、「悪くなった(13.9% 20.9%)」、「変わらない(68.1% 61.7%)」)
- ・非常に不安な事項上位3位は「地震や風水害(20.7% 前回2位 18.2%)」、「子どもの連れ去り(16.3% 1位 25.7%)」、「空き巣(13.2% 3位 15.9%)」。前回2位だった地震や風水害が1位となっており、震災の影響がうかがえる。
- ・非常に不安を感じる状況の上位3位は「夜、街灯が暗いところ(15.9% 前回 20.7%)」、「人通りの少ない道(15.2% 20.1%)」、「木の茂みなど管理が行き届いていない場所(11.2% 15.6%)」。
すべての項目で「非常に不安」、「かなり不安」と答えた人の合計割合が前回の割合を下回り、加えて「不安はない」と答えた人の割合もすべての項目で前回は上回った。
前回調査結果同様、性別では男性よりも女性、年齢階層別では若年層でより、この上位3位が挙げられる傾向が強く見られた。
高齢者の階層の特徴として、「ごみ出しルールや騒音を出すなど地域のマナーを守らない人がいる」の項目で「非常に不安」と答えた人の割合が、60~74歳の階層で3位(8.8% 前回 11.3%で3位) 75歳以上で1位(6.3% 8.5%で4位)となっており、項目における不安感の割合自体は前回よりも減少したものの、全体としては順位が上がった。
- ・実施している犯罪被害対策は、「外出時の鍵かけ(88.4% 前回 88.6%)」が最も多く、次いで前回3位の「自転車の防犯登録(43.5% 38.2%)」が2位、「夜間の点灯(38.4% 39.3%)」、「夕方室内の点灯(37.7% 37.8%)」と続き、前回同様個人でできる活動が中心。
「地域パトロール活動への参加」が13.6%(前回 10.0%)と3.6%、「市が発信している防犯・防災情報への登録」が5.8%と(4.1%)1.7%増加し、回答数でもこの2つの項目だけ前回は上回ったことから、防犯・防災意識の高まりがうかがえる。
- ・犯罪抑止の対策としては、「警察の防犯活動の充実(75.3% 前回 77.7%)」、「個人の防犯対策(73.4% 77.3%)」、「学校における防犯対策(60.2% 62.2%)」が重要と考える人が多く、自治体や地域住民・企業などが行う取り組みと比較した場合、個人の防犯意識、もしくは警察・学校という公的な機関が独自に行う防犯対策の方が、より重要度が高いと考える人が多い傾向がうかがえる。

・ 調査結果の分析

・調査結果の分析

【 】内は前回調査報告書における図表番号

1. 自宅外（市内）でのけがの状況

過去1年間の自宅外でのけがの状況

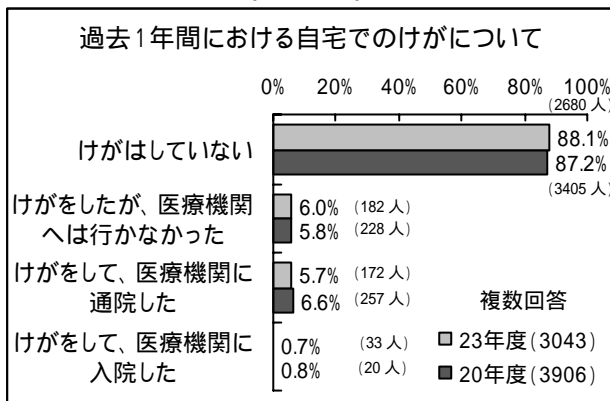
過去1年間に12.4%の人が自宅外（市内）でけがをしており、そのうち2人に1人が医療機関を利用している。

- ・市全体では12.4%の人がけがをしたと回答しており、このうち概ね半数の6.4%の人が医療機関を利用したと回答した。前回調査（平成20年度）と比較しても、けがをした人のうち医療機関を利用した人の割合は、56.0%から51.3%と若干減少しているものの、ほぼ同様の結果となった。

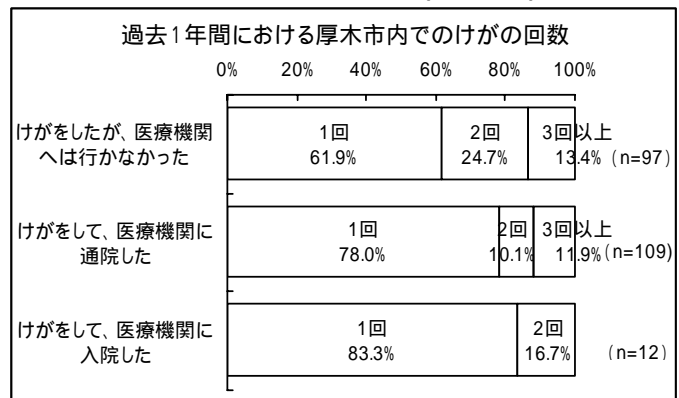
年齢階層別でも際立った差はみられないが、75歳以上ではけがをして医療機関を利用する人の割合が、若干大きくなる傾向にある。

- ・75歳以上の後期高齢者では、「けがをして、医療機関に入院した」と回答した人の割合が、前回調査結果同様他の年齢層よりもやや大きく、医療機関を利用する人が多くなる傾向がうかがえるが、「けがをして、医療機関に通院した」と回答した人の割合は、11.0%から7.2%と3.8ポイント減少した。

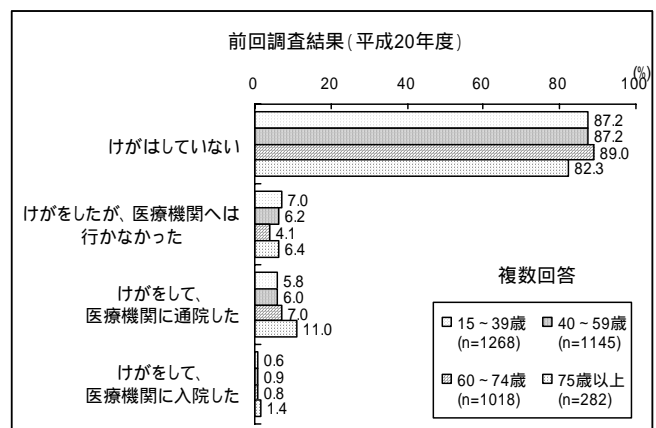
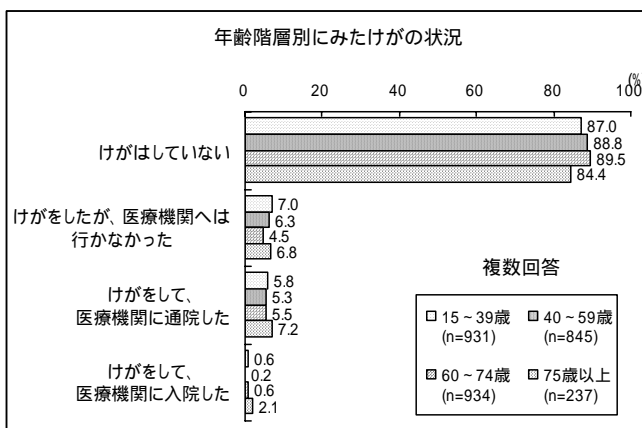
図表 1【2-26】 過去1年間のけがの状況（自宅外）



図表 2【2-27】 けがをした際の医療機関の利用状況（自宅外）



図表 3【2-28】 年齢階層別にみた過去1年間のけがの状況（自宅外）



過去1年間にけがをした原因

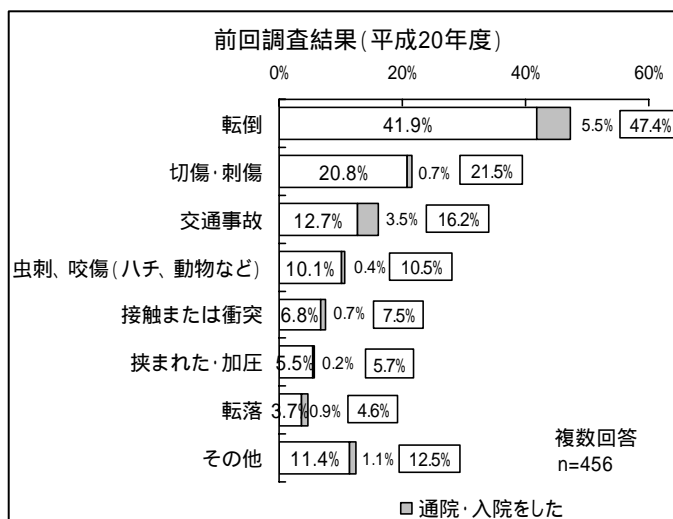
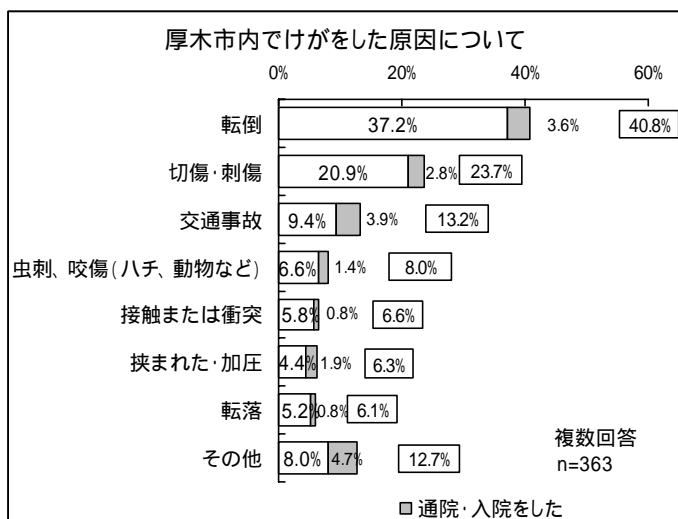
自宅外（市内）での過去1年間のけがの原因として、転倒が最も多く、次いで切傷・刺傷、交通事故の順となっている。

- ・けがの原因の上位3位は、前回調査（平成20年度）と同様の結果となったが、1位の転倒が47.4%から40.8%と6.6ポイントの減少、2位の切傷・刺傷が21.5%から23.7%と2.2ポイントの増加、3位の交通事故が16.2%から13.2%と3.0ポイントの減少と、それぞれに増減がみられた。また、前回4位の虫刺・咬傷が10.5%から8.0%と2.5ポイント減少したことで、上位3位以外の原因の割合はほぼ横並びの結果となった。

年齢階層別にけがの原因をみると、高齢になるほど転倒によりけがをする人の割合が多くなる傾向にある。

- ・転倒は前回調査と比較して、15～39歳で42.9%から32.2%と10.7ポイント、75歳以上で74.0%から56.8%と17.2ポイントの減少があったが、依然としてすべての階層において、最も多くあげられたけがの原因であり、前回調査と同様、年齢階層が上がるごとに割合が大きくなる傾向がみられた。全体2位の切傷・刺傷も、年齢階層が下がるほど割合が小さくなる結果は前回と同様であったが、すべての階層において割合の増加がみられ、特に40～59歳で前回の21.1%から29.0%と7.9ポイントの増加となった。

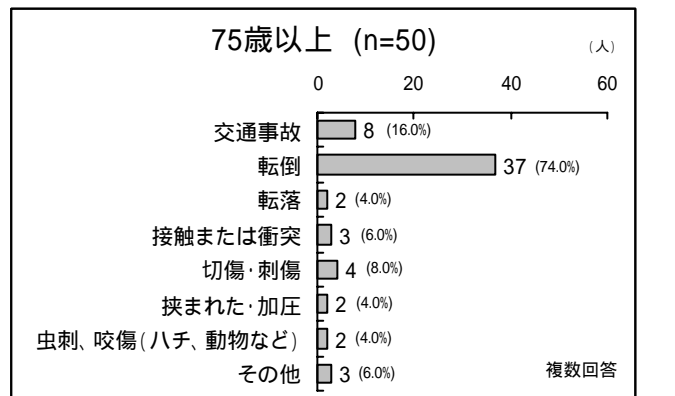
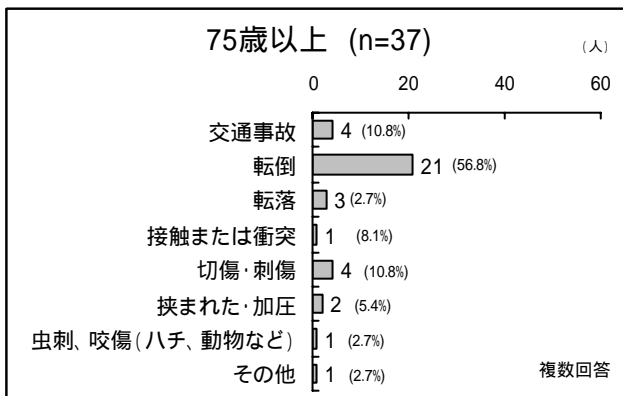
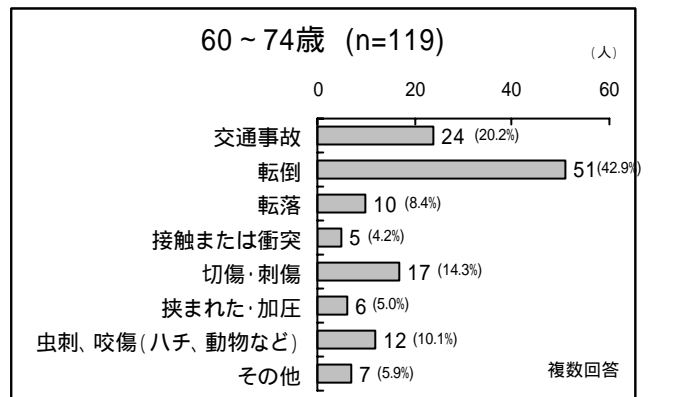
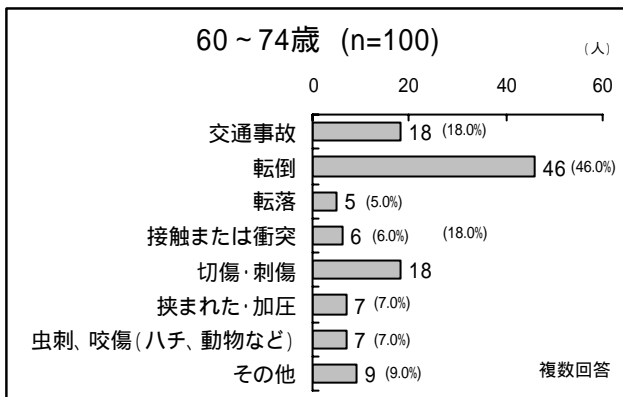
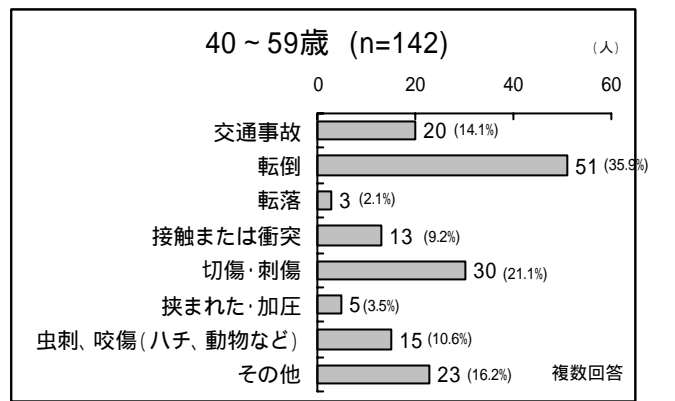
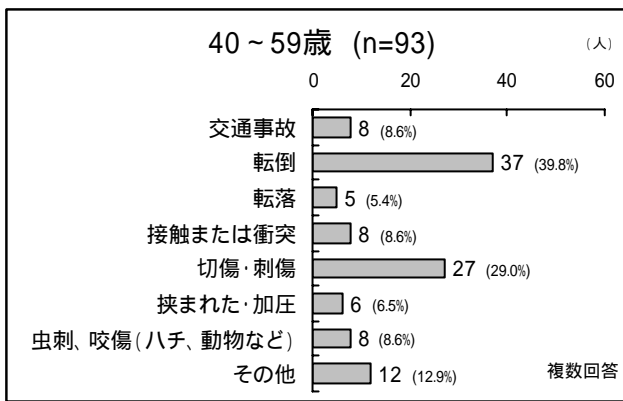
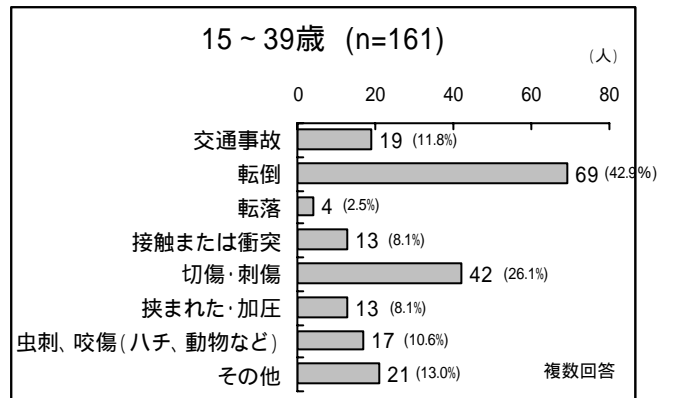
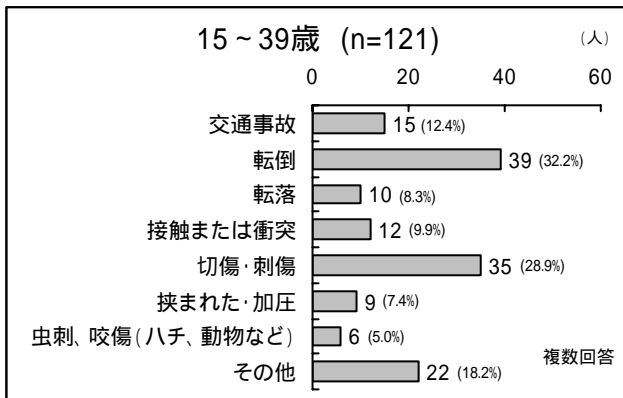
図表 4【2-29】 けがをした原因（自宅外）



図表 5【2-30】 年齢階層別にみたけがをした原因(自宅外)

今回調査結果(平成23年度)

前回調査結果(平成20年度)



過去1年間にけがをした場所

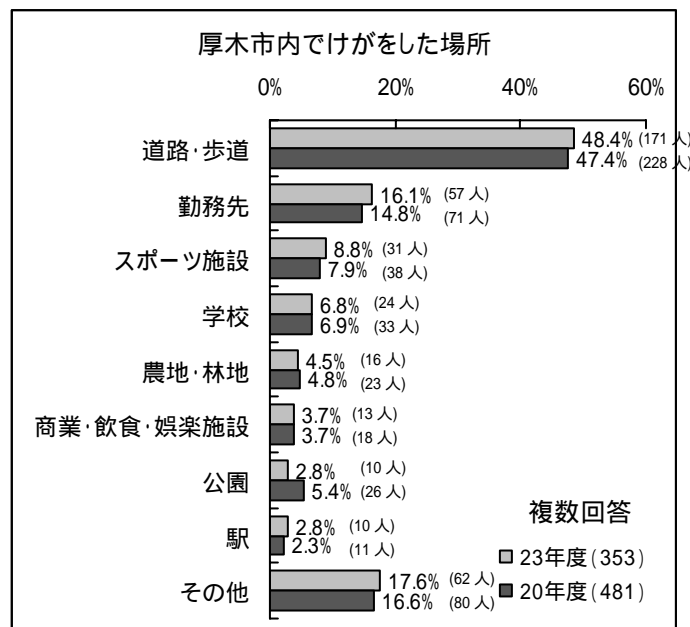
自宅外（市内）で過去1年間にけがをした場所は道路・歩道が最も多く、次いで勤務先でのけがが多い。

- ・前回調査（平成20年度）結果同様、けがをした場所として最も多かったのは道路・歩道であり、前回は47.4%、今回は48.4%と、ほぼ半数近くの割合を占めている。けがの原因として最も多く挙げられたのが転倒だったことから、道路・歩道における転倒が、最も発生しやすいけがの状況であることがうかがえる。

年齢階層別にみても、すべての階層で道路・歩道が最もけがをする人が多い場所であり、その他を除けば、高齢になるほど道路・歩道に回答の割合が集中する。

- ・前回調査結果同様、15～39歳では、勤務先や学校、スポーツ施設でけがをする人が多い傾向にある。

図表 6【2-31】 けがをした場所（自宅外）

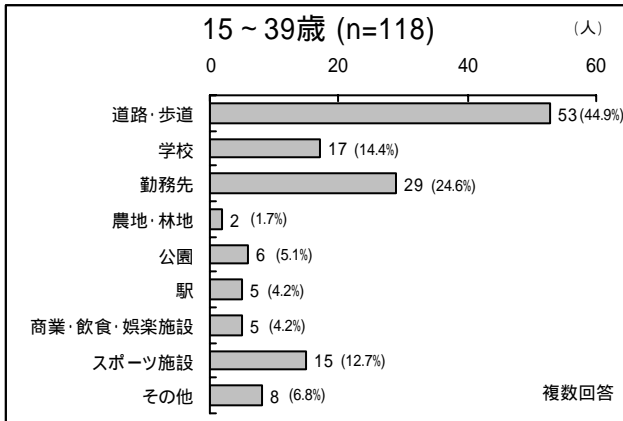


図表 7【2-32】 地区別にみたけがをした場所（自宅外）

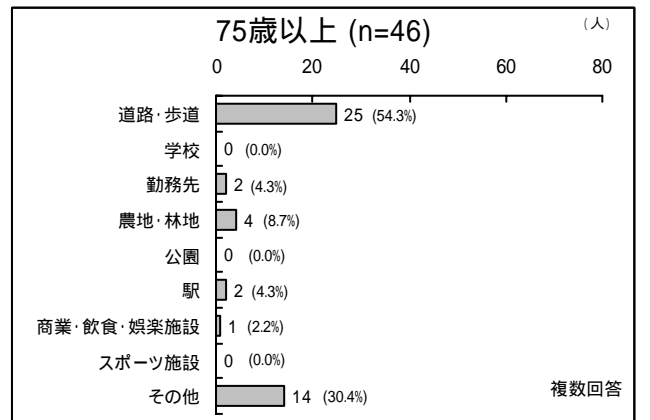
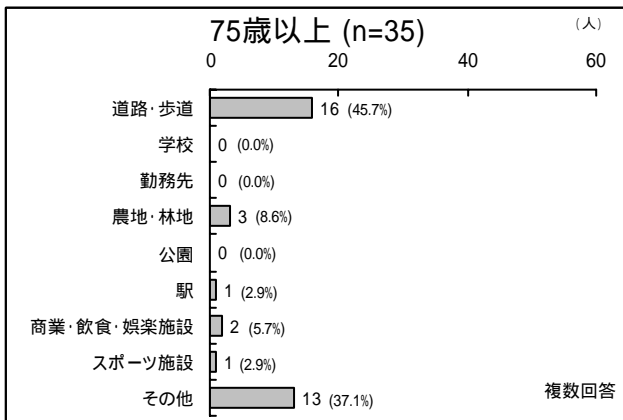
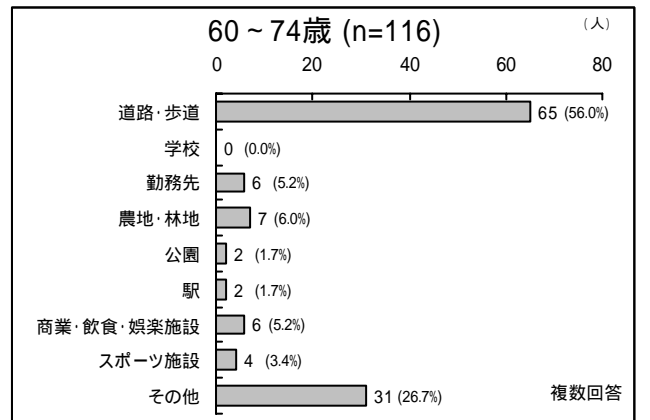
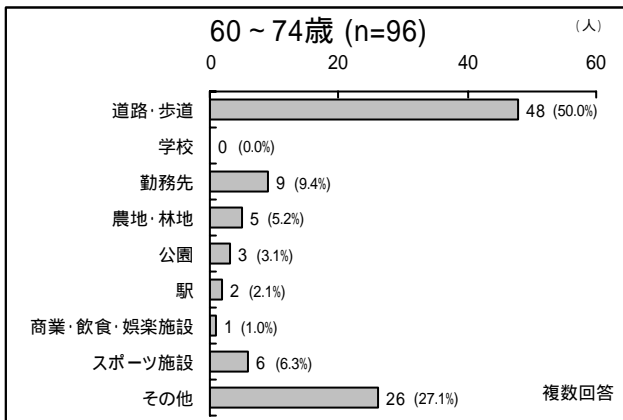
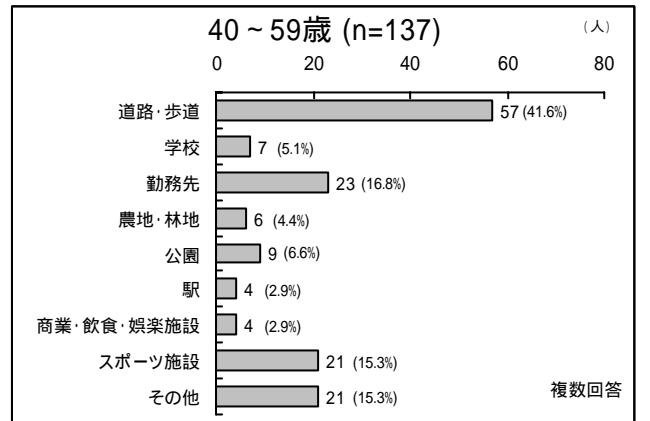
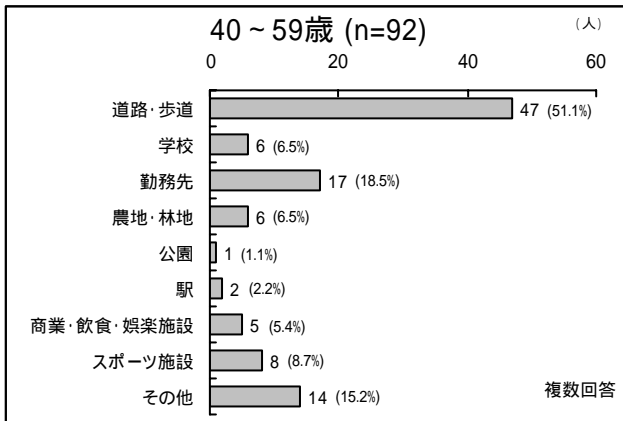
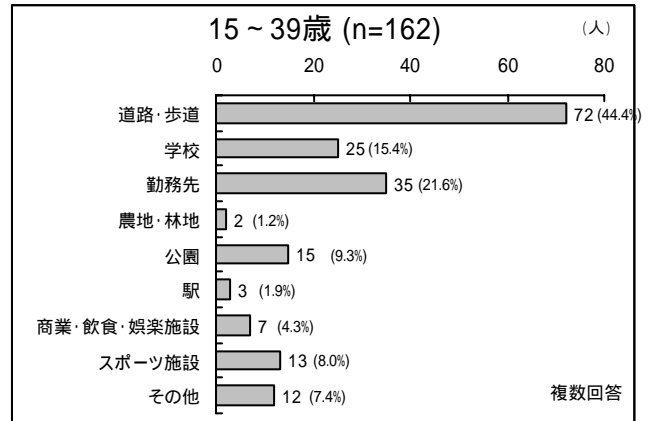
地区	厚木市内でけがをした場所について									
	全体	道路・歩道	学校	勤務先	農地・林地	公園	駅	商業・飲食・娯楽施設	スポーツ施設	その他
合計	353	171	24	57	16	10	10	13	31	62
厚木北	32	16	5	3	0	4	0	1	3	4
厚木南	39	24	3	4	0	1	4	1	5	4
依知北	16	8	2	3	1	1	0	0	0	2
依知南	8	4	0	3	0	0	0	2	1	2
睦合北	13	5	0	3	1	0	1	0	2	4
睦合南	29	11	0	7	1	1	1	1	1	8
睦合西	16	10	1	1	0	0	0	1	1	5
荻野	45	22	2	6	5	0	0	1	4	7
小鮎	21	10	4	4	1	0	0	0	4	4
南毛利	43	20	3	5	3	1	1	3	2	9
南毛利南	6	3	0	1	0	0	0	0	0	2
玉川	8	4	1	3	1	0	0	0	0	0
森の里	21	6	1	6	1	1	1	1	1	4
相川	33	18	2	2	2	0	1	0	6	4
緑ヶ丘	9	4	0	2	0	1	0	0	0	3

図表 8【2-33】 年齢階層別にみたけがをした場所(自宅外)

今回調査結果(平成23年度)



前回調査結果(平成20年度)



2. 自宅での事故やけがの状況

過去1年間の自宅でのけがの状況

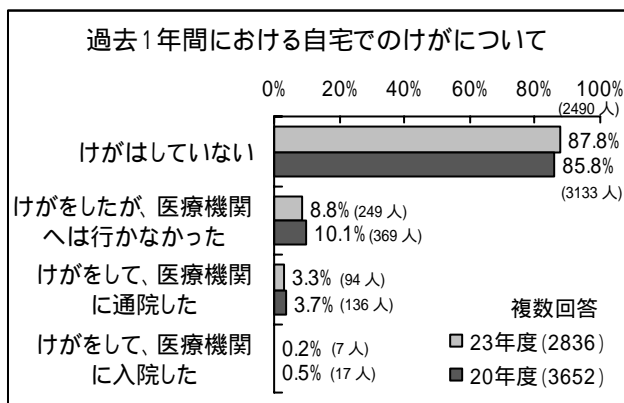
過去1年間に12.3%の人が自宅でけがをしており、そのうち3人に1人が医療機関を利用している。

- ・市全体では12.3%の人がけがをしたと回答しており、3.5%の人が医療機関を利用したと回答した。前回調査（平成20年度）と比較しても、けがをした人のうち医療機関を利用した人の割合は、29.3%から28.9%と若干の減少があるものの、ほぼ同様の結果となった。

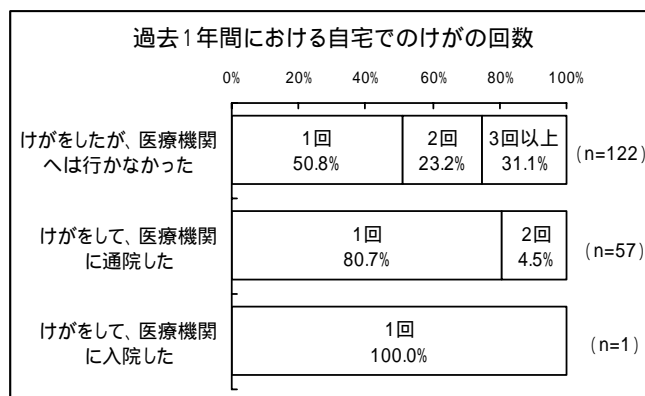
年齢階層別では、前回調査と比較して大きな差はみられないものの、おおむねけがはしていないと答えた人の割合が増加し、けがをしたと答えた人の割合は減少した。

- ・けがをしていないと答えた人が15～39歳で5.8ポイント、40～59歳で1.2ポイント、60～74歳で2.0ポイント増加し、75歳以上では増減なしとなった。
- ・75歳以上の後期高齢者は、前回調査結果において、けがをして通院・入院など医療機関を利用する人の割合が他と比較してやや大きかったが、今回調査でも同様の傾向がみられた。

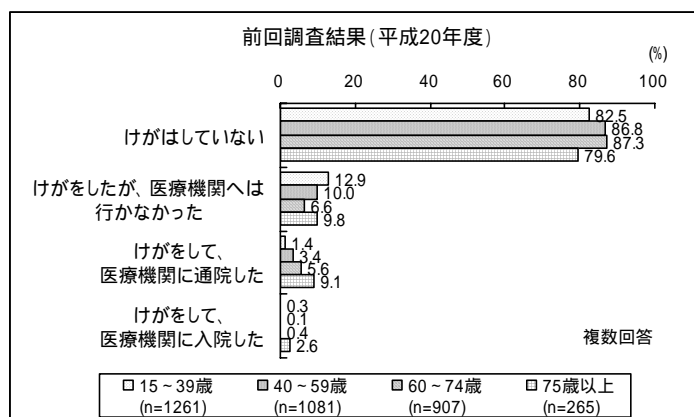
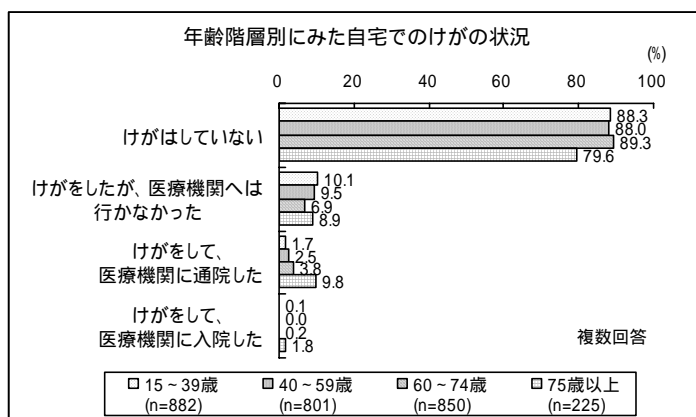
図表 9【2-34】 過去1年間のけがの状況
(自宅)



図表 10【2-35】 けがをした際の医療機関の利用状況 (自宅)



図表 11【2-36】 年齢階層別にみた過去1年間のけがの状況 (自宅)



過去1年間に一番大きなけがをした原因と場所

a. けがをした原因

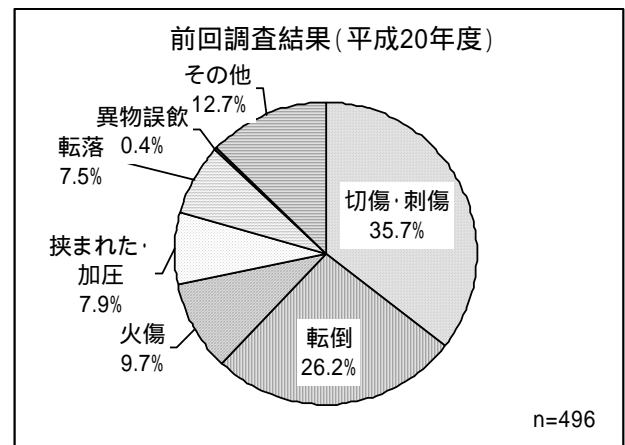
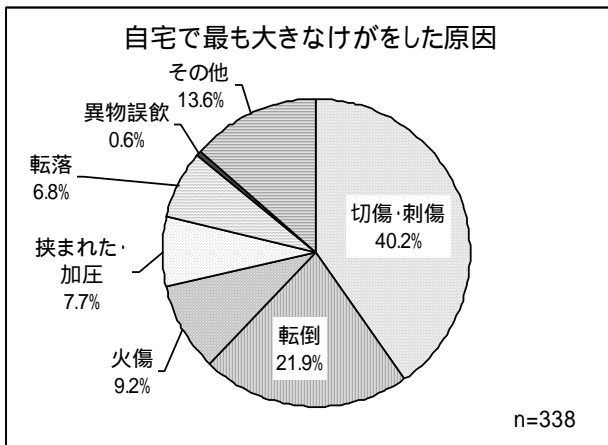
過去1年間のけがの原因として切傷・刺傷が最も多く、次いで転倒、火傷の順となっている。

- ・全体では、自宅でのけがの原因として前回調査（平成20年度）と変わらず切傷・刺傷が最も多く、さらに前回の35.7%から40.2%と4.5ポイントの増加となった。次いで前回同様第2位に転倒によるけがとなっているが、こちらは26.2%から21.9%と4.3ポイントの減少となった。以下、火傷が9.7%から9.2%、挟まれた・加圧が7.9%から7.7%、転落が7.5%から6.8%と、いずれも微減した。

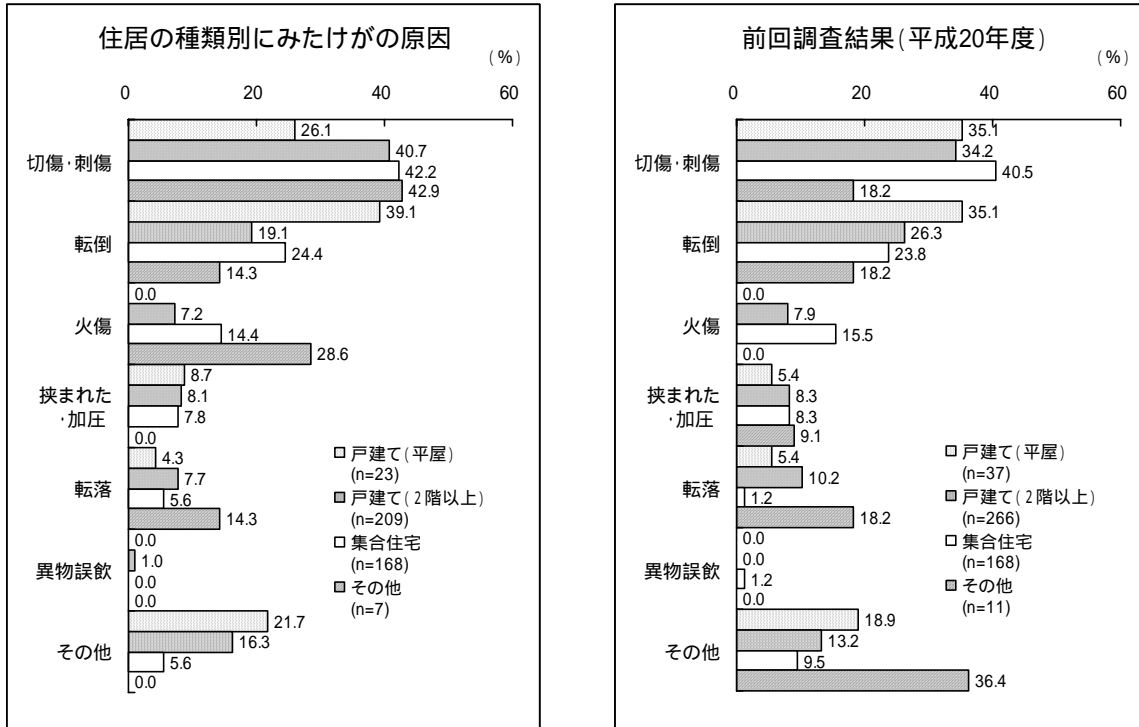
年齢階層別では、前回調査結果で60～74歳のけがの原因として最も多かった転倒が2番目の切傷・刺傷と入れ替わり、40～59歳でも転倒をけがの原因に挙げる人が大幅に減少したが、年齢の若い階層ほど切傷・刺傷がけがの原因となることが多く、年齢の高い世代ほど転倒によるけがが多くなる傾向は、おおむね前回と同様である。

- ・前回調査と比較すると、40～59歳で19.4%を占めていた転倒が10.3%と9.1ポイントの減少となった。また、サンプル数は少ないが、75歳以上ではけがの原因として切傷・刺傷を挙げた人が、前回の3人（6.0%）から8人（19.5%）と増加した。

図表 12【2-37】 けがをした原因（自宅）



図表 13【2-38】 住居の種類別にみたけがをした原因（自宅）



図表 14 住居の種類別にみたけがをした原因（自宅）

今回調査結果（平成 23 年度）

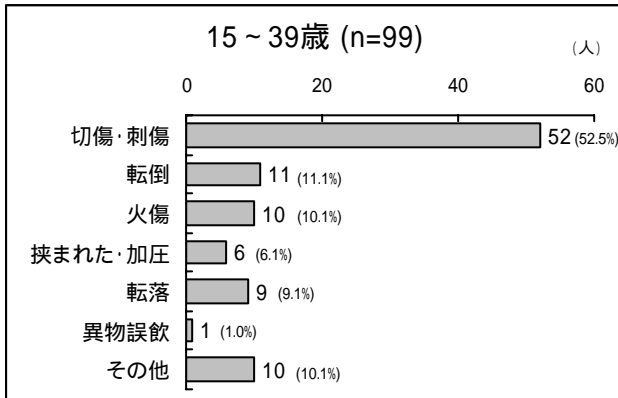
けがをした原因	住居の種類				構成比			
	戸建て(平屋)	戸建て(2階以上)	集合住宅	その他	戸建て(平屋) (n=23)	戸建て(2階以上) (n=209)	集合住宅 (n=168)	その他 (n=7)
切傷・刺傷	6	85	38	3	26.1%	40.7%	42.2%	42.9%
転倒	9	40	22	1	39.1%	19.1%	24.4%	14.3%
火傷	0	15	13	2	0.0%	7.2%	14.4%	28.6%
挟まれた・加圧	2	17	7	0	8.7%	8.1%	7.8%	0.0%
転落	1	16	5	1	4.3%	7.7%	5.6%	14.3%
異物誤飲	0	2	0	0	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%
その他	5	34	5	0	21.7%	16.3%	5.6%	0.0%
計	23	209	90	7	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

前回調査結果(平成 20 年度)

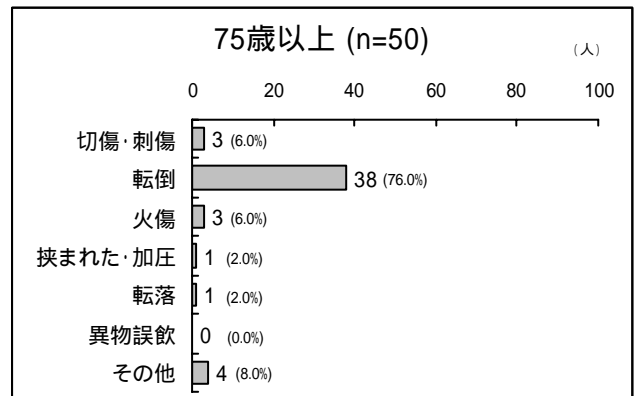
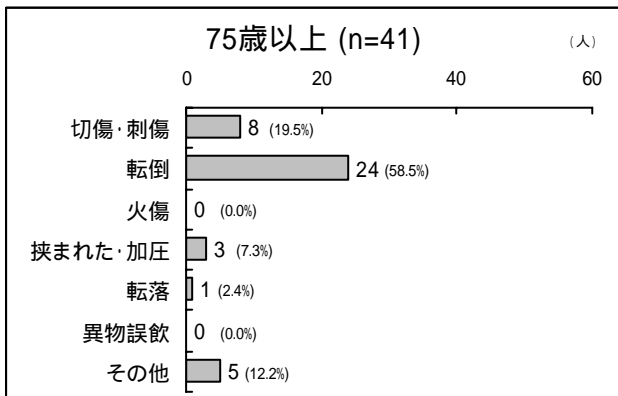
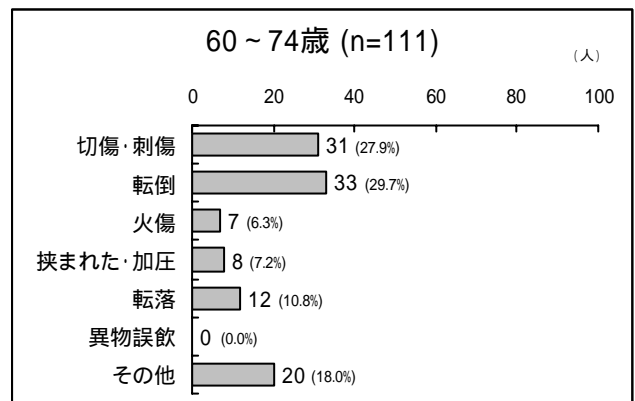
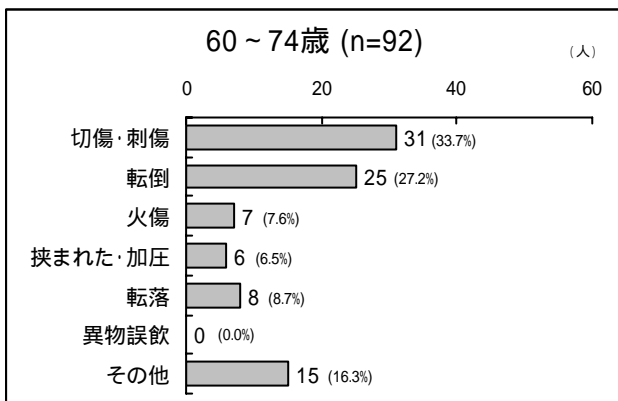
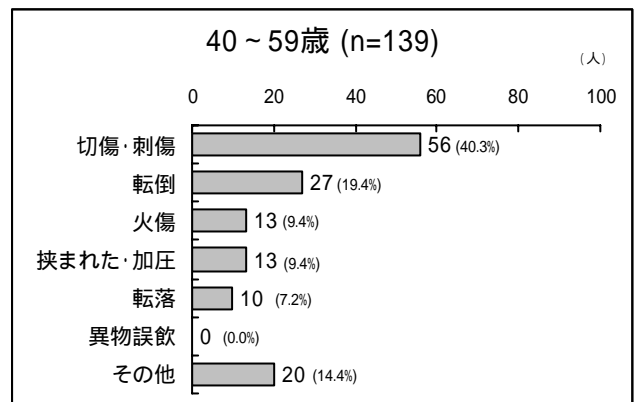
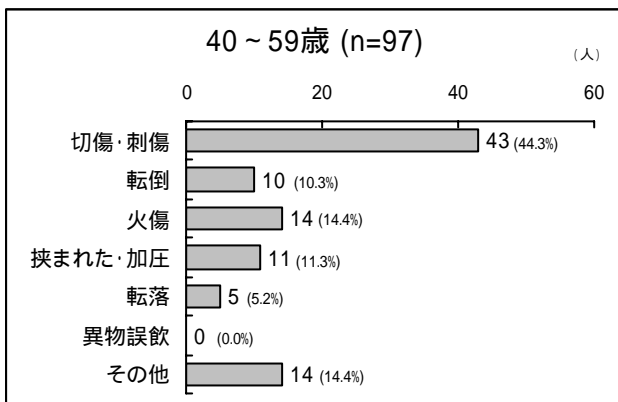
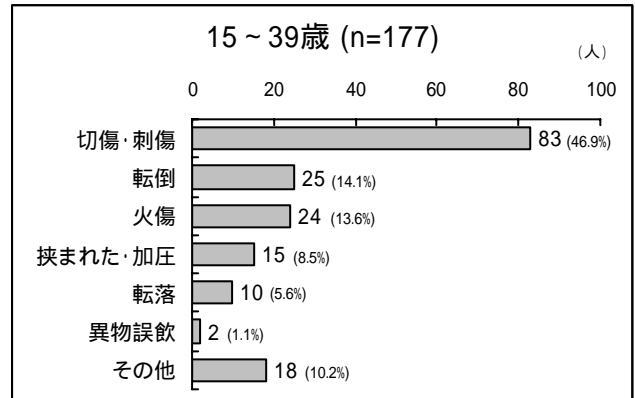
けがをした原因	住居の種類				構成比			
	戸建て(平屋)	戸建て(2階以上)	集合住宅	その他	戸建て(平屋) (n=37)	戸建て(2階以上) (n=266)	集合住宅 (n=168)	その他 (n=11)
切傷・刺傷	13	91	68	2	35.1%	34.2%	40.5%	18.2%
転倒	13	70	40	2	35.1%	26.3%	23.8%	18.2%
火傷	0	21	26	0	0.0%	7.9%	15.5%	0.0%
挟まれた・加圧	2	22	14	1	5.4%	8.3%	8.3%	9.1%
転落	2	27	2	2	5.4%	10.2%	1.2%	18.2%
異物誤飲	0	0	2	0	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%
その他	7	35	16	4	18.9%	13.2%	9.5%	36.4%
計	37	266	168	11	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図表 15【2-39】 年齢階層別別にみたけがの原因（自宅）

今回調査結果（平成 23 年度）



前回調査結果(平成 20 年度)



b. けがをした場所

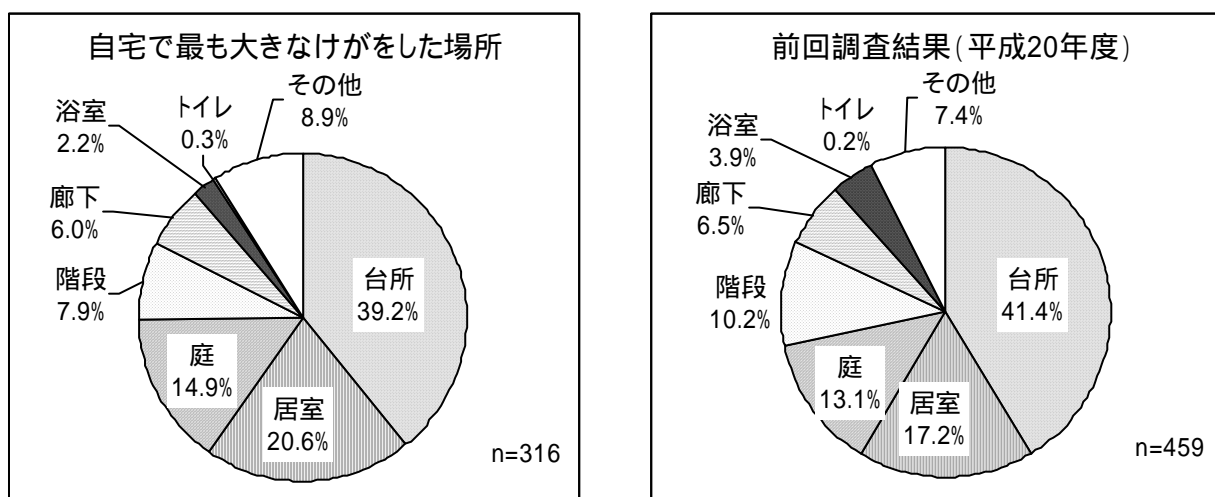
過去1年間のけがをした場所は、前回調査（平成20年度）結果同様、台所が最も多く、次いで居室、庭の順となっている順となっている。

- ・自宅でけがをした場所として、全体では前回調査結果の41.4%から39.2%と2.2ポイントの減少はあったが、台所が最も多かった。
- ・次いで居室が17.2%から20.6%と3.4ポイント増加、庭が13.1%から14.9%と1.8ポイント増加、階段が10.2%から7.9%と2.3ポイント減少と、それぞれ微増減した。

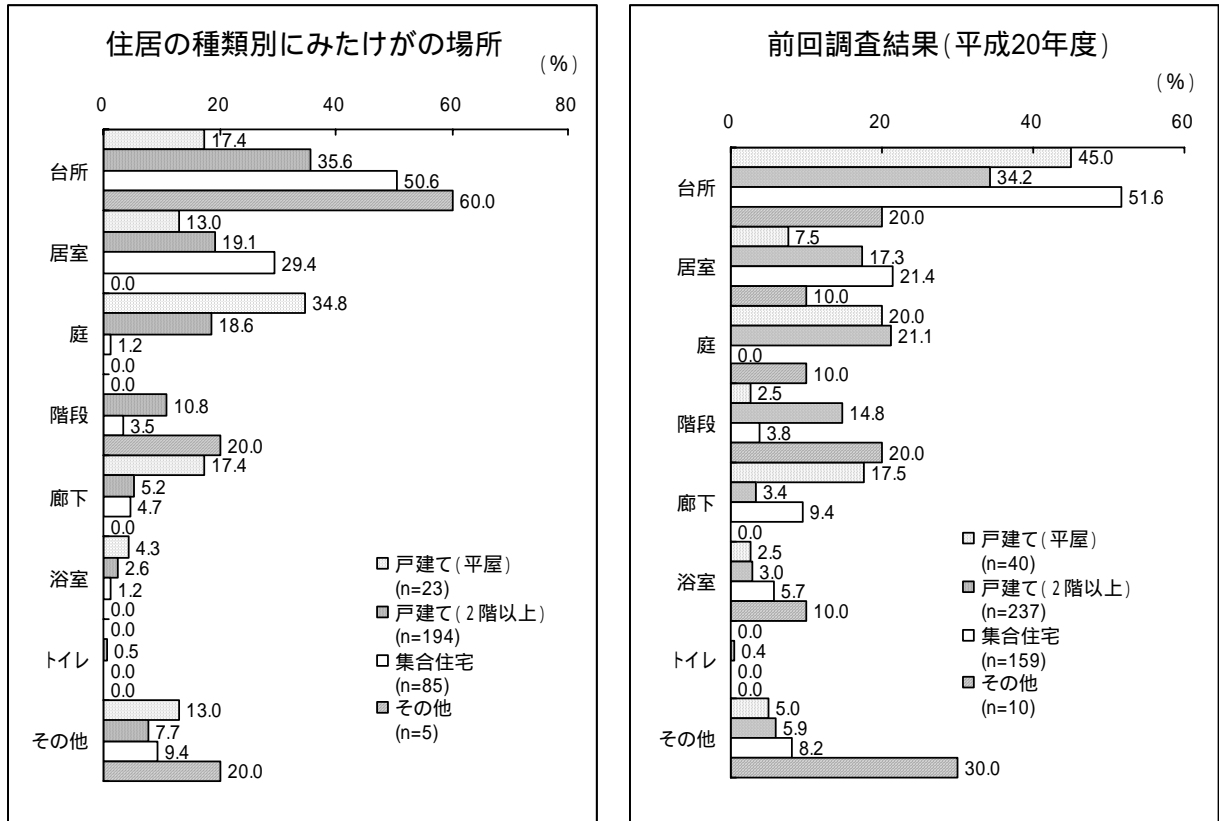
年齢階層別では、けがをした場所は74歳以下で台所が最も多く、けがをした場所として居室が2番目に多いのは59歳以下の階層となった。60～74歳の階層においては、庭が2番目に多い割合を占め、さらに75歳以上では庭がけがをした場所として最も大きな割合を占めている。

- ・年齢階層別では、全体で最もけがをした場所として割合の大きかった台所が、15～39歳で47.7%、40～59歳で47.7%、60～74歳で30.9%と、3つの階層で第1位となったが、75歳以上では14.7%と、台所は第4位となった。前回調査と比較しても、年齢階層が低いほど、台所、居室でのけがの割合が大きくなり、年齢階層が高くなるほどけがをする場所の偏りが小さくなる傾向は変わらないが、60～74歳と75歳以上で、前回2番目に大きい割合となっていた庭が、60～74歳では前回同様2位ではあるものの、22.2%から25.9%と3.7ポイント増加し、75歳以上では前回の2位から1位となった上、22.7%から29.4%と6.7ポイント増加した。さらに、前回調査結果との変化がみられる項目として、60歳～74歳で前回3位の階段が、16.2%から4.9%と11.3ポイント割合を下げた。

図表 16【2-40】 けがをした場所（自宅）



図表 17【2-41】 住居の種類別にみたけがをした場所（自宅）



図表 18 住居の種類別にみたけがをした場所（自宅）

今回調査結果（平成 23 年度）

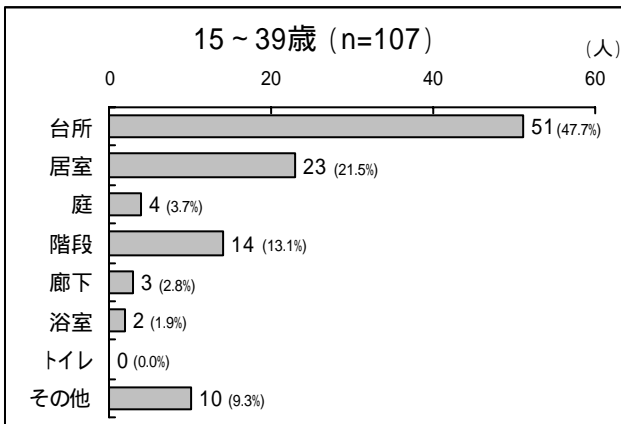
けがをした場所	住居の種類				構成比			
	戸建て(平屋)	戸建て(2階以上)	集合住宅	その他	戸建て(平屋) (n=23)	戸建て(2階以上) (n=194)	集合住宅 (n=85)	その他 (n=5)
台所	4	69	43	3	17.4%	35.6%	50.6%	60.0%
居室	3	37	25	0	13.0%	19.1%	29.4%	0.0%
庭	8	36	1	0	34.8%	18.6%	1.2%	0.0%
階段	0	21	3	1	0.0%	10.8%	3.5%	20.0%
廊下	4	10	4	0	17.4%	5.2%	4.7%	0.0%
浴室	1	5	1	0	4.3%	2.6%	1.2%	0.0%
トイレ	0	1	0	0	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%
その他	3	15	8	1	13.0%	7.7%	9.4%	20.0%
計	23	194	85	5	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

前回調査結果(平成 20 年度)

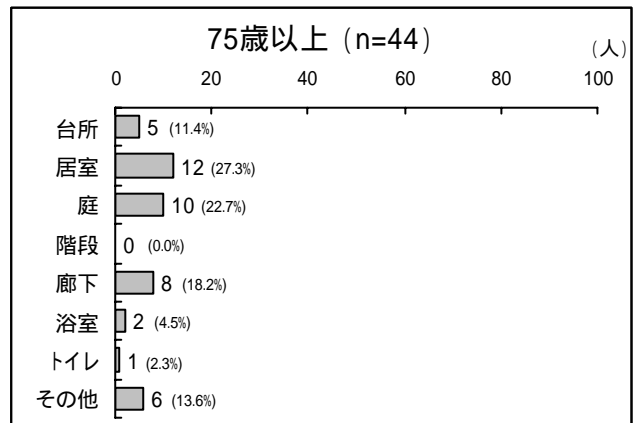
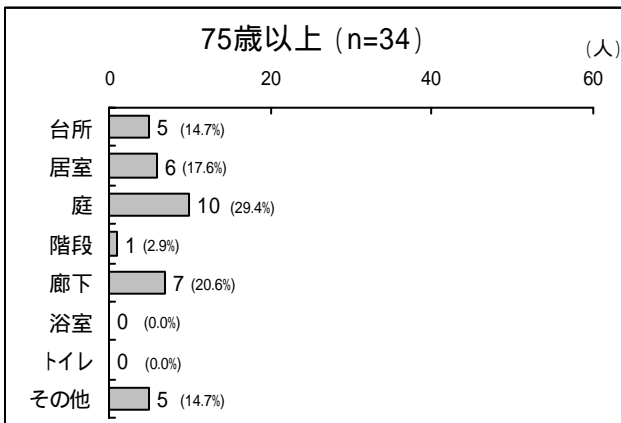
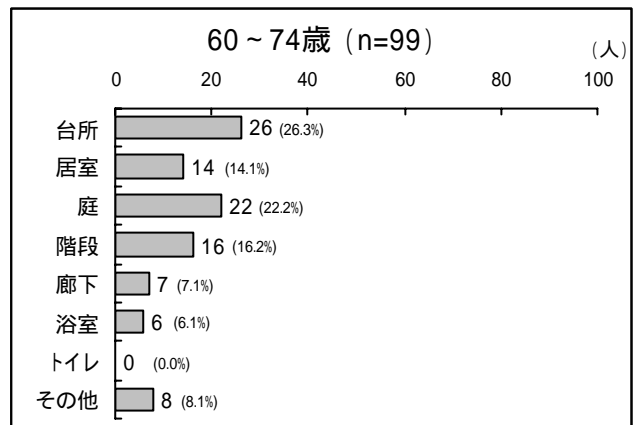
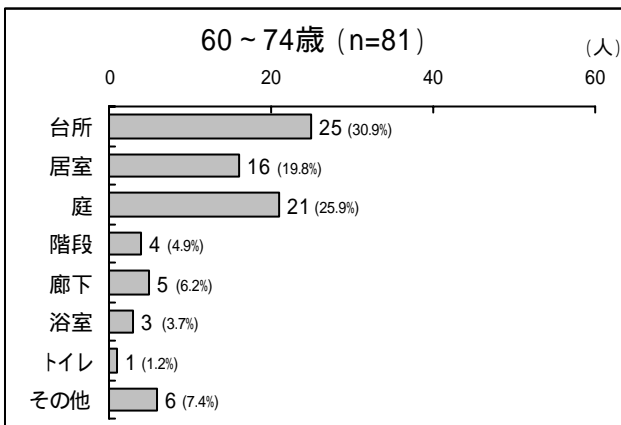
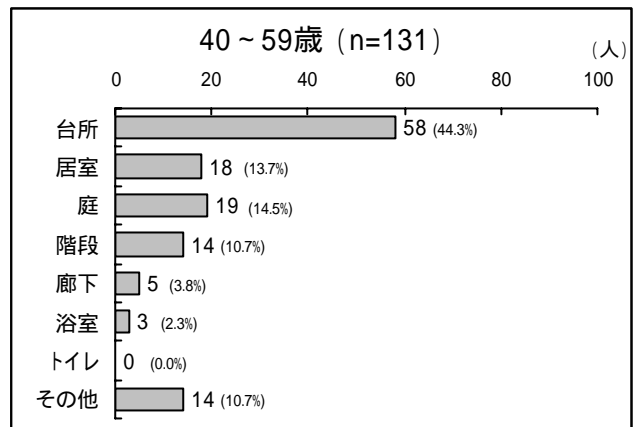
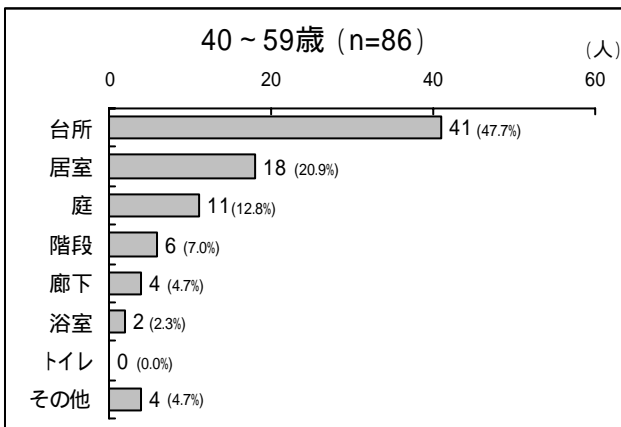
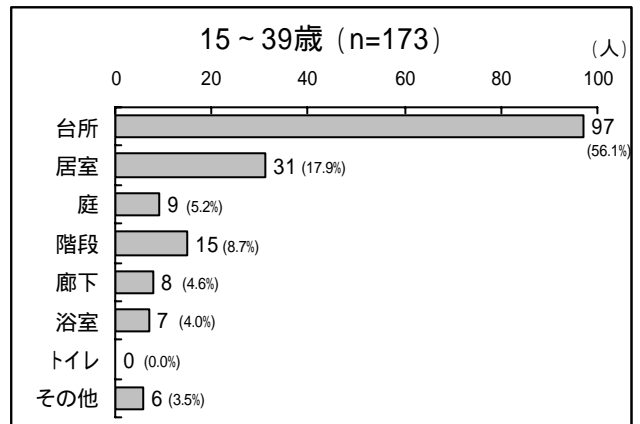
けがをした場所	住居の種類				構成比			
	戸建て(平屋)	戸建て(2階以上)	集合住宅	その他	戸建て(平屋) (n=40)	戸建て(2階以上) (n=237)	集合住宅 (n=159)	その他 (n=10)
台所	18	81	82	2	45.0%	34.2%	51.6%	20.0%
居室	3	41	34	1	7.5%	17.3%	21.4%	10.0%
庭	8	50	0	1	20.0%	21.1%	0.0%	10.0%
階段	1	35	6	2	2.5%	14.8%	3.8%	20.0%
廊下	7	8	15	0	17.5%	3.4%	9.4%	0.0%
浴室	1	7	9	1	2.5%	3.0%	5.7%	10.0%
トイレ	0	1	0	0	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%
その他	2	14	13	3	5.0%	5.9%	8.2%	30.0%
計	40	237	159	10	100.0	100.0	100.0	100.0

図表 19【2-42】 年齢階層別別にみたけがをした場所（自宅）

今回調査結果（平成 23 年度）



前回調査結果(平成 20 年度)



c . けがをした場所とけがの原因の関係

転倒では前回調査（平成 20 年度）結果から変化がみられ、前回 2 位の廊下が 3 位に、前回 3 位の庭が 2 位となった。切傷・刺傷は前回調査結果同様、台所でのけがが上位を占めた。

- ・転倒でのけがの場所、2 位、3 位の変動に関しては、前回、廊下で転倒してけがをしたと答えた人が 24 人、庭が 15 人だったところ、今回調査結果では、庭が 15 人、廊下が 8 人と順位だけでなく回答者数も大きく入れ替わった。
- ・この他、火傷は台所、転落は階段、挟まれた・加圧は居室など、前回調査結果とほぼ同様の結果が得られた。

図表 20【2-43】 けがをした場所とけがの原因との関係

今回調査結果（平成 23 年度）

順位	項目	上位3箇所				
		転倒	転落	切傷・刺傷	挟まれた・加圧	火傷
1位	けがをした場所	居室	階段	台所	居室	台所
	回答数	21	13	82	11	26
2位	けがをした場所	庭	庭	庭	廊下	居室
	回答数	15	3	13	3	2
3位	けがをした場所	廊下	居室	居室	台所、庭	庭
	回答数	8	2	11	2(同数)	1

前回調査結果(平成 20 年度)

順位	項目	上位3箇所				
		転倒	転落	切傷・刺傷	挟まれた・加圧	火傷
1位	けがをした場所	居室	階段	台所	居室	台所
	回答数	31	26	124	14	38
2位	けがをした場所	廊下	居室、庭	庭	台所	居室
	回答数	24	2(同数)	15	5	4
3位	けがをした場所	庭	台所	居室	廊下	廊下、庭
	回答数	15	1	9	3	1(同数)

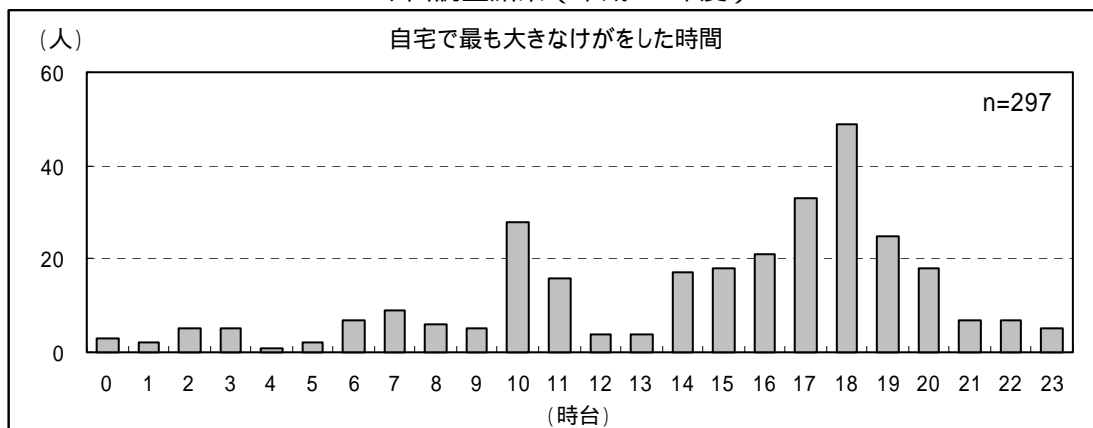
時間帯別に見たけがの状況

過去1年間に一番大きなけがをした時間として、夕方の時間帯が多い。

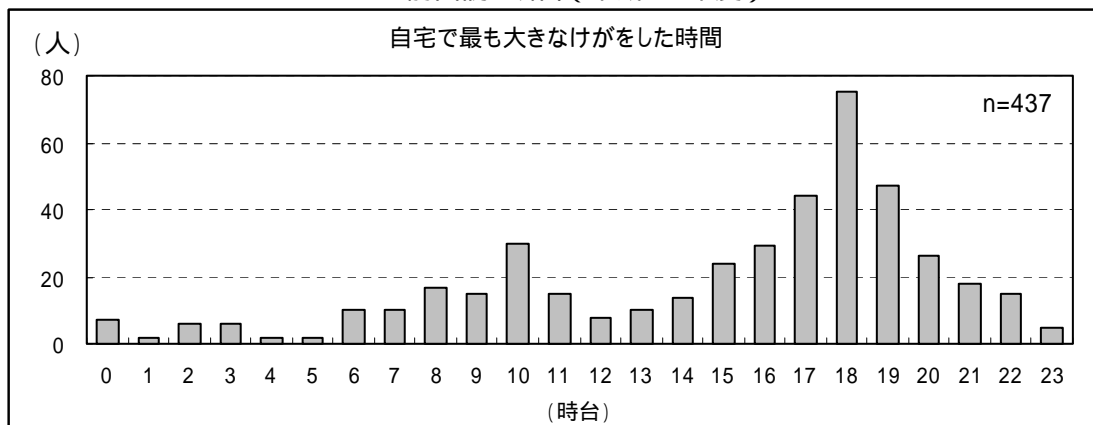
- ・自宅だけけがをした時間帯をみると、全体では夕方の時間帯、特に18時台とその前後の時間帯に集中しており、この傾向は前回調査（平成20年度）と比較しても同様である。
- ・前回調査同様、午前中にけがをしたと答えた人は、夕方と比較すると少ないが、午前中では10時台にけがをした人が他の時間帯に比べて多い。
- ・女性では、前回調査同様17時～19時台にけがをする人の割合が圧倒的に多く、合わせて44.2%と、前回調査の49.1%からは4.9ポイント減少したものの、約半数がこの時間帯に集中している。
- ・この他、前回調査と比較して変化が見られた点は、23～5時台と20～22時台に転倒してけがをしたと答えた人がそれぞれ、23～5時台で21人から6人に、20～22時台で20人から4人へと減少した。全体のサンプル数減により、その外の時間帯でも一定の増減はみられるが、23～5時台と20～22時台での転倒によるけがの減少は顕著である。

図表 21【2-44】 年齢階層別別にみたけがをした場所（自宅）

今回調査結果（平成23年度）



前回調査結果(平成20年度)



図表 22【2-45】 男女別にみたけがをした時間帯（自宅）

今回調査結果（平成 23 年度）

けがをした時間帯	性別		構成比	
	男性	女性	男性	女性
0時	1	2	0.9%	1.1%
1時	0	2	0.0%	1.1%
2時	3	2	2.7%	1.1%
3時	2	3	1.8%	1.7%
4時	1	0	0.9%	0.0%
5時	0	2	0.0%	1.1%
6時	1	6	0.9%	3.4%
7時	5	4	4.5%	2.2%
8時	3	3	2.7%	1.7%
9時	1	4	0.9%	2.2%
10時	17	11	15.2%	6.1%
11時	3	12	2.7%	6.7%
12時	1	3	0.9%	1.7%
13時	0	4	0.0%	2.2%
14時	11	6	9.8%	3.4%
15時	9	7	8.0%	3.9%
16時	8	13	7.1%	7.3%
17時	8	25	7.1%	14.0%
18時	11	37	9.8%	20.7%
19時	7	17	6.3%	9.5%
20時	10	7	8.9%	3.9%
21時	1	6	0.9%	3.4%
22時	5	2	4.5%	1.1%
23時	4	1	3.6%	0.6%

前回調査結果（平成 20 年度）

けがをした時間帯	性別		構成比	
	男性	女性	男性	女性
0時	5	2	3.2%	0.8%
1時	0	2	0.0%	0.8%
2時	1	4	0.6%	1.5%
3時	1	5	0.6%	1.9%
4時	0	2	0.0%	0.8%
5時	1	1	0.6%	0.4%
6時	3	7	1.9%	2.6%
7時	4	6	2.6%	2.3%
8時	7	10	4.5%	3.8%
9時	5	8	3.2%	3.0%
10時	17	12	10.9%	4.5%
11時	8	7	5.1%	2.6%
12時	6	1	3.8%	0.4%
13時	5	5	3.2%	1.9%
14時	6	6	3.8%	2.3%
15時	14	9	9.0%	3.4%
16時	9	19	5.8%	7.2%
17時	6	37	3.8%	14.0%
18時	17	57	10.9%	21.5%
19時	11	36	7.1%	13.6%
20時	13	12	8.3%	4.5%
21時	10	5	6.4%	1.9%
22時	5	9	3.2%	3.4%
23時	2	3	1.3%	1.1%

44.2%

49.1%

図表 23【2-46】 時間帯別にみたけがをした原因（自宅）

今回調査結果（平成 23 年度）

けがをした時間帯	けがをした原因						
	転倒	転落	切傷・刺傷	挟まれた・加圧	火傷	異物誤飲	その他
23～5時台	6	4	5	1	2	0	4
6～8時台	4	2	3	4	1	0	7
9～11時台	22	5	6	2	1	0	8
12～15時台	10	4	16	1	2	0	4
16～19時台	15	3	72	9	18	0	5
20～22時台	4	3	7	3	3	1	8
計	61	21	109	20	27	1	36

前回調査結果（平成 20 年度）

けがをした時間帯	けがをした原因						
	転倒	転落	切傷・刺傷	挟まれた・加圧	火傷	異物誤飲	その他
23～5時台	21	2	2	1	2	0	2
6～8時台	8	4	2	4	3	0	13
9～11時台	19	8	13	3	2	0	12
12～15時台	8	6	16	5	5	1	11
16～19時台	26	4	106	10	27	0	10
20～22時台	20	8	16	7	2	0	4
計	102	32	155	30	41	1	52

3. こども（15歳未満）の事故やけがの状況

自宅外（市内）でのけがの状況

15歳未満のこどもがいる世帯の38.0%が自宅外（市内）において何らかのけがをしており、特に道路や歩道での転倒や学校でのけがが多い。両者の違いとして、道路や歩道での転倒の場合、医療機関を利用したと回答した人の割合は小さく、学校でのけがの場合、けがをして医療機関に行ったと答えた人の割合が大きくなることが挙げられる。

- ・けがの状況を見ると、「道路や歩道を走っていて転倒」が12.3%と前回の17.6%から5.3ポイント減少はしたが、前回調査（平成20年度）結果と同様に最も大きな割合を占め、次いで「学校でのけが・事故」が11.7%とこちらも前回の13.6%から1.9ポイントの減少はみられたものの、2番目に大きい割合となった。
- ・年齢階層別にみると、「道路や歩道を走っていて転倒」と回答したのは、前回調査結果同様11歳以下に集中している。元々、幼年期のこどもが走っていて転倒し、医療機関を利用するほどのけがを負う状況はそう多くないと言えるが、転倒によるけがは年齢階層が低いほど大人が近くにいる状態で発生しており、こどもが転倒しけがをしたとしても、親を含めた大人が何らかの処置を行っているものと推察される。反対に「学校でのけが・事故」と回答したのは、クラブ活動など、身体活動が活発になる6～15歳未満の高い年齢階層に集中しており、大人がいるとしないにかかわらず、けがをした結果、医療機関を利用したと答えた人の割合が大きくなっている。

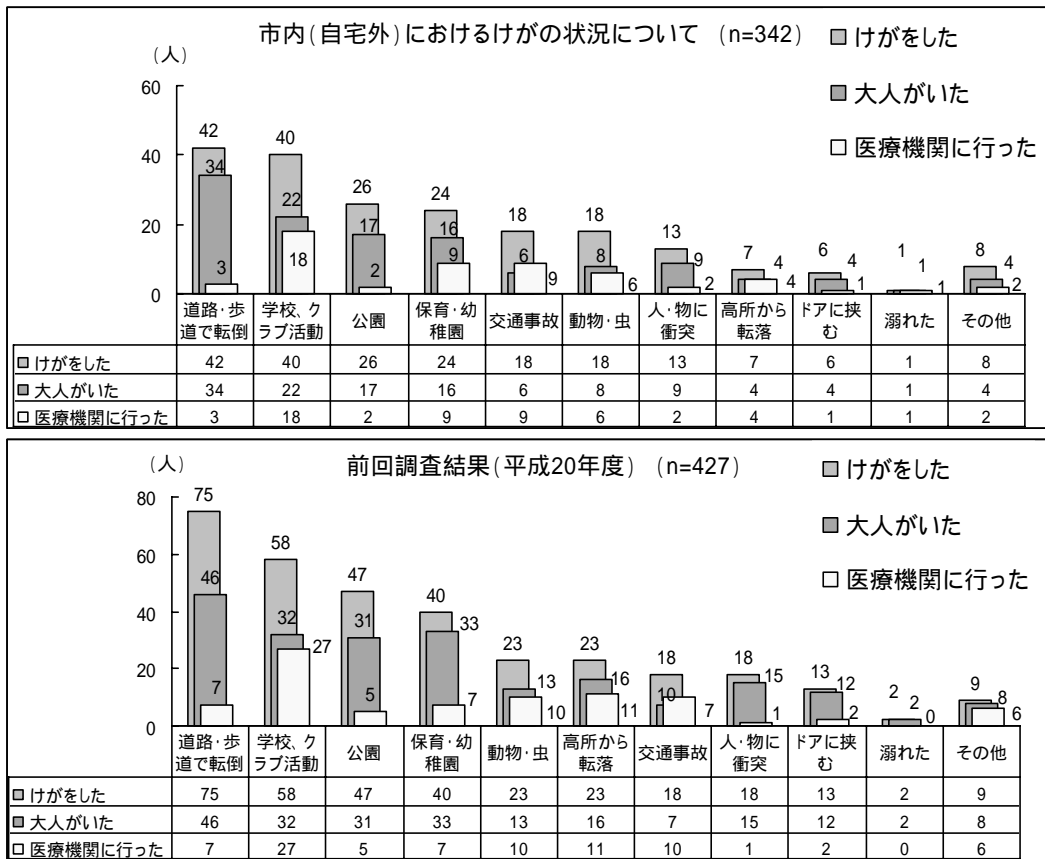
図表 24-1【2-47】 けがの状況（厚木市内）
今回調査結果（平成23年度）

けがをした状況	回答数			構成比	構成比(けがをした)	
	けがをした	大人がいた	医療機関に行った		けがをした	大人がいた 医療機関 に行った
道路や歩道を走っていて転倒	42	34	3	12.3%	81.0%	7.1%
学校でのけが・事故(クラブ活動中なども含む)	40	22	18	11.7%	55.0%	45.0%
公園(ブランコ・すべり台・鉄棒)でのけが	26	17	2	7.6%	65.4%	7.7%
保育園・幼稚園でのけが・事故	24	16	9	7.0%	66.7%	37.5%
交通事故(単独、自転車・自動車の乗車中)	18	6	9	5.3%	33.3%	50.0%
動物や虫などによるけが	18	8	6	5.3%	44.4%	33.3%
人や物(例:電柱等)に衝突	13	9	2	3.8%	69.2%	15.4%
階段や高所からの転落	7	4	4	2.0%	57.1%	57.1%
建物や車両などのドアに挟まれたけが	6	4	1	1.8%	66.7%	16.7%
海や川、プールなどでの溺水	1	1	1	0.3%	100.0%	100.0%
その他	8	4	2	2.3%	50.0%	25.0%
けがはしていない	212			62.0%		

前回調査結果(平成20年度)

けがをした状況	回答数			構成比	構成比(けがをした)	
	けがをした	大人がいた	医療機関に行った		けがをした	大人がいた 医療機関 に行った
道路や歩道を走っていて転倒	75	46	7	17.6%	61.3%	9.3%
学校でのけが・事故(クラブ活動中なども含む)	58	32	27	13.6%	55.2%	46.6%
公園(ブランコ・すべり台・鉄棒)でのけが	47	31	5	11.0%	66.0%	10.6%
保育園・幼稚園でのけが・事故	40	33	7	9.4%	82.5%	17.5%
動物や虫などによるけが	23	13	10	5.4%	56.5%	43.5%
階段や高所からの転落	23	16	11	5.4%	69.6%	47.8%
交通事故(単独、自転車・自動車の乗車中)	18	7	10	4.2%	38.9%	55.6%
人や物(例:電柱等)に衝突	18	15	1	4.2%	83.3%	5.6%
建物や車両などのドアに挟まれたけが	13	12	2	3.0%	92.3%	15.4%
海や川、プールなどでの溺水	2	2	0	0.5%	100.0%	0.0%
その他	9	8	6	2.1%	88.9%	66.7%
けがはしていない	239			56.0%		

図表 24-2 けがの状況（厚木市内）



図表 25-1【2-48,49】 年齢階層別にみたけがの状況（厚木市内）

今回調査結果（平成 23 年度）

前回調査結果(平成 20 年度)

(0～2歳) n=84

けがをした状況	回答数			構成比
	けがをした	大人がいた	医療機関に行った	
道路・歩道で転倒	14	14	1	17.3%
保育・幼稚園	5	3	3	6.2%
高所から転落	4	2	2	4.9%
公園	3	3	1	3.7%
動物・虫	2	2	1	2.5%
人・物に衝突	2	2	0	2.5%
交通事故	1	1	1	1.2%
溺れた	0	0	0	0.0%
ドアに挟む	0	0	0	0.0%
学校、クラブ活動中	0	0	0	0.0%
その他	3	2	1	3.7%
けがはしていない	56			69.1%

(0～2歳) n=124

けがをした状況	回答数			構成比
	けがをした	大人がいた	医療機関に行った	
道路・歩道で転倒	20	18	2	16.1%
公園	16	15	1	12.9%
高所から転落	8	6	3	6.5%
保育・幼稚園	8	7	1	6.5%
交通事故	3	1	1	2.4%
動物・虫	3	3	3	2.4%
人・物に衝突	3	3	0	2.4%
ドアに挟む	3	3	0	2.4%
溺れた	1	1	0	0.8%
学校、クラブ活動中	1	1	0	0.8%
その他	2	2	1	1.6%
けがはしていない	85			68.5%

(3～5歳) n=63

けがをした状況	回答数			構成比
	けがをした	大人がいた	医療機関に行った	
道路・歩道で転倒	17	14	2	27.0%
公園	13	11	0	20.6%
保育・幼稚園	11	9	5	17.5%
動物・虫	6	4	0	9.5%
学校、クラブ活動中	6	2	1	9.5%
人・物に衝突	4	4	0	6.3%
ドアに挟む	3	3	0	4.8%
交通事故	2	2	1	3.2%
高所から転落	2	1	1	3.2%
溺れた	0	0	0	0.0%
その他	2	1	0	3.2%
けがはしていない	25			39.7%

(3～5歳) n=78

けがをした状況	回答数			構成比
	けがをした	大人がいた	医療機関に行った	
道路・歩道で転倒	21	20	1	26.9%
保育・幼稚園	21	18	4	26.9%
動物・虫	11	7	4	14.1%
人・物に衝突	11	10	1	14.1%
公園	8	7	0	10.3%
ドアに挟む	8	8	1	10.3%
高所から転落	5	5	1	6.4%
学校、クラブ活動中	3	3	2	3.8%
交通事故	2	1	0	2.6%
溺れた	1	1	0	1.3%
その他	3	3	2	3.8%
けがはしていない	28			35.9%

すべて「けがをした」の回答数が多い順

図表 25-2【2-48,49】 年齢階層別にみたけがの状況（厚木市内）

今回調査結果（平成 23 年度）

(6～11歳) n=103

けがをした状況	回答数			構成比
	けがをした	大人がい	医療機関	
学校、クラブ活動中	22	11	6	21.4%
道路・歩道で転倒	11	6	0	10.7%
公園	10	3	1	9.7%
交通事故	8	3	2	7.8%
動物・虫	8	1	3	7.8%
保育・幼稚園	8	4	1	7.8%
人・物に衝突	6	2	1	5.8%
ドアに挟む	3	1	1	2.9%
高所から転落	1	1	1	1.0%
溺れた	0	0	0	0.0%
その他	1	0	0	1.0%
けがはしていない	57			55.3%

(12～15歳未満) n=37

けがをした状況	回答数			構成比
	けがをした	大人がい	医療機関	
学校、クラブ活動中	9	7	9	24.3%
交通事故	2	0	1	5.4%
動物・虫	2	1	2	5.4%
溺れた	1	1	1	2.7%
道路・歩道で転倒	0	0	0	0.0%
公園	0	0	0	0.0%
人・物に衝突	0	0	0	0.0%
高所から転落	0	0	0	0.0%
ドアに挟む	0	0	0	0.0%
保育・幼稚園	0	0	0	0.0%
その他	1	1	1	2.7%
けがはしていない	25			67.6%

前回調査結果(平成 20 年度)

(6～11歳) n=145

けがをした状況	回答数			構成比
	けがをした	大人がい	医療機関	
道路・歩道で転倒	31	9	4	21.4%
学校、クラブ活動中	30	15	10	20.7%
公園	20	7	3	13.8%
保育・幼稚園	10	8	1	6.9%
交通事故	8	3	5	5.5%
動物・虫	6	3	2	4.1%
高所から転落	6	3	4	4.1%
人・物に衝突	4	2	0	2.8%
ドアに挟む	1	0	0	0.7%
溺れた	0	0	0	0.0%
その他	4	3	3	2.8%
けがはしていない	78			53.8%

(12～15歳未満) n=65

けがをした状況	回答数			構成比
	けがをした	大人がい	医療機関	
学校、クラブ活動中	20	11	13	30.8%
交通事故	5	2	4	7.7%
道路・歩道で転倒	3	1	0	4.6%
動物・虫	3	0	1	4.6%
公園	1	0	0	1.5%
高所から転落	1	0	1	1.5%
保育・幼稚園	1	0	1	1.5%
溺れた	0	0	0	0.0%
人・物に衝突	0	0	0	0.0%
ドアに挟む	0	0	0	0.0%
その他	0	0	0	0.0%
けがはしていない	38			58.5%

すべて「けがをした」の回答数が多い順

自宅でのけがの状況

15歳未満の子どもがいる世帯の29.8%が、自宅において何らかのけがをしており、特に家具などに体をぶつけるなどの衝突と、ベットや椅子からの転落によるけがが多い。

- ・ 前回調査（平成20年度）と比較すると、15歳未満の子どもがいる世帯全体では、過去1年間に29.8%が自宅でけがをしており、前回調査結果の38.8%から9.0ポイント減少した。自宅でのけがの状況として「家具や物に体をぶつけるなどの衝突」と「ベットや椅子などから転落」が、前回調査結果と同様に上位2位を占めている。
- ・ 年齢階層別に比較すると、「家具や物に体をぶつけるなどの衝突」はすべての年齢階層で最も多く発生する状況となっており、前回調査と同様の結果となった。「ベットや椅子などから転落」に関しては、子どもが0～2歳の年齢階層で最も多く現れるけがの状況であるが、その他の階層では前回調査結果と同様に順位を下げ、年齢が高くなるほど、発生しにくくなる傾向が見える。逆に、年齢の高い階層では、「刃物や鋭利なものによるけが」や「火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど」などがけがの状況として現れている。12～15歳未満の階層では、自宅でけがをしたと回答した人は前回で7.1%、今回調査でも12.9%と低い割合となっており、子どもの年齢が高くなるほど、自宅でけがをするリスクは低くなると言える。

図表 26-1【2-50】 けがの状況（自宅）

今回調査結果（平成23年度）

n=322

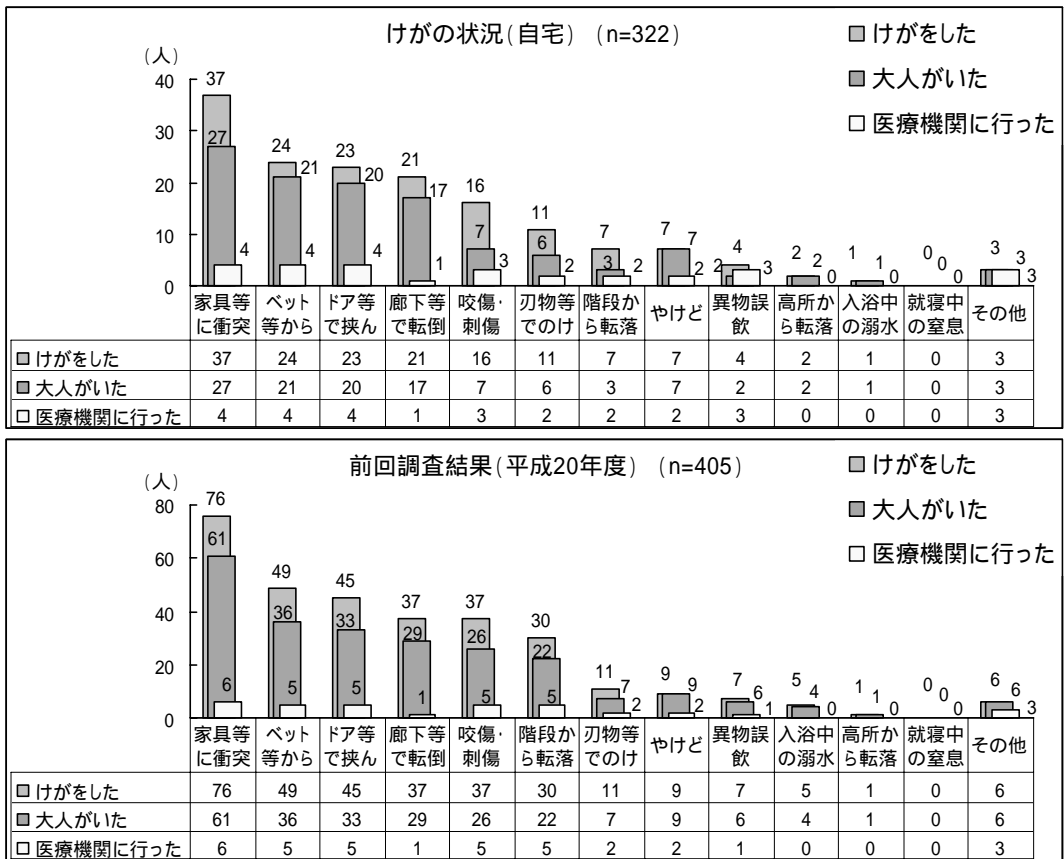
けがをした状況	回答数			構成比 けがをした た	構成比(けがをした)	
	けがをし た	大人がい た	医療機関 に行った		大人がい た	医療機関 に行った
家具や物に体をぶつけるなどの衝突	37	27	4	11.5%	73.0%	10.8%
ベットや椅子などから転落	24	21	4	7.5%	87.5%	16.7%
ドアや窓、家具などで挟まれたけが	23	20	4	7.1%	87.0%	17.4%
廊下や浴室などでの転倒	21	17	1	6.5%	81.0%	4.8%
動物や虫などに咬まれた(刺された)けが	16	7	3	5.0%	43.8%	18.8%
刃物や鋭利なものによるけが	11	6	2	3.4%	54.5%	18.2%
階段から転落	7	3	2	2.2%	42.9%	28.6%
火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど	7	7	2	2.2%	100.0%	28.6%
たばこやおもちゃなどの異物誤飲	4	2	3	1.2%	50.0%	75.0%
ベランダや窓の手すりを乗り越え高所から転落	2	2	0	0.6%	100.0%	0.0%
入浴中の溺水	1	1	0	0.3%	100.0%	0.0%
就寝中の窒息	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
その他	3	3	3	0.9%	100.0%	100.0%
けがはしていない	226			70.2%		

前回調査結果(平成20年度)

n=405

けがをした状況	回答数			構成比 けがをし た	構成比(けがをした)	
	けがをし た	大人がい た	医療機関 に行った		大人がい た	医療機関 に行った
家具や物に体をぶつけるなどの衝突	76	61	6	18.8%	80.3%	7.9%
ベットや椅子などから転落	49	36	5	12.1%	73.5%	10.2%
ドアや窓、家具などで挟まれたけが	45	33	5	11.1%	73.3%	11.1%
廊下や浴室などでの転倒	37	29	1	9.1%	78.4%	2.7%
動物や虫などに咬まれた(刺された)けが	37	26	5	9.1%	70.3%	13.5%
階段から転落	30	22	5	7.4%	73.3%	16.7%
刃物や鋭利なものによるけが	11	7	2	2.7%	63.6%	18.2%
火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど	9	9	2	2.2%	100.0%	22.2%
たばこやおもちゃなどの異物誤飲	7	6	1	1.7%	85.7%	14.3%
入浴中の溺水	5	4	0	1.2%	80.0%	0.0%
ベランダや窓の手すりを乗り越え高所から転落	1	1	0	0.2%	100.0%	0.0%
就寝中の窒息	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
その他	6	6	3	1.5%	100.0%	50.0%
けがはしていない	248			61.2%		

図表 26-2 けがの状況（自宅）



図表 27-1 【2-51,52】 年齢階層別にみたけがの状況（自宅）

今回調査結果（平成 23 年度）

(0～2歳) n=83

けがをした状況	回答数			構成比
	けがをした	大人がいた	医療機関に行った	
ペット等から転落	16	14	3	19.3%
家具等に衝突	13	12	1	15.7%
廊下等で転倒	9	8	1	10.8%
ドア等で挟んだ	7	6	2	8.4%
階段から転落	6	3	1	7.2%
異物誤飲	3	1	3	3.6%
高所から転落	2	2	0	2.4%
咬傷・刺傷	2	2	2	2.4%
やけど	1	1	0	1.2%
入浴中の溺水	1	1	0	1.2%
刃物等でのけが	1	0	1	1.2%
就寝中の窒息	0	0	0	0.0%
その他	1	1	1	1.2%
けがはしていない	48			57.8%

前回調査結果（平成 20 年度）

(0～2歳) n=127

けがをした状況	回答数			構成比
	けがをした	大人がいた	医療機関に行った	
家具等に衝突	40	33	4	31.5%
ペット等から転落	36	27	4	28.3%
ドア等で挟んだ	27	19	3	21.3%
廊下等で転倒	22	17	0	17.3%
咬傷・刺傷	20	13	2	15.7%
階段から転落	15	12	1	11.8%
異物誤飲	6	5	1	4.7%
やけど	3	3	0	2.4%
刃物等でのけが	3	3	1	2.4%
入浴中の溺水	2	1	0	1.6%
高所から転落	1	1	0	0.8%
就寝中の窒息	0	0	0	0.0%
その他	0	0	0	0.0%
けがはしていない	55			43.3%

(3～5歳) n=57

けがをした状況	回答数			構成比
	けがをした	大人がいた	医療機関に行った	
家具等に衝突	14	9	2	24.6%
廊下等で転倒	7	6	0	12.3%
ドア等で挟んだ	7	6	0	12.3%
ペット等から転落	4	4	0	7.0%
咬傷・刺傷	4	1	0	7.0%
やけど	2	2	1	3.5%
刃物等でのけが	2	2	1	3.5%
階段から転落	1	0	1	1.8%
異物誤飲	1	1	0	1.8%
高所から転落	0	0	0	0.0%
就寝中の窒息	0	0	0	0.0%
入浴中の溺水	0	0	0	0.0%
その他	1	1	1	1.8%
けがはしていない	28			49.1%

(3～5歳) n=74

けがをした状況	回答数			構成比
	けがをした	大人がいた	医療機関に行った	
家具等に衝突	22	20	1	29.7%
廊下等で転倒	11	11	0	14.9%
咬傷・刺傷	11	9	2	14.9%
ペット等から転落	10	7	0	13.5%
ドア等で挟んだ	10	9	0	13.5%
階段から転落	8	5	2	10.8%
やけど	2	2	1	2.7%
異物誤飲	1	1	0	1.4%
入浴中の溺水	1	1	0	1.4%
刃物等でのけが	1	1	0	1.4%
高所から転落	0	0	0	0.0%
就寝中の窒息	0	0	0	0.0%
その他	3	3	1	4.1%
けがはしていない	37			50.0%

すべて「けがをした」の回答数が多い順

図表 27-2【2-51,52】 年齢階層別にみたけがの状況（自宅）

今回調査結果（平成 23 年度）

(6～11歳) n=97

けがをした状況	回答数			構成比
	けがをした	大人がいた	医療機関に行った	
家具等に衝突	8	5	0	8.2%
ドア等で挟んだ	8	8	2	8.2%
刃物等でのけが	6	4	0	6.2%
咬傷・刺傷	6	3	0	6.2%
やけど	4	4	1	4.1%
ベッド等から転落	3	2	1	3.1%
廊下等で転倒	3	2	0	3.1%
高所から転落	0	0	0	0.0%
階段から転落	0	0	0	0.0%
異物誤飲	0	0	0	0.0%
就寝中の窒息	0	0	0	0.0%
入浴中の溺水	0	0	0	0.0%
その他	1	1	1	1.0%
けがはしていない	75			77.3%

前回調査結果（平成 20 年度）

(6～11歳) n=133

けがをした状況	回答数			構成比
	けがをした	大人がいた	医療機関に行った	
家具等に衝突	13	7	1	9.8%
ドア等で挟んだ	9	5	1	6.8%
咬傷・刺傷	7	4	1	5.3%
廊下等で転倒	6	2	1	4.5%
刃物等でのけが	6	3	1	4.5%
階段から転落	4	4	1	3.0%
やけど	4	4	1	3.0%
ベッド等から転落	3	2	1	2.3%
入浴中の溺水	1	1	0	0.8%
高所から転落	0	0	0	0.0%
異物誤飲	0	0	0	0.0%
就寝中の窒息	0	0	0	0.0%
その他	3	3	2	2.3%
けがはしていない	97			72.9%

(12～15歳未満) n=31

けがをした状況	回答数			構成比
	けがをした	大人がいた	医療機関に行った	
家具等に衝突	2	1	1	6.5%
刃物等でのけが	1	0	0	3.2%
ドア等で挟んだ	1	0	0	3.2%
咬傷・刺傷	1	0	0	3.2%
ベッド等から転落	0	0	0	0.0%
高所から転落	0	0	0	0.0%
階段から転落	0	0	0	0.0%
異物誤飲	0	0	0	0.0%
就寝中の窒息	0	0	0	0.0%
やけど	0	0	0	0.0%
入浴中の溺水	0	0	0	0.0%
廊下等で転倒	0	0	0	0.0%
その他	0	0	0	0.0%
けがはしていない	27			87.1%

(12～15歳未満) n=56

けがをした状況	回答数			構成比
	けがをした	大人がいた	医療機関に行った	
家具等に衝突	4	2	0	7.1%
ベッド等から転落	1	0	0	1.8%
刃物等でのけが	1	0	0	1.8%
高所から転落	0	0	0	0.0%
階段から転落	0	0	0	0.0%
異物誤飲	0	0	0	0.0%
就寝中の窒息	0	0	0	0.0%
やけど	0	0	0	0.0%
入浴中の溺水	0	0	0	0.0%
廊下等で転倒	0	0	0	0.0%
ドア等で挟んだ	0	0	0	0.0%
咬傷・刺傷	0	0	0	0.0%
その他	0	0	0	0.0%
けがはしていない	52			92.9%

すべて「けがをした」の回答数が多い順

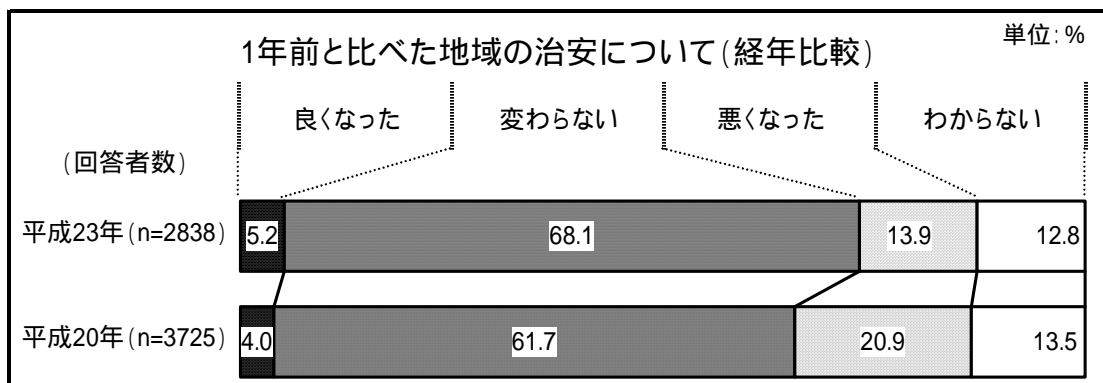
4 . 体感不安（犯罪被害等含む）に関する実態

地域の治安の変化に対する意識

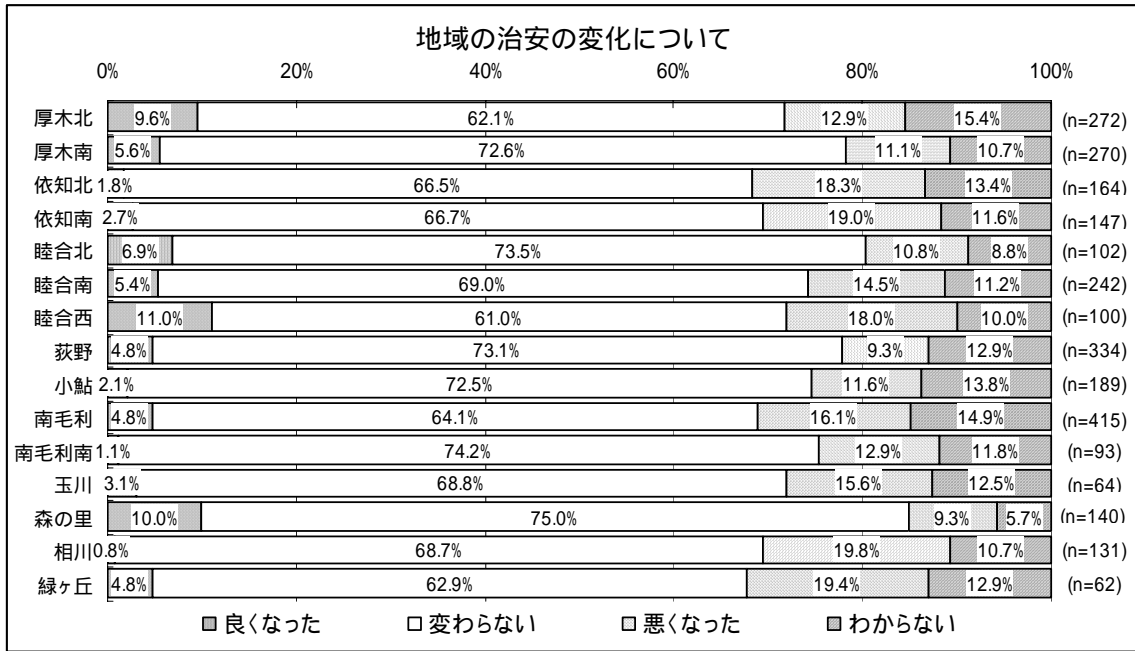
市全体では、1年前に比べて治安が良くなったと感じている人の割合が増加し、同時に治安が悪くなったと感じている人の割合も減少した。

- ・ 前回調査（平成 20 年度）と比較すると、居住地域の治安について、1年前と比べて「良くなった」と回答した人は、4.0%から 5.2%と 1.2 ポイント増加し、反対に「悪くなった」と回答した人は、20.9%から 13.9%と 7.0 ポイント減少した。依然として治安が「良くなった」と感じている人の割合を、「悪くなった」と感じている人の割合が上回ってはいるが、少しずつ体感治安が改善していることがうかがえる。
- ・ 地区別にみると、治安が良くなったと回答した人の割合は、前回調査と比べて厚木北が 9.6%で 7.1 ポイント増、睦合北が 6.9%で 5.7 ポイント増、睦合南が 5.4%で 3.6 ポイント増など、14 地区中 9 地区（睦合西は前回対象外）で増加した。一方で、依知南、小鮎、相川地区では、良くなったと回答した人の割合が、それぞれ 3 ポイント以上減少した。
- ・ 治安が悪くなったと回答した人の割合は、相川で 9.1 ポイントの増加となった以外は、すべての地区で減少した。特に荻野、小鮎、森の里地区では、それぞれ 10 ポイント以上の減少となった。

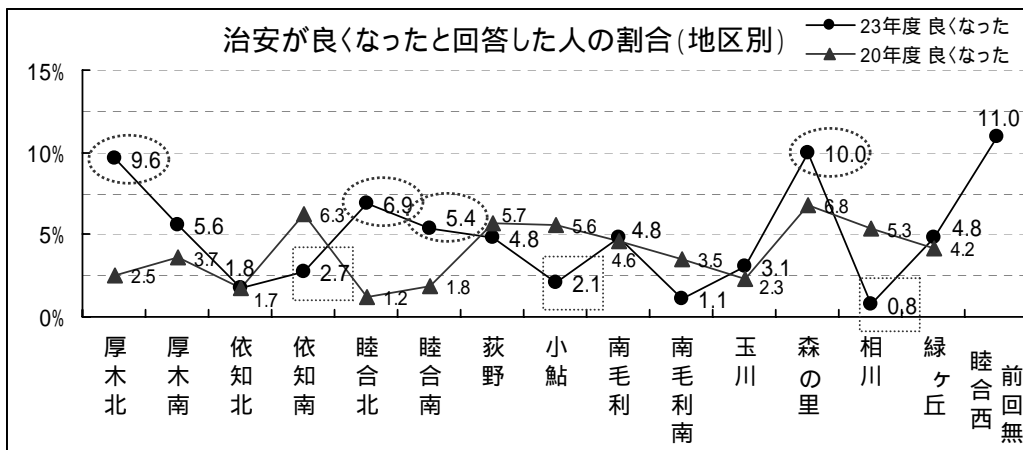
図表 28【2-53】 1年前と比べた地域の治安について



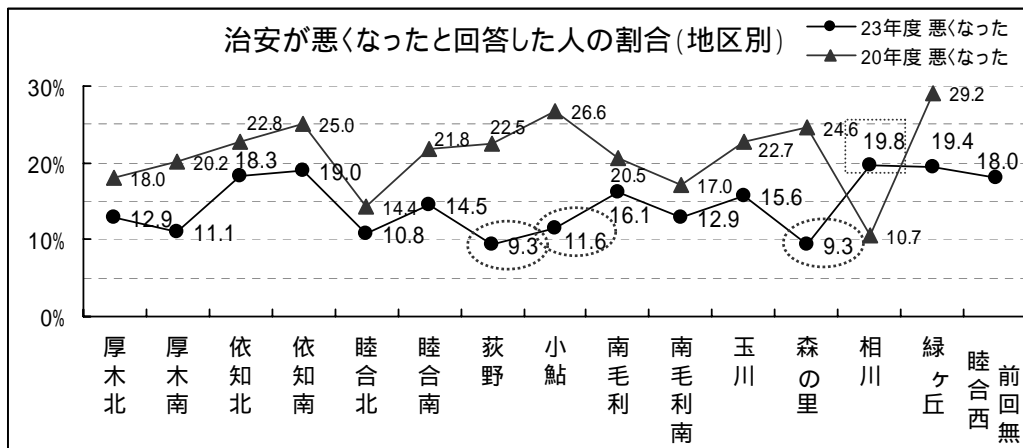
図表 29-1【2-54】 地区別にみた地域の治安について



図表 29-2 地区別・体感治安（良くなったと回答した人の割合）経年比較



図表 29-3 地区別・体感治安（悪くなったと回答した人の割合）経年比較

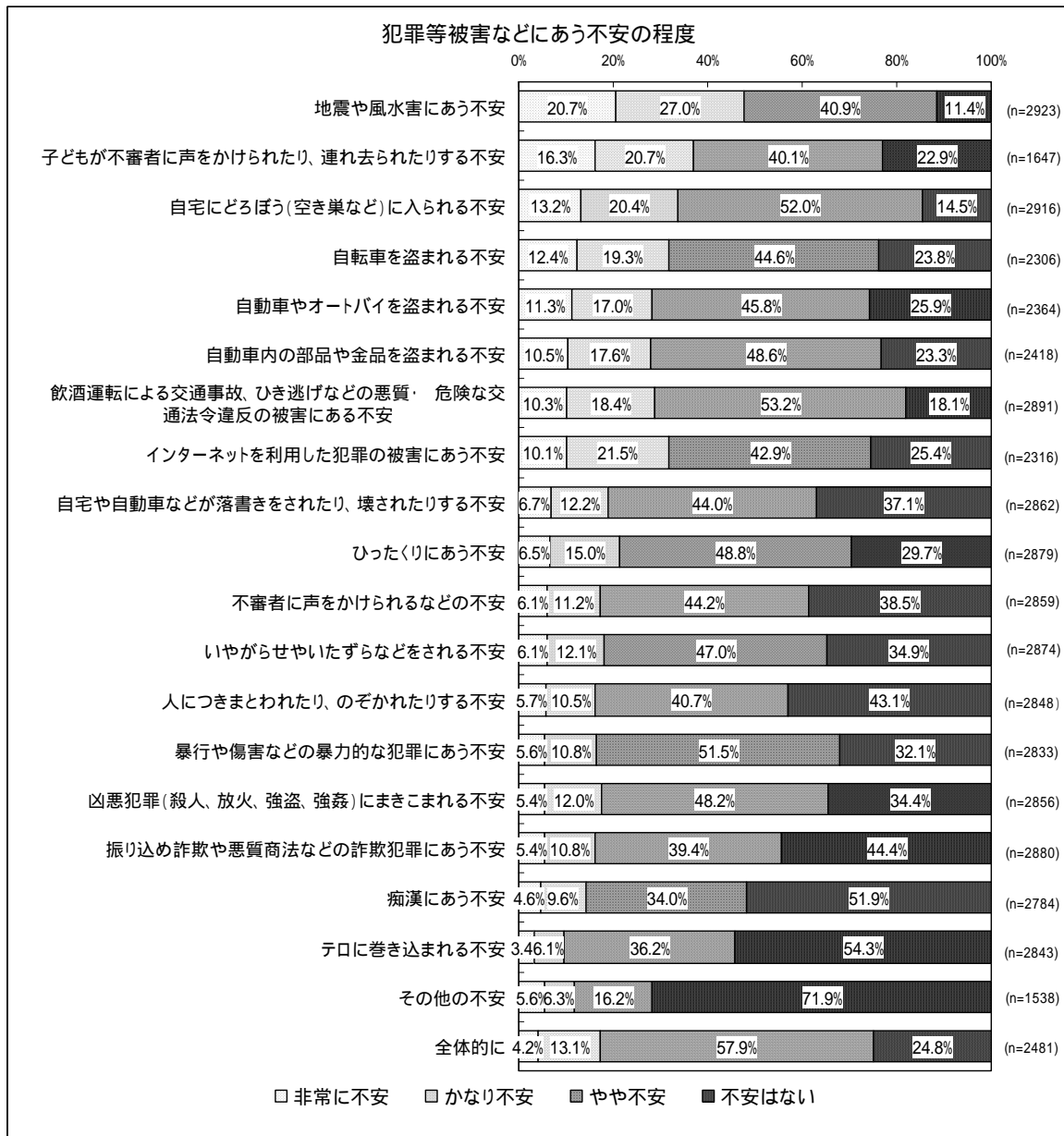


犯罪等被害や不安を感じる事項と程度

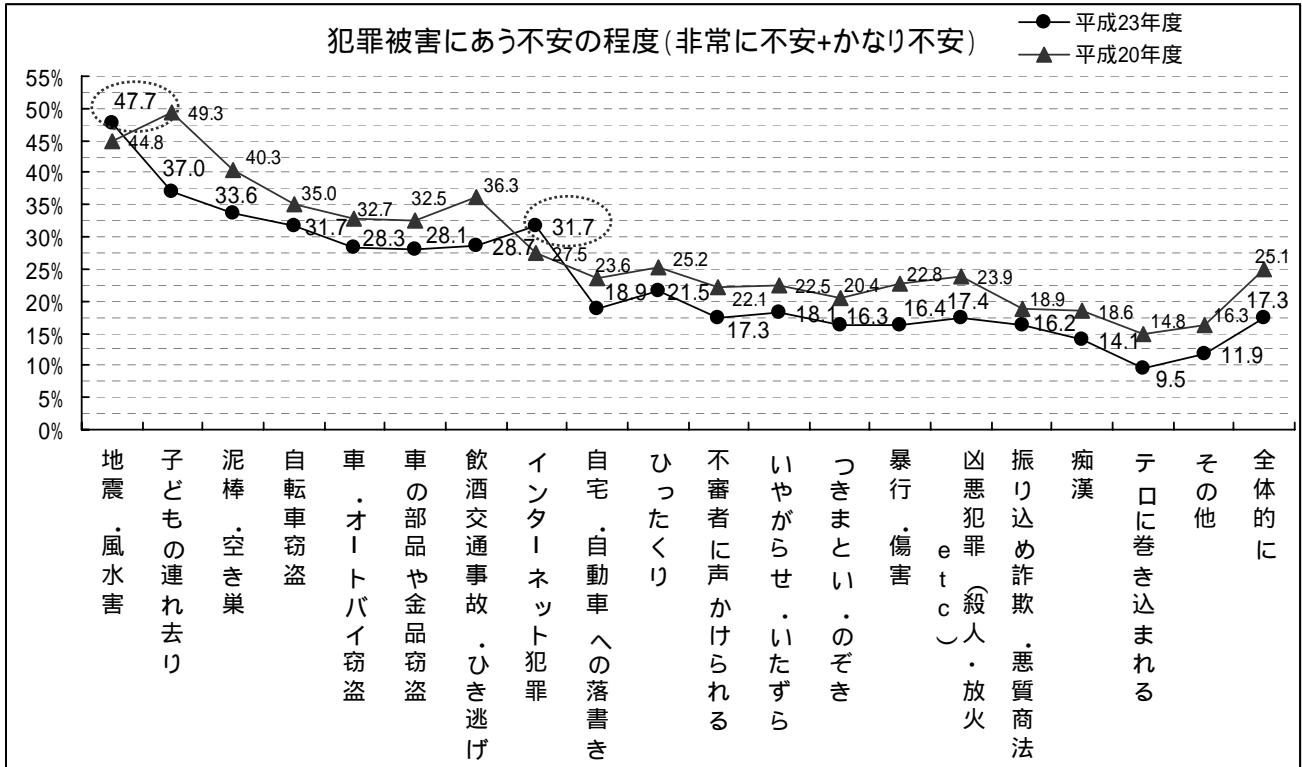
犯罪被害に関する不安を感じる事項として、前回調査（平成 20 年度）で 2 番目に多い割合を占めた地震や風水害が今回調査結果では最も多く、次いで、前回 1 位の子どもが不審者に連れ去られる不安、その他上位には前回同様、空き巣や盗難、飲酒運転などによる交通事故にあう不安などが続いた。

- ・市全体では、前回調査結果と比較して、「非常に不安」か「かなり不安」と答えた人の割合が 44.8%だった地震や風水害にあう不安が、47.7%と 2.9 ポイント増加し、前回最も大きな割合を占めた、子どもが不審者に連れ去られる不安に 10.7 ポイントの差をつけて第 1 位となった。東日本大震災の影響と考えられるが、地震や風水害にあう不安以外では唯一、インターネット犯罪の被害にあう不安が、前回調査の 27.5%から 31.6%と 4.1 ポイントの増加となった。その他の項目はすべて前回調査の数値を下まわった。

図表 30-1【2-55】 犯罪等被害にあう不安を感じる事項と程度

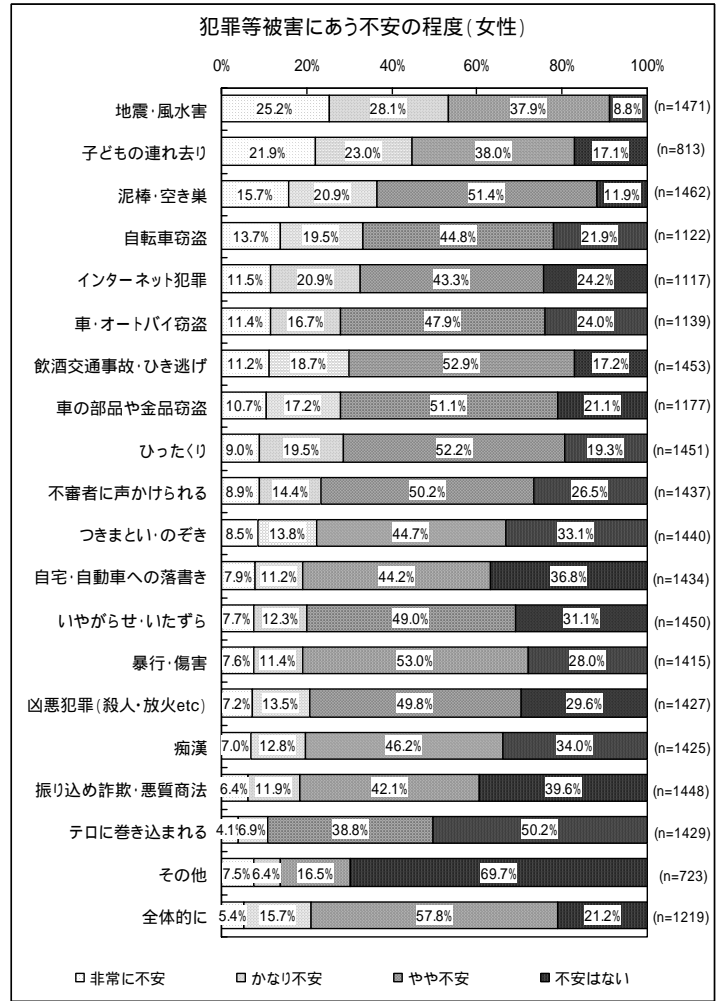
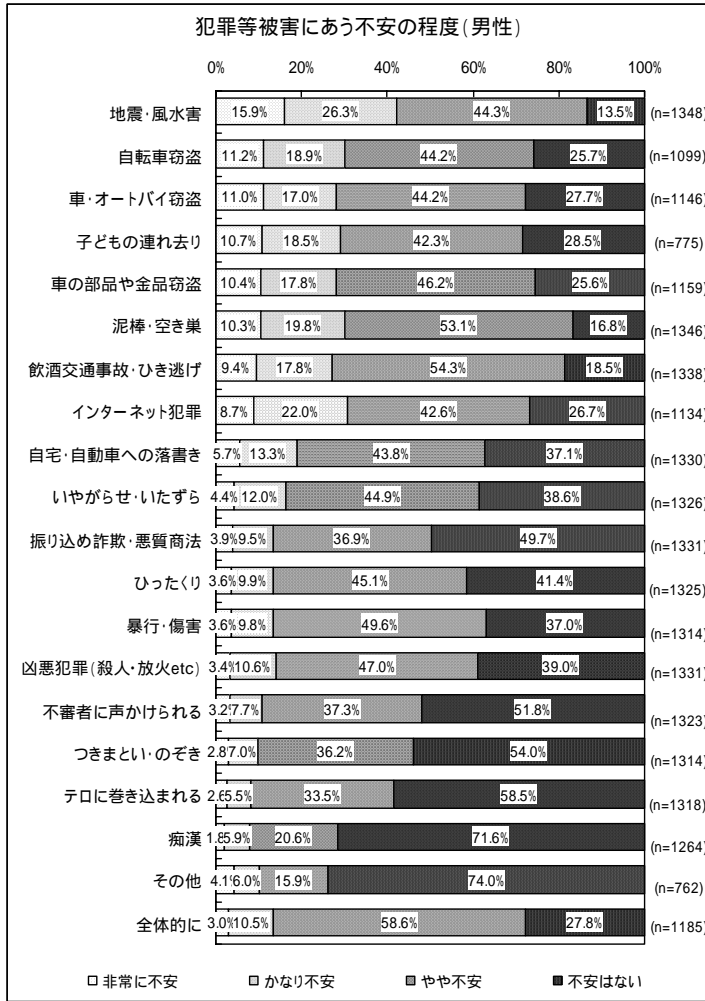


図表 30-2 犯罪被害にあう不安の程度 経年比較

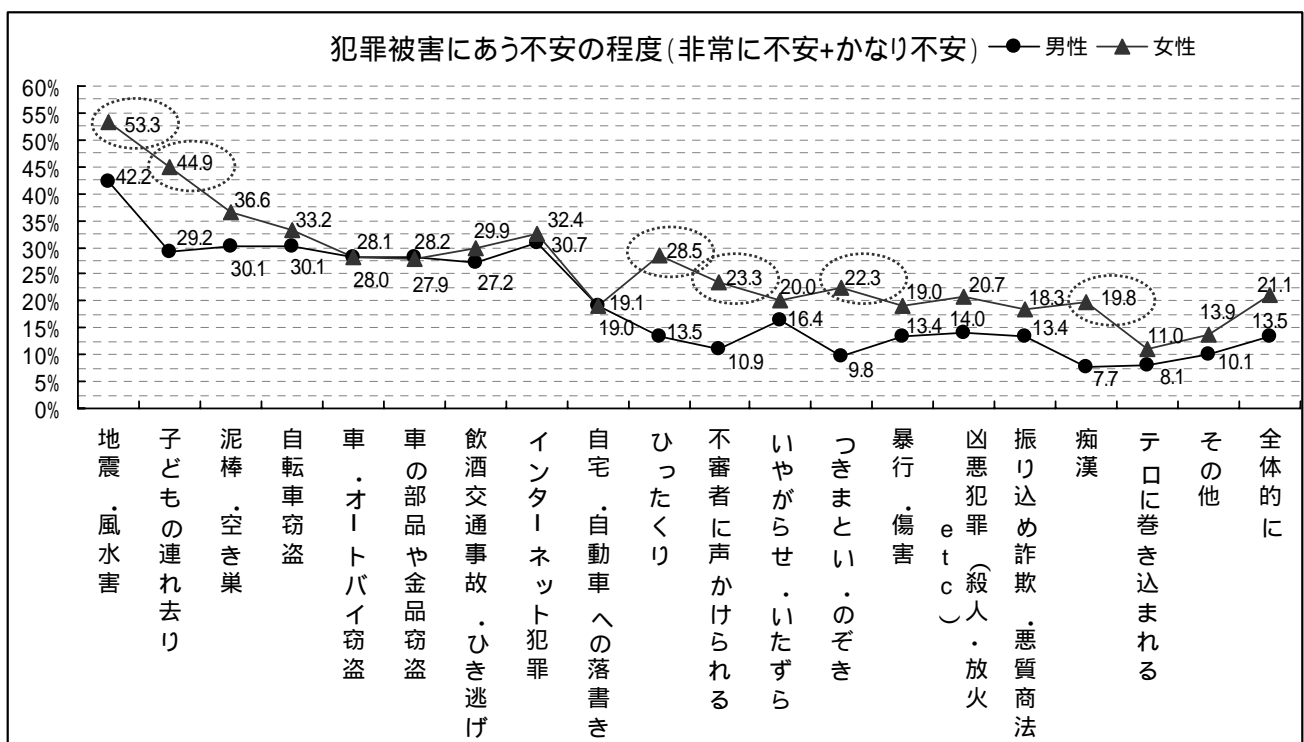


「非常に不安」「かなり不安」と答えた人の割合を足した数値

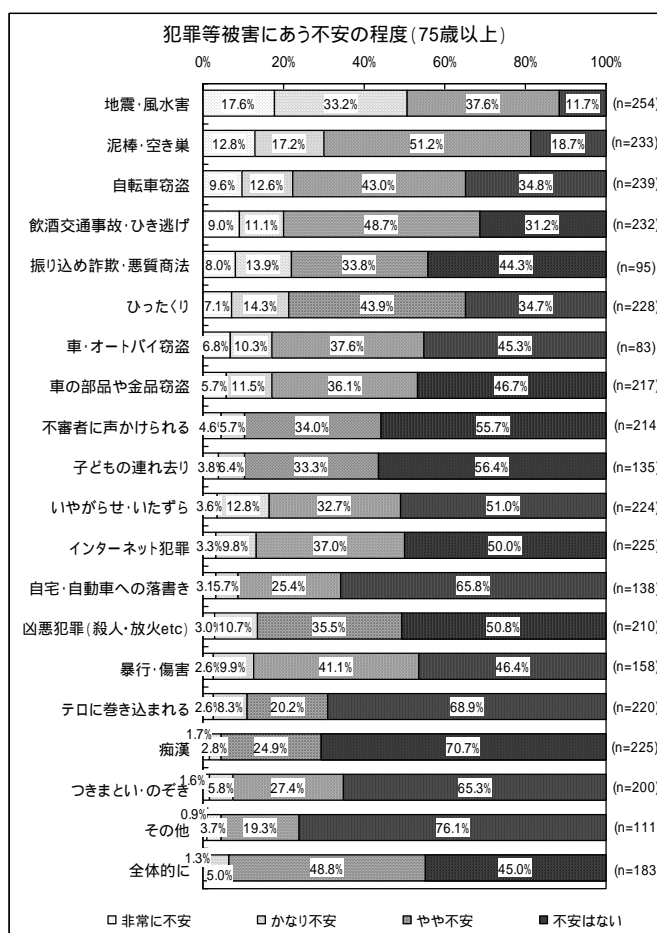
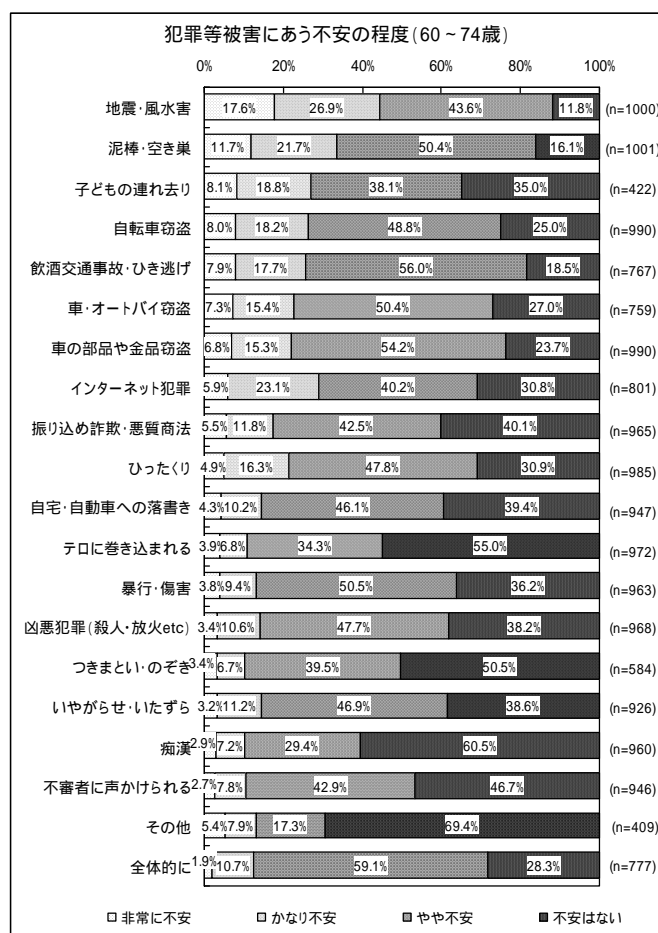
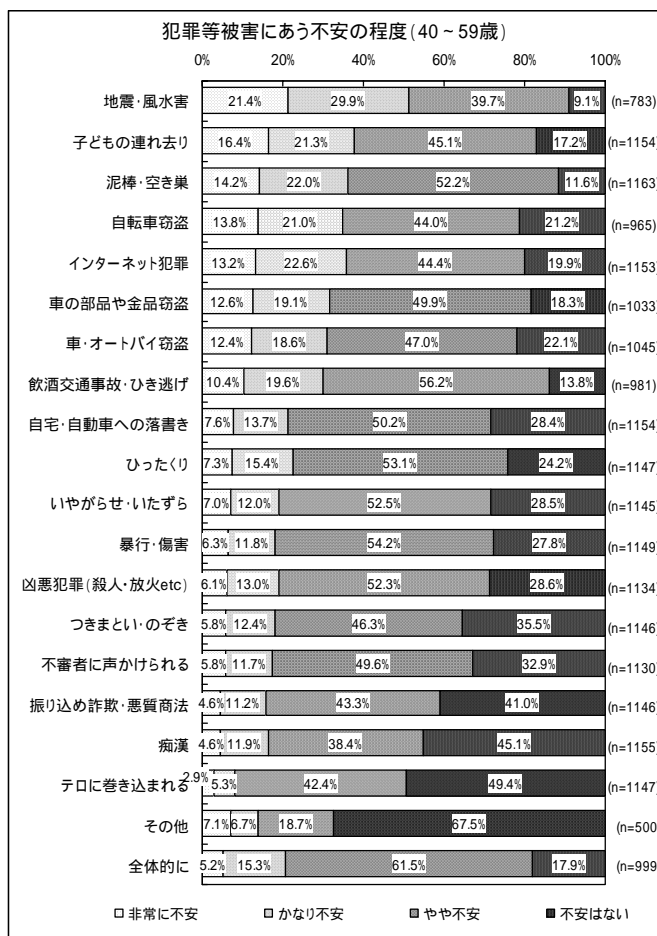
図表 31-1【2-56】 犯罪被害にあう不安を感じる事項との程度



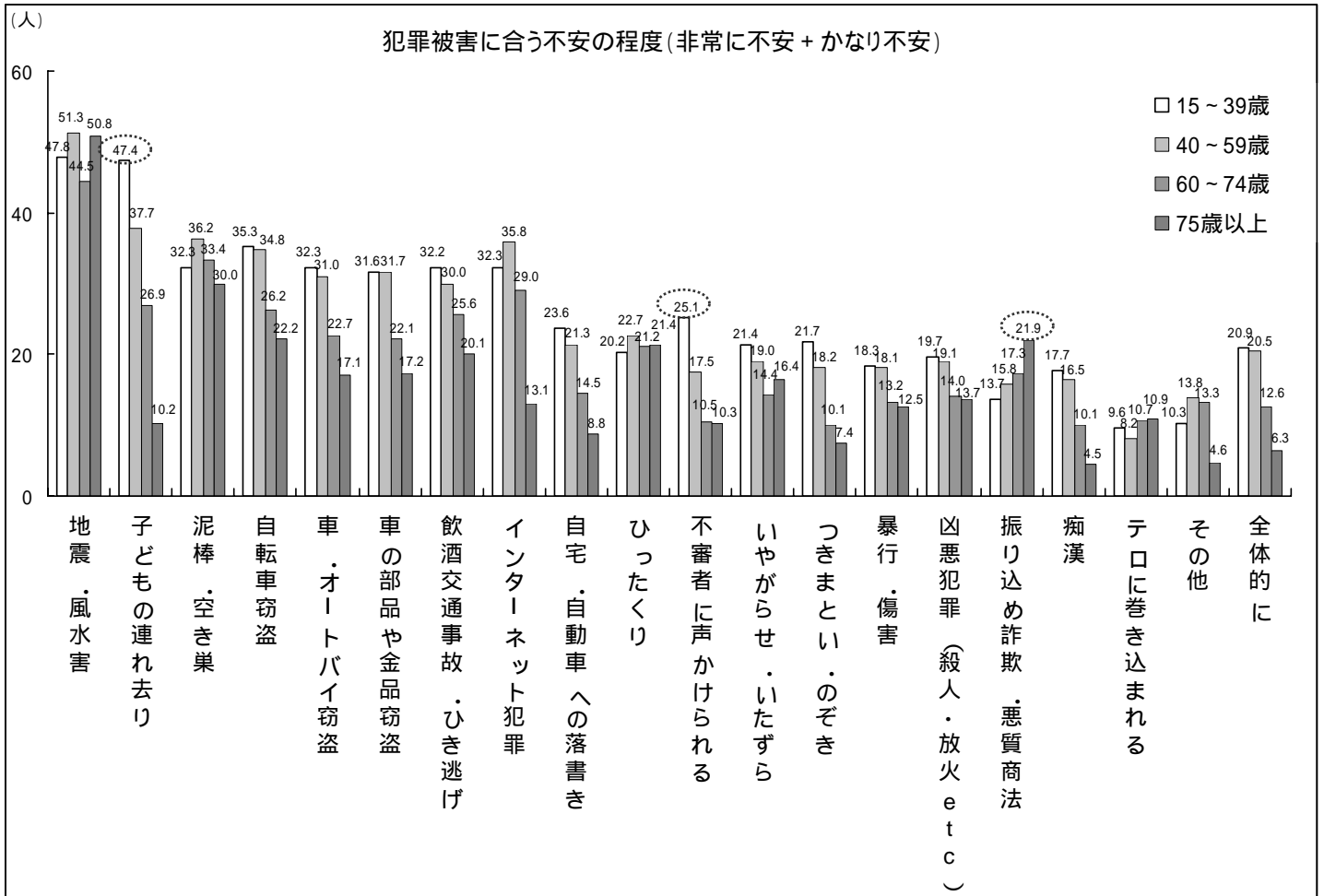
図表 31-2 犯罪被害にあう不安を感じる事項との程度(男女別)



図表 32-1 犯罪被害にあふ不安を感じる事項との程度（年齢階層別）



図表 32-2 犯罪被害にあう不安を感じる事項との程度（年齢階層別）

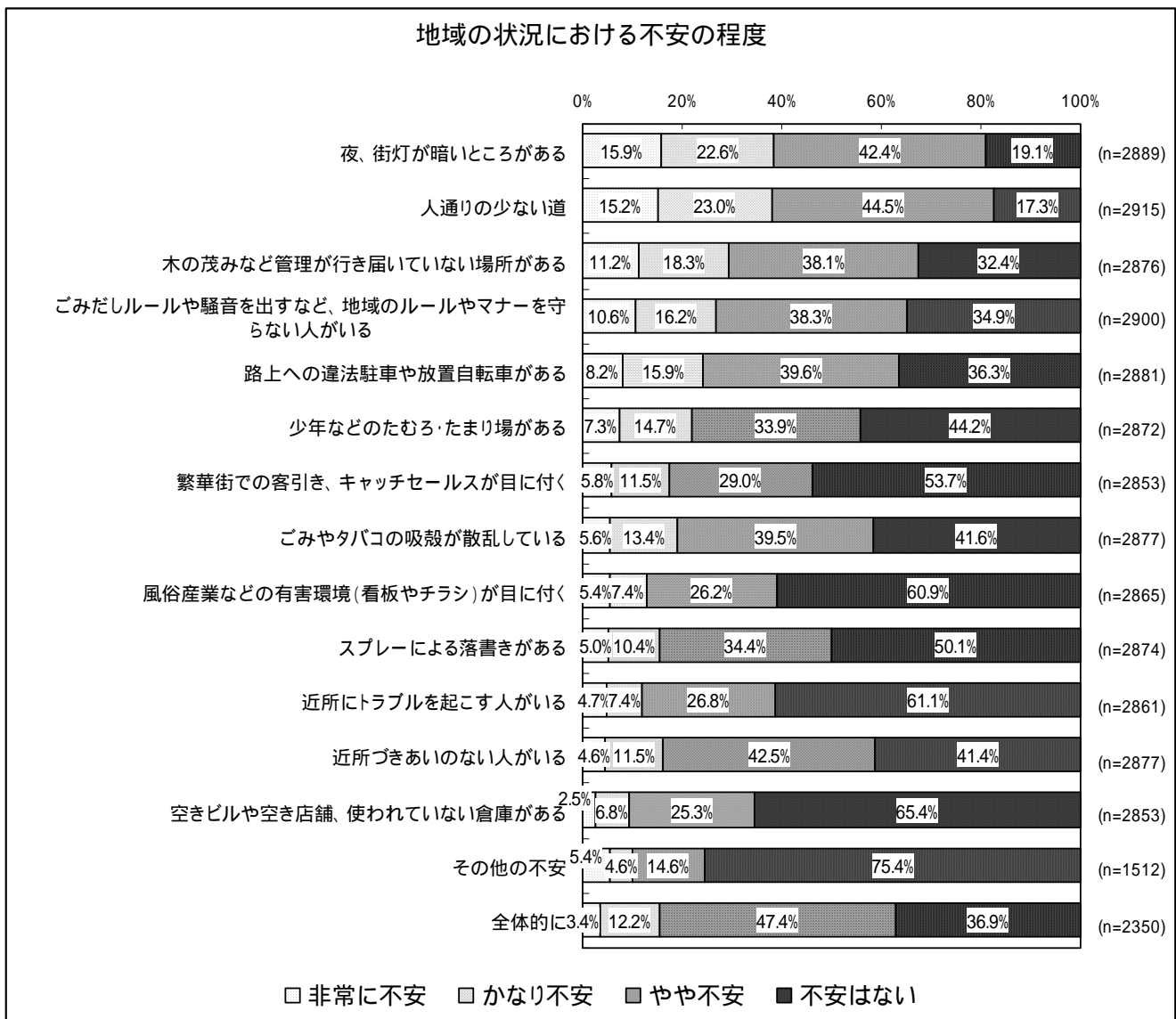


犯罪等被害に合う不安を感じる状況と程度

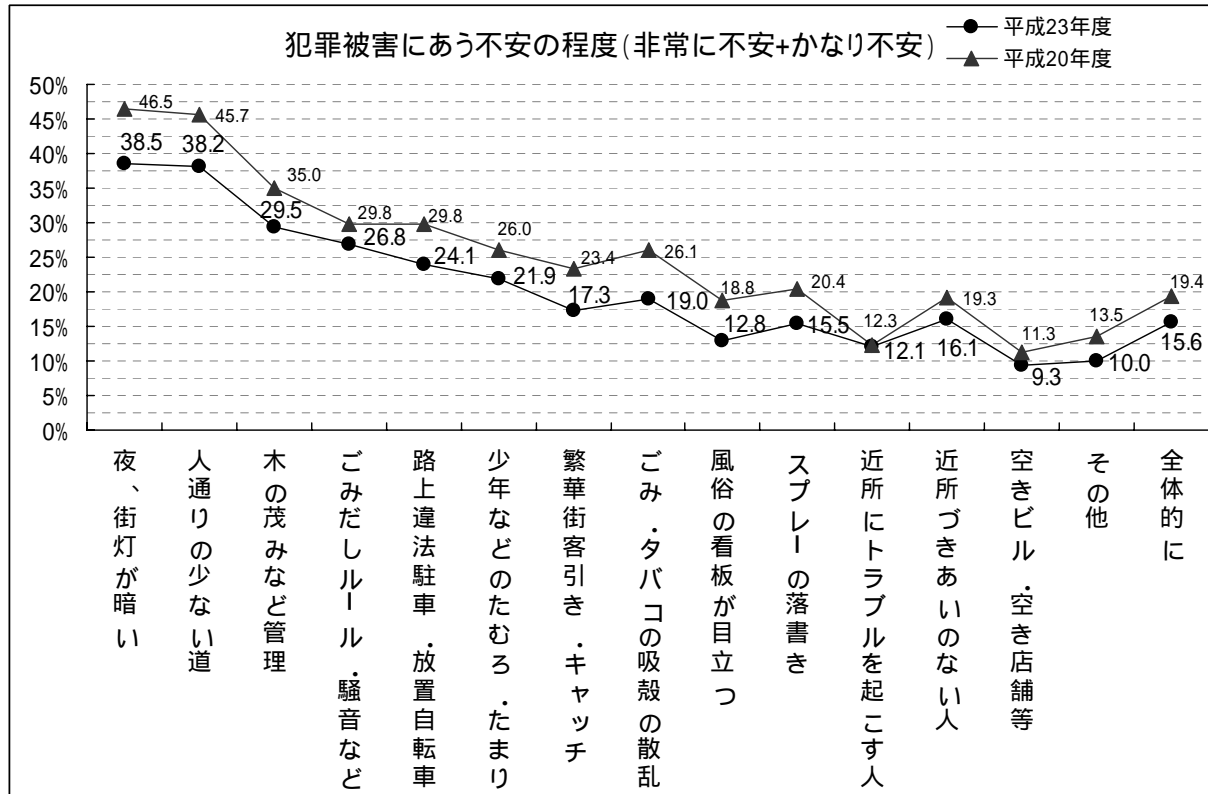
犯罪被害に関する不安を感じる状況として、該当が暗いところや人通りの少ない道、管理が行き届いていない場所に不安を感じる人が他に比べて多く、特に女性や15～39歳でその傾向が強い。

- ・前回調査（平成20年度）と比較すると、すべての項目で「非常に不安」か「かなり不安」と答えた人の割合が減少した。「夜、街灯が暗いところがある」や「人通りの少ない道」、「木の茂みなど管理が行き届いていない場所がある」といった前回上位の項目は、今回調査結果でも同様に上位の3つとなり、その他の項目に関しては若干の変動が見られた。
- ・前回調査結果と同様に、男女別では男性に比べて女性が、すべての項目でより不安を感じる割合が大きく、「夜、街灯が暗いところがある」などの上位3つの項目では、それぞれ10ポイント以上の差がみられた。年齢階層別では、より若い階層で不安を感じる割合が大きくなる傾向がみられ、前回同様「少年などのたまり場がある」を挙げる人が多かった。

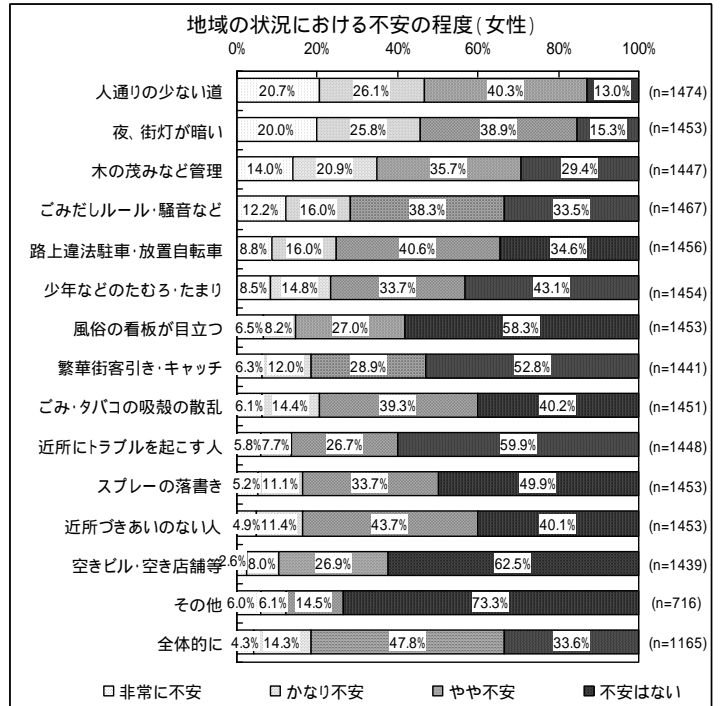
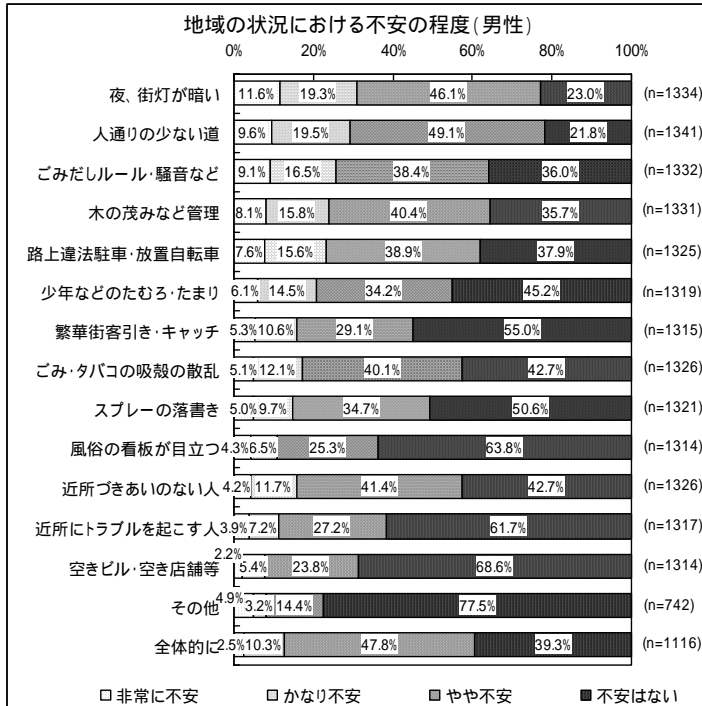
図表 33-1【2-58】 犯罪等被害にあう不安を感じる状況と程度



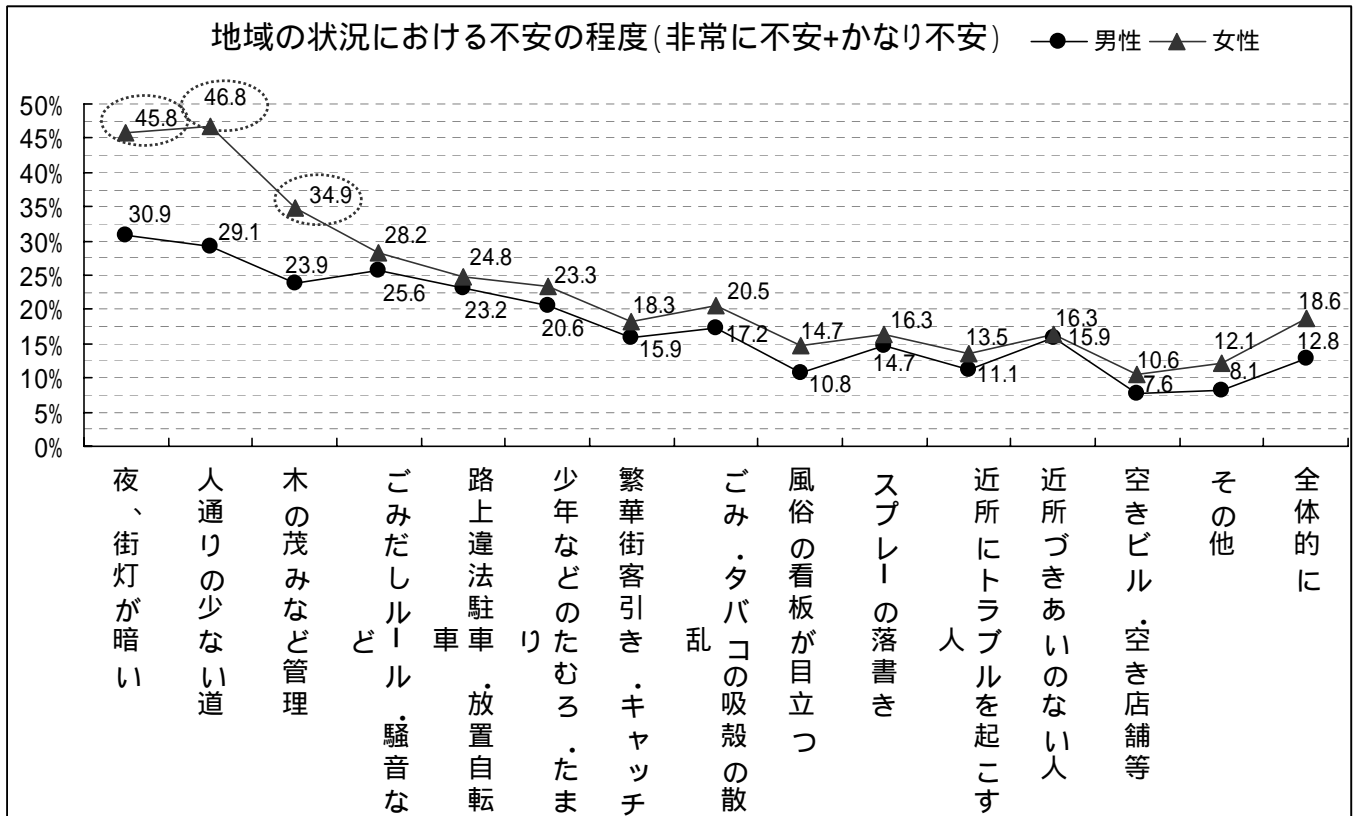
図表 33-2 犯罪等被害にあう不安を感じる状況と程度 経年比較



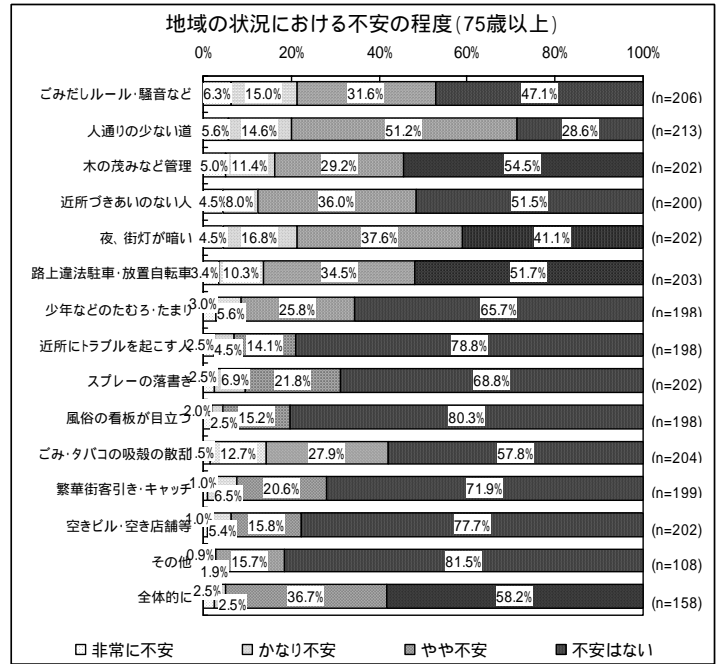
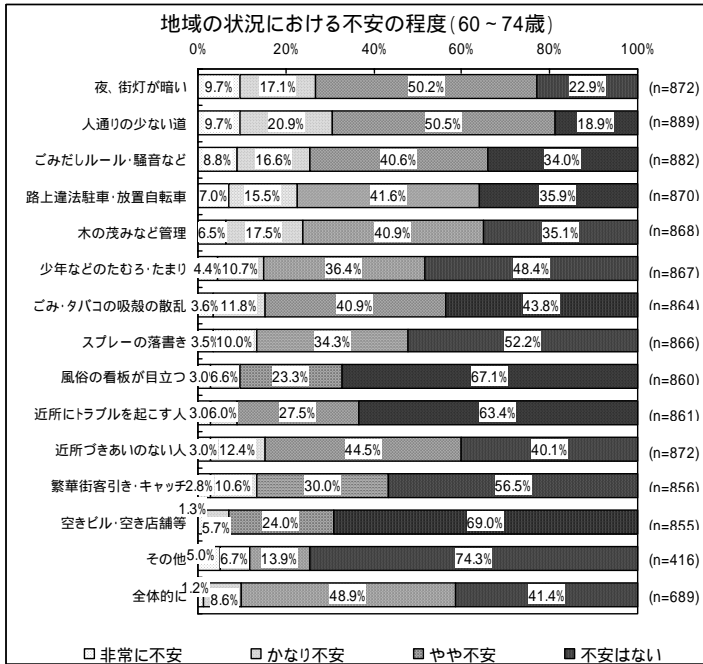
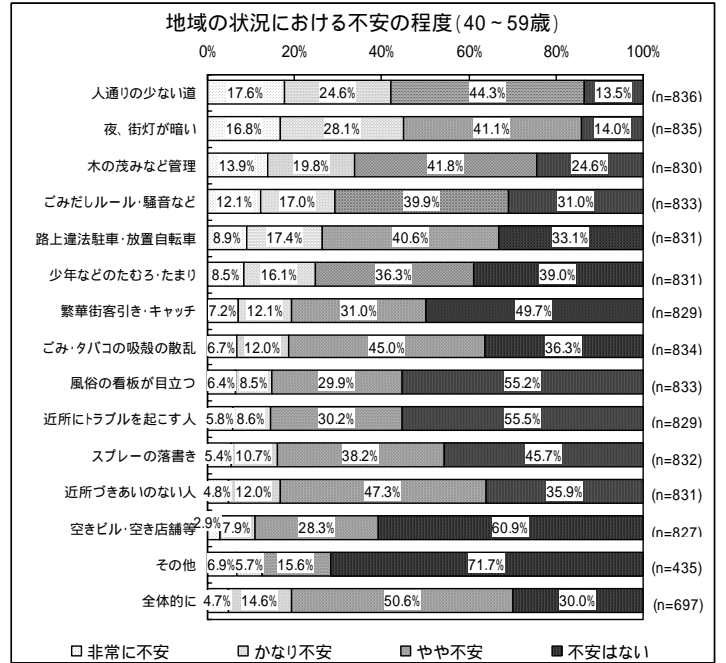
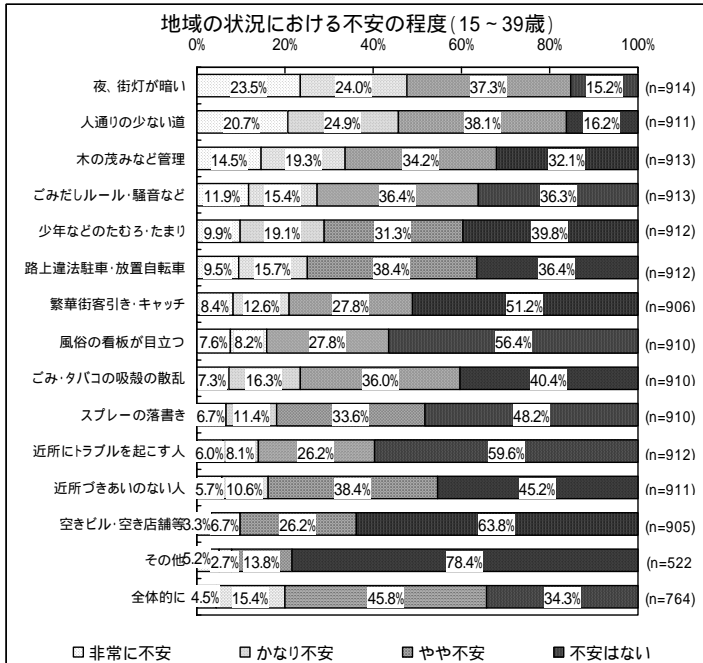
図表 34-1【2-59】 犯罪等被害にあう不安を感じる状況と程度(男女別)



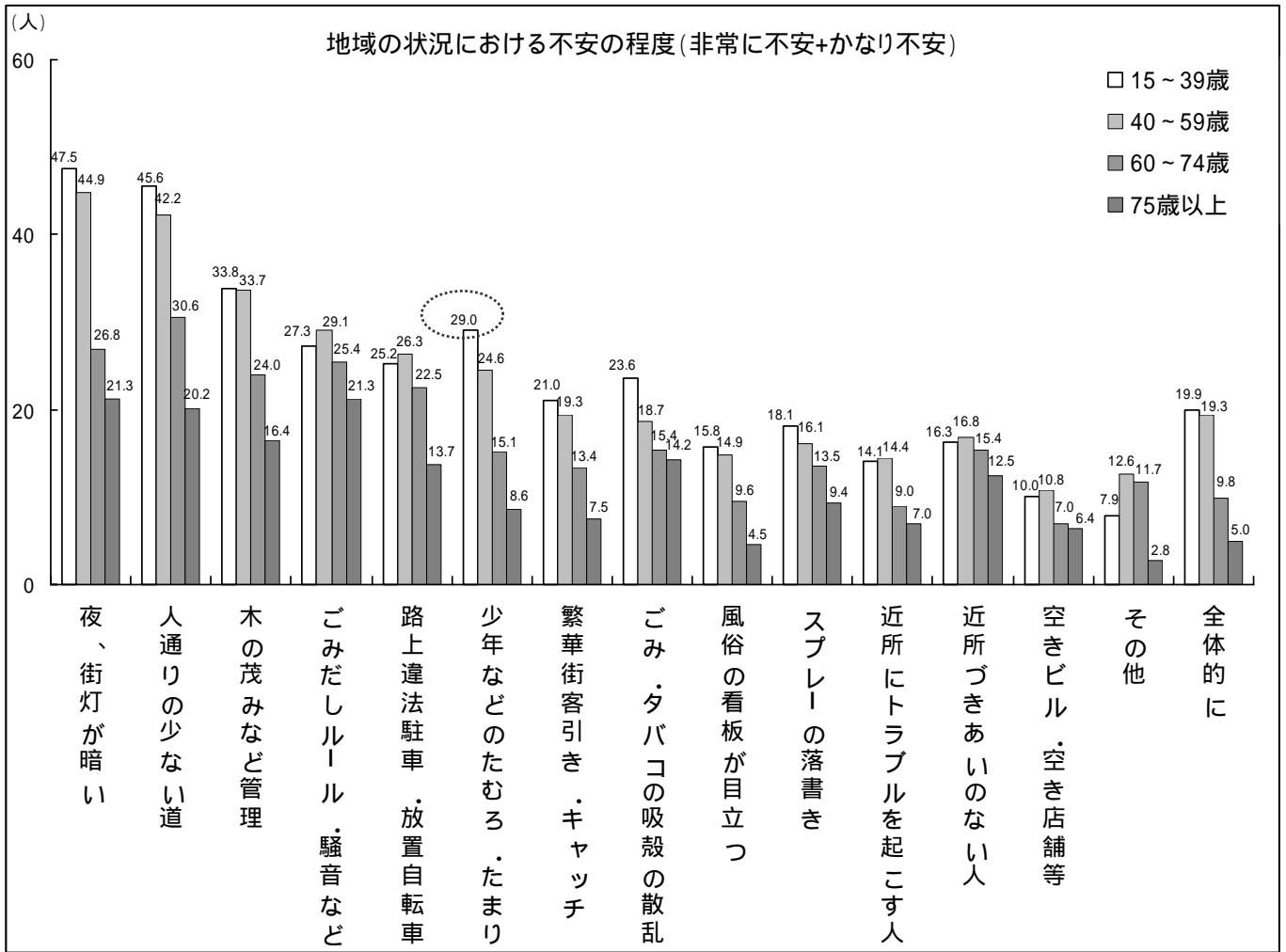
図表 34-2 犯罪等被害にあう不安を感じる状況と程度(男女別)



図表 35-1【2-60】 犯罪等被害にあつ不安を感じる状況と程度(年齢階層別)



図表 35-2 犯罪等被害にあう不安を感じる状況と程度（年齢階層別）



犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策の状況

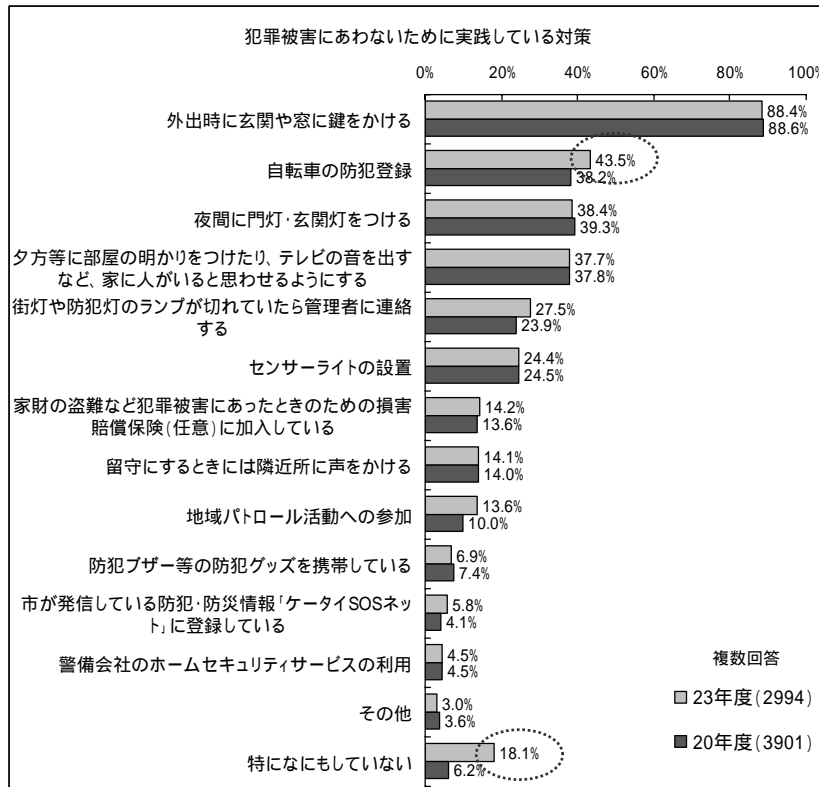
犯罪被害対策として、88.4%の人が外出時に鍵をかけており、自転車の防犯登録や夜間に玄関灯をつけること、家に人がいると思わせるようななどとなっている。

- ・市全体では、前回調査（平成 20 年度）と同様に「外出時に玄関や窓に鍵をかける」と回答した人が最も多く、88.4%を占めている。また、今回調査結果では「自転車の防犯登録」が38.2%から43.5%と5.3ポイント増加し、「夜間に門灯・玄関灯をつける」と回答した人の割合を抜いて2番目に大きな割合を占めた。その他、「特に何もしていない」と回答した人の割合が、前回の6.2%から18.1%と11.9ポイントの増加となった。

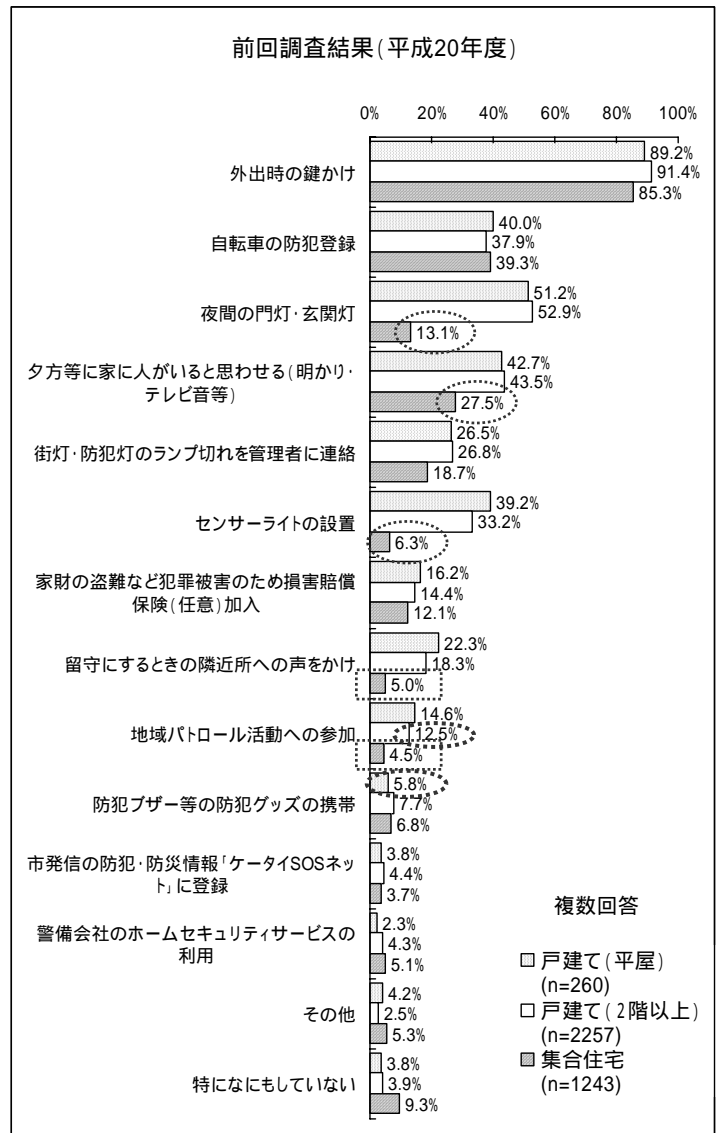
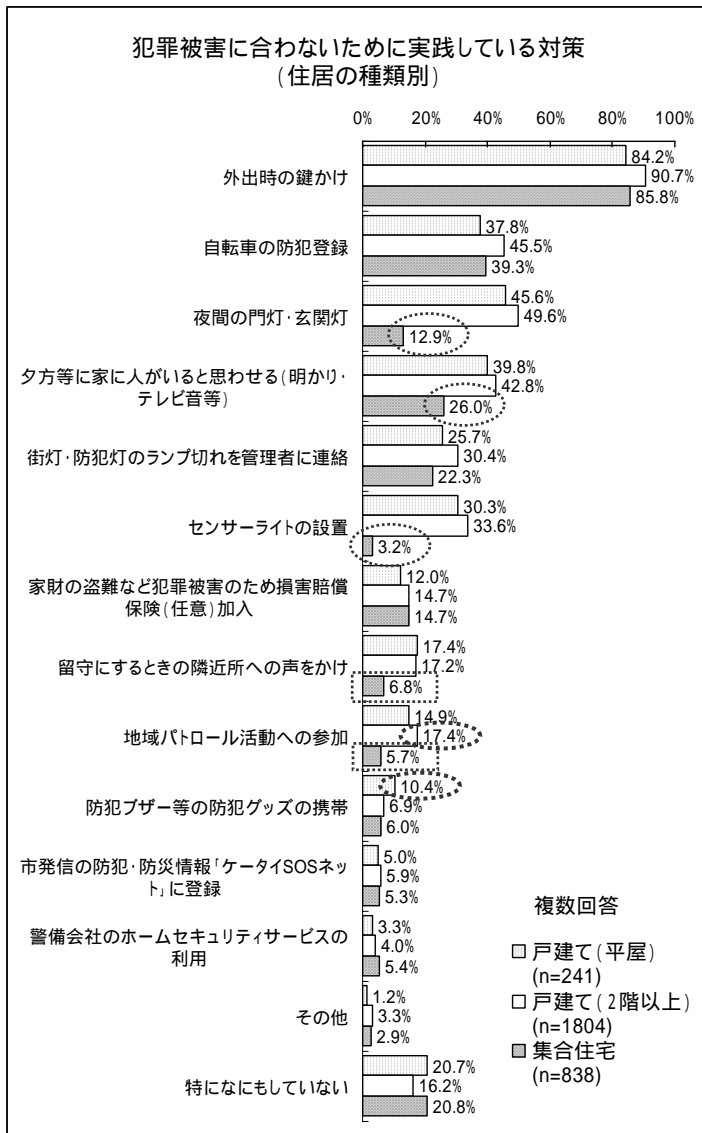
集合住宅では、玄関灯をつけることやセンサーライトの設置などの項目で、戸建て住宅に比べてきわめて少ない回答の割合となっている。加えて、留守にするとときに隣近所へ声をかけたり、地域パトロールに参加する人の割合が戸建て住宅に比べて小さく、近隣住人との付き合いの希薄さや、地域活動への関心がそれほど高くないことがうかがえる。

- ・住居の種類別を前回調査と比較すると、個々の項目で若干の増減はみられるものの、集合住宅で回答者の割合が小さかった「夜間に門灯・玄関灯をつける」「家に人がいると思わせる」「センサーライトの設置」などの項目は、前回と同様に戸建て住宅と比較して小さい割合となった。
- ・前回調査と比較して、特徴的な割合の変化がみられた項目として、戸建て（2階以上）の「地域パトロール活動への参加」が12.5%から17.4%と4.9ポイント増、戸建て（平屋）の「防犯ブザー等の防犯グッズの携帯」が5.8%から10.4%と4.6ポイント増が挙げられる。

図表 36【2-62】 犯罪被害に巻き込まれないためにとっている対策



図表 37【2-63】 犯罪被害に巻き込まれないために行っている対策
(住居の種類別)



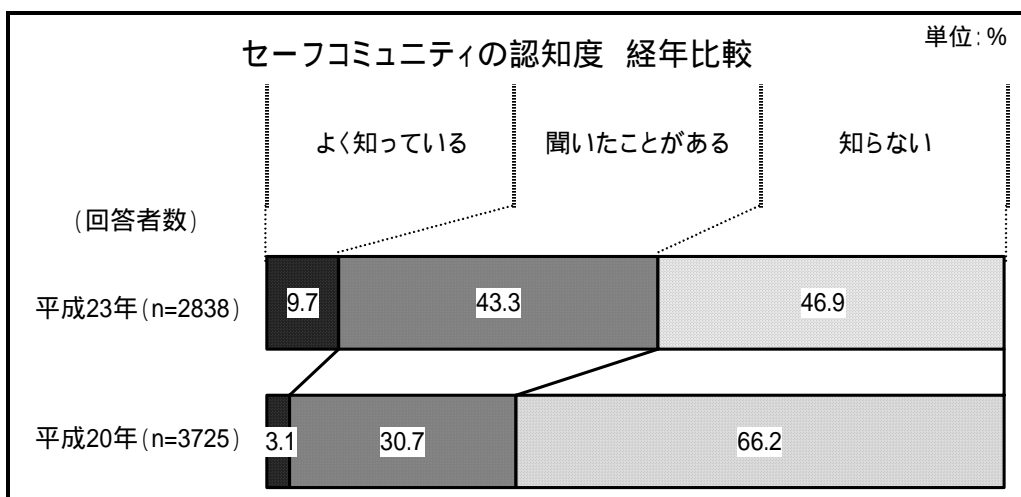
5. 「セーフコミュニティ」の認知状況

厚木市の取組みの認知状況

今回の調査結果では、言葉を聞いたことがある人を含め、セーフコミュニティの認知状況は53.0%と前回調査（平成20年度）を大きく上回った。

- ・ 前回調査と比較すると、市全体では、セーフコミュニティについて「考え方や活動など、よく知っている」と回答した人は3.1%から9.7%と6.6ポイント増、「言葉は聞いたことがある」と回答した人も含めると、33.8%から53.0%と19.2ポイントあまりの増加となり、セーフコミュニティの考え方や言葉自体が、徐々に浸透してきていることがうかがえる。

図表 39【2-65】 セーフコミュニティの認知状況



図表 40【2-66】 セーフコミュニティの認知状況（地区別）

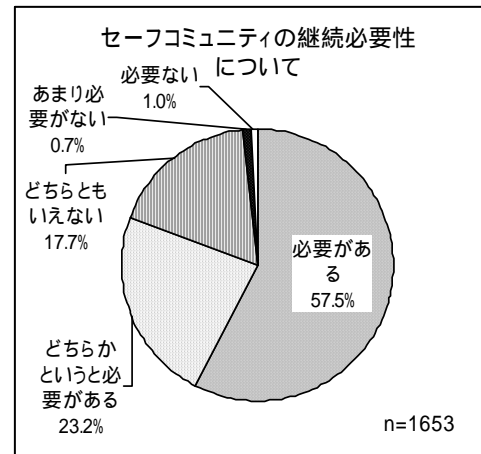
地区	セーフコミュニティの認知について				構成比			
	よく知っている	聞いたことがある	知らない	計	よく知っている	聞いたことがある	知らない	計
厚木北	19	79	76	174	10.9%	45.4%	43.7%	100.0%
厚木南	15	72	88	175	8.6%	41.1%	50.3%	100.0%
依知北	10	47	39	96	10.4%	49.0%	40.6%	100.0%
依知南	6	36	49	91	6.6%	39.6%	53.8%	100.0%
睦合北	9	29	20	58	15.5%	50.0%	34.5%	100.0%
睦合南	9	71	66	146	6.2%	48.6%	45.2%	100.0%
睦合西	8	27	26	61	13.1%	44.3%	42.6%	100.0%
荻野	25	76	83	184	13.6%	41.3%	45.1%	100.0%
小鮎	14	58	40	112	12.5%	51.8%	35.7%	100.0%
南毛利	16	105	127	248	6.5%	42.3%	51.2%	100.0%
南毛利南	4	27	29	60	6.7%	45.0%	48.3%	100.0%
玉川	6	10	17	33	18.2%	30.3%	51.5%	100.0%
森の里	7	34	37	78	9.0%	43.6%	47.4%	100.0%
相川	8	31	41	80	10.0%	38.8%	51.3%	100.0%
緑ヶ丘	6	15	24	45	13.3%	33.3%	53.3%	100.0%

今後の「セーフコミュニティ」の取組みに関する意識

セーフコミュニティの継続的な推進について、80.7%の人が必要と回答している。

- ・「必要がない」「あまり必要がない」と答えた人の割合は、1.0%と0.7%であり、大部分の人が継続の必要性を感じていることがうかがえる。
- ・前回調査（平成20年度）の関心度・理解度に関する調査結果と比較しても、多くの人々がセーフコミュニティへの関心・必要性を持っていることがうかがえる。

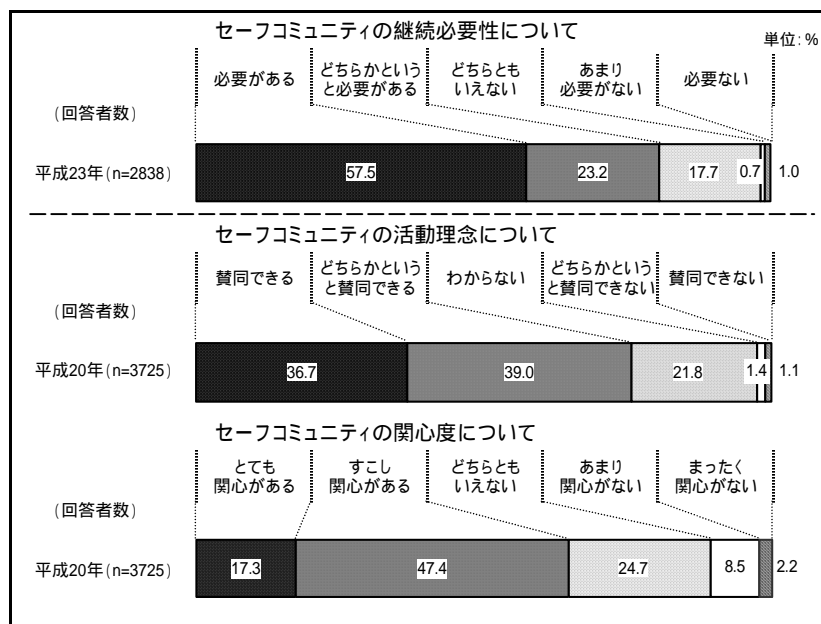
図表 41 「セーフコミュニティ」の継続必要性について



図表 42 「セーフコミュニティ」の継続必要性について（地区別）

地区	セーフコミュニティの継続必要性に関する意識						構成比					
	必要がある	どちらかという必要がある	どちらともいえない	あまり必要がない	必要がない	計	必要がある	どちらかという必要がある	どちらともいえない	あまり必要がない	必要がない	計
厚木北	90	96	44	29	2	261	55.5%	25.4%	16.8%	1.2%	1.2%	100.0%
厚木南	79	97	42	31	0	249	56.4%	24.4%	18.0%	0.0%	1.2%	100.0%
依知北	40	54	23	18	0	135	56.3%	24.0%	18.8%	0.0%	1.0%	100.0%
依知南	41	56	18	12	1	128	63.6%	20.5%	13.6%	1.1%	1.1%	100.0%
睦合北	35	33	12	9	1	90	58.9%	21.4%	16.1%	1.8%	1.8%	100.0%
睦合南	69	90	29	22	1	211	62.1%	20.0%	15.2%	0.7%	2.1%	100.0%
睦合西	69	41	11	8	0	129	68.3%	18.3%	13.3%	0.0%	0.0%	100.0%
荻野	83	102	34	40	2	261	56.7%	18.9%	22.2%	1.1%	1.1%	100.0%
小鮎	47	63	32	15	0	157	57.3%	29.1%	13.6%	0.0%	0.0%	100.0%
南毛利	110	132	64	44	2	352	54.3%	26.3%	18.1%	0.8%	0.4%	100.0%
南毛利南	23	35	15	8	0	81	60.3%	25.9%	13.8%	0.0%	0.0%	100.0%
玉川	8	12	10	7	1	38	40.0%	33.3%	23.3%	3.3%	0.0%	100.0%
森の里	20	44	18	16	0	98	56.4%	23.1%	20.5%	0.0%	0.0%	100.0%
相川	28	51	12	15	0	106	63.8%	15.0%	18.8%	0.0%	2.5%	100.0%
緑ヶ丘	22	24	9	10	0	65	55.8%	20.9%	23.3%	0.0%	0.0%	100.0%

図表 43 「セーフコミュニティ」の継続必要性と「セーフコミュニティ」への関心度・理解度 ~ 前回調査との比較 ~



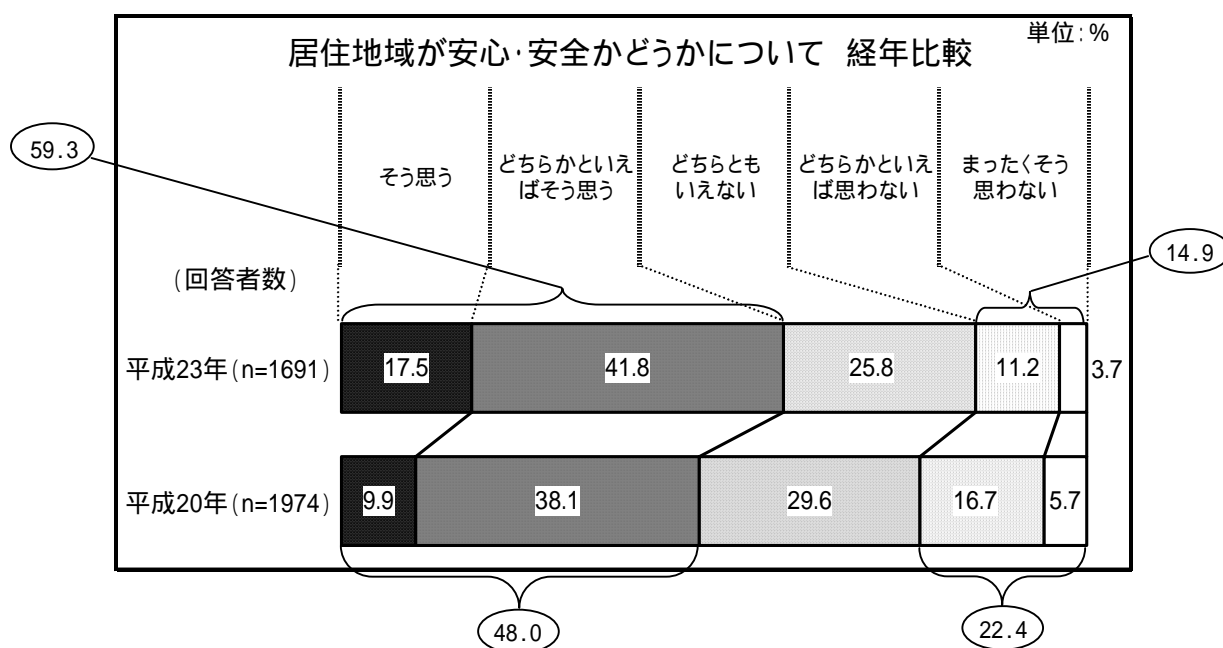
6 . 市民生活の安心・安全に関する意識

居住地域の安心・安全に関する意識

居住地域が安心で安全と考えている人の割合は59.3%で、不安感を持っている人の割合の14.9%を大きく上回った。

- ・市全体では、居住地域の安心・安全について「そう思う」と回答した人は17.5%で、「どちらかといえばそう思う」の41.8%も合わせると、59.3%の人が居住地域について安心で安全と考えている。「どちらかといえば思わない」「まったくそう思わない」と回答した人を合わせると、14.9%の人が居住地域の安心・安全について不安感を持っていることが分かる。
- ・前回調査（平成20年度）と比較すると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数値が48.0%から11.3ポイント増、「どちらかといえば思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた数値が22.4%から7.5ポイント減と、大幅に居住地域の安心・安全に対する意識が改善していることがうかがえる。
- ・地区別にみると、緑ヶ丘、森の里で70%を超える割合の人が安心・安全と回答しており、また、前回調査と比べても、ほぼすべての地区で、安心・安全に対する意識の改善がみられた。前述の2地区のほか、厚木北、厚木南、南毛利南などでは、安心・安全と考えている人の割合が、15ポイント以上増加した。逆に、睦合北、玉川、相川地区では、安心・安全と思う人とそう思わない人の割合のどちらか一方、もしくは両方で、前回調査を下回る結果となった。

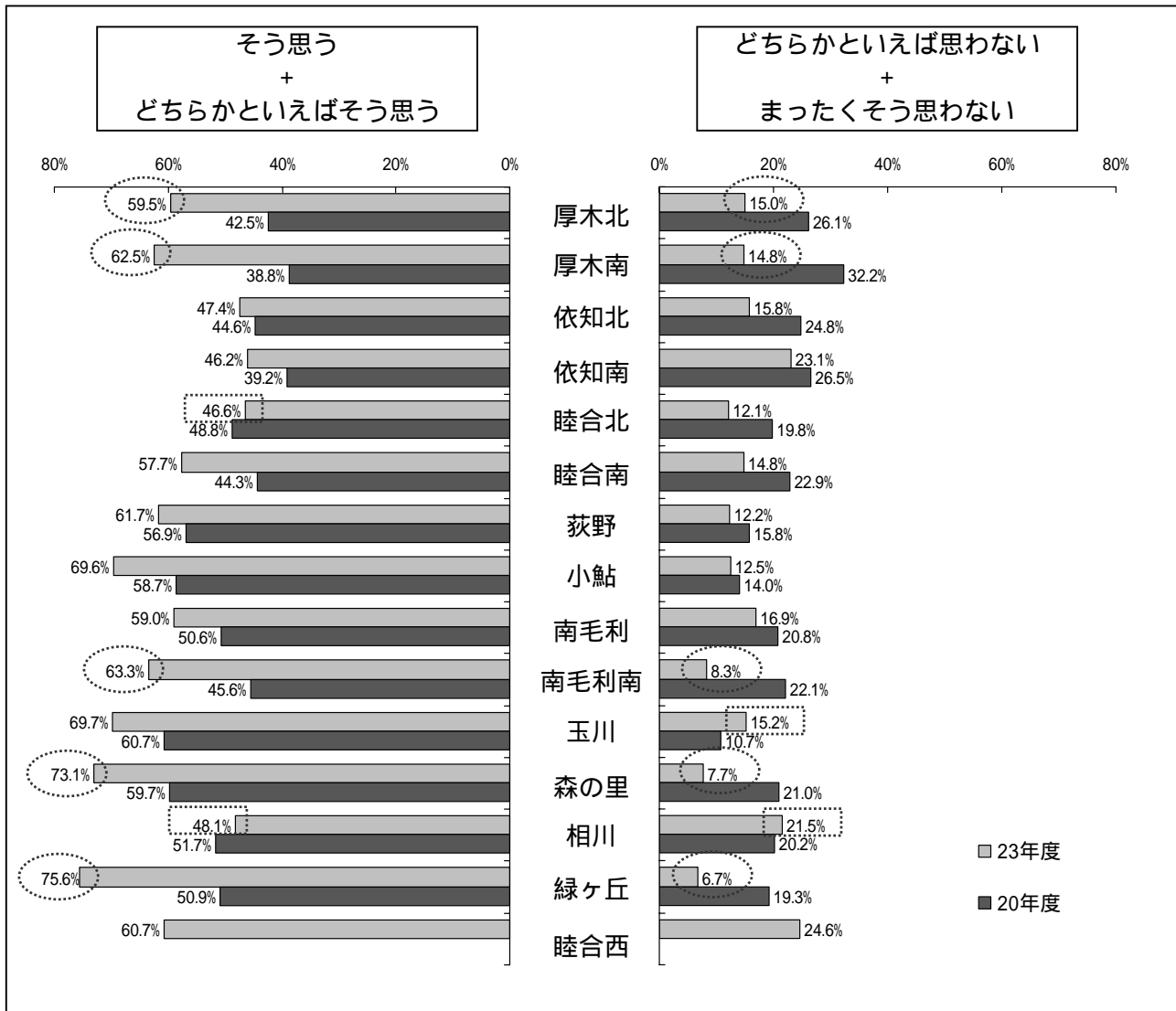
図表 44【2-71】 居住地域が安心・安全かどうかについて



図表 45-1【2-72】 居住地域が安心・安全かどうかについて(地区別)

地区	居住地域の安心・安全に関する認識について					構成比						
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえば思わない	まったくそう思わない	計	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえば思わない	まったくそう思わない	計
厚木北	29	74	44	18	8	173	16.8%	42.8%	25.4%	10.4%	4.6%	100.0%
厚木南	37	73	40	20	6	176	21.0%	41.5%	22.7%	11.4%	3.4%	100.0%
依知北	12	33	35	10	5	95	12.6%	34.7%	36.8%	10.5%	5.3%	100.0%
依知南	9	33	28	13	8	91	9.9%	36.3%	30.8%	14.3%	8.8%	100.0%
睦合北	6	21	24	5	2	58	10.3%	36.2%	41.4%	8.6%	3.4%	100.0%
睦合南	18	68	41	16	6	149	12.1%	45.6%	27.5%	10.7%	4.0%	100.0%
睦合西	14	23	9	12	3	61	23.0%	37.7%	14.8%	19.7%	4.9%	100.0%
荻野	40	76	49	18	5	188	21.3%	40.4%	26.1%	9.6%	2.7%	100.0%
小鮎	28	50	20	10	4	112	25.0%	44.6%	17.9%	8.9%	3.6%	100.0%
南毛利	39	108	60	38	4	249	15.7%	43.4%	24.1%	15.3%	1.6%	100.0%
南毛利南	9	29	17	5	0	60	15.0%	48.3%	28.3%	8.3%	0.0%	100.0%
玉川	6	17	5	2	3	33	18.2%	51.5%	15.2%	6.1%	9.1%	100.0%
森の里	18	39	15	3	3	78	23.1%	50.0%	19.2%	3.8%	3.8%	100.0%
相川	12	26	24	13	4	79	15.2%	32.9%	30.4%	16.5%	5.1%	100.0%
緑ヶ丘	10	24	8	3	0	45	22.2%	53.3%	17.8%	6.7%	0.0%	100.0%

図表 45-2 居住地域が安心・安全かどうかについて(地区別) 経年比較



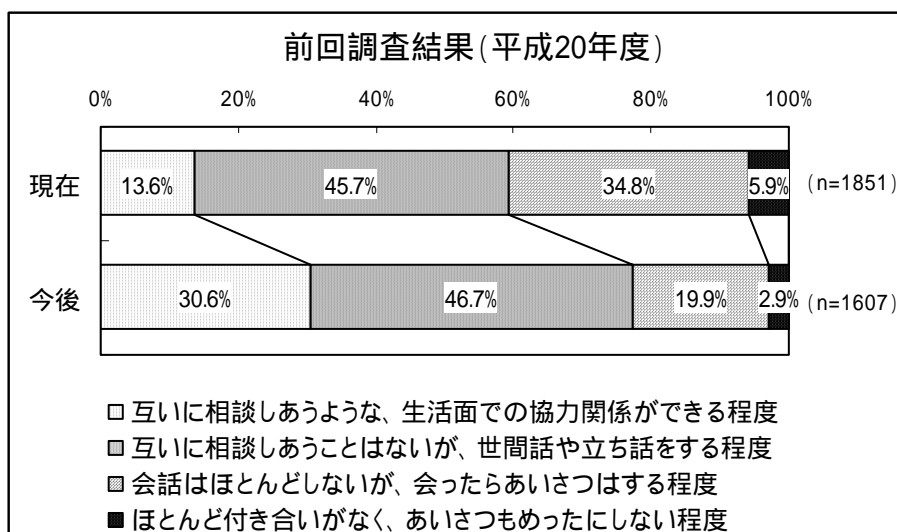
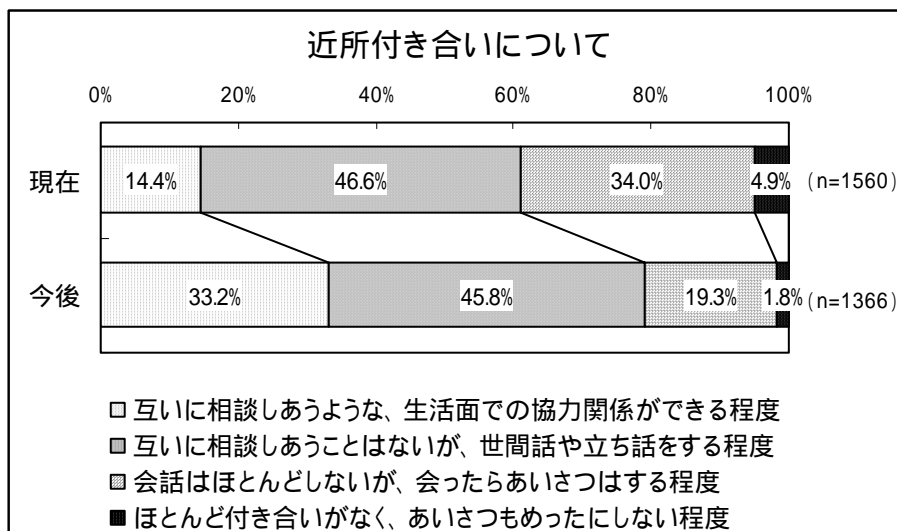
近所付き合いと安心・安全に関する意識

a . 近所付き合いの状況と今後の意向

市全体では、33.2%の人が生活面での協力関係ができる程度の近所付き合いの必要性を感じている。

- ・現在の近所付き合いの程度をみると、「生活面での協力関係ができる程度」が14.4%、「世間話や立ち話をする程度」が46.6%で、合わせて61.0%の人がある程度の近所づきあいをされていることがうかがえる。
- ・さらに、今後の近所づきあいの傾向をみると「世間話や立ち話をする程度」は45.8%で現状とほぼ同じであるものの、「生活面での協力関係ができる程度」が33.2%に増加し、近所づきあいの必要性を感じている人が多いことがうかがえる。
- ・前回調査（平成20年度）との比較では、特に大きな変化はみられなかった。

図表 46【2-73】 近所付き合いの現状と今後の意向



図表 47【2-74】 近所付き合いの現状について（地区別）

地区	近所付き合いについて					構成比				
	互いに相談しあうような生活面での協力関係ができる程度	互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度	会話はほとんどしないが、会ったらあいさつはする程度	ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度	計	互いに相談しあうような生活面での協力関係ができる程度	互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度	会話はほとんどしないが、会ったらあいさつはする程度	ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度	計
厚木北	19	56	72	9	156	12.2%	35.9%	46.2%	5.8%	100.0%
厚木南	16	60	71	15	162	9.9%	37.0%	43.8%	9.3%	100.0%
依知北	15	41	31	4	91	16.5%	45.1%	34.1%	4.4%	100.0%
依知南	12	46	21	3	82	14.6%	56.1%	25.6%	3.7%	100.0%
睦合北	10	35	9	1	55	18.2%	63.6%	16.4%	1.8%	100.0%
睦合南	15	74	48	1	138	10.9%	53.6%	34.8%	0.7%	100.0%
睦合西	11	25	18	4	58	19.0%	43.1%	31.0%	6.9%	100.0%
荻野	34	80	51	6	171	19.9%	46.8%	29.8%	3.5%	100.0%
小鮎	10	65	24	4	103	9.7%	63.1%	23.3%	3.9%	100.0%
南毛利	29	105	88	9	231	12.6%	45.5%	38.1%	3.9%	100.0%
南毛利南	15	17	17	3	52	28.8%	32.7%	32.7%	5.8%	100.0%
玉川	5	15	8	1	29	17.2%	51.7%	27.6%	3.4%	100.0%
森の里	7	42	20	6	75	9.3%	56.0%	26.7%	8.0%	100.0%
相川	13	30	24	7	74	17.6%	40.5%	32.4%	9.5%	100.0%
緑ヶ丘	10	18	14	1	43	23.3%	41.9%	32.6%	2.3%	100.0%

図表 48【2-75】 近所付き合いの意向について（地区別）

地区	近所付き合いについて					構成比				
	互いに相談しあうような生活面での協力関係ができる程度	互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度	会話はほとんどしないが、会ったらあいさつはする程度	ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度	計	互いに相談しあうような生活面での協力関係ができる程度	互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度	会話はほとんどしないが、会ったらあいさつはする程度	ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度	計
厚木北	40	59	34	5	138	29.0%	42.8%	24.6%	3.6%	100.0%
厚木南	43	50	45	5	143	30.1%	35.0%	31.5%	3.5%	100.0%
依知北	25	39	19	0	83	30.1%	47.0%	22.9%	0.0%	100.0%
依知南	23	30	12	1	66	34.8%	45.5%	18.2%	1.5%	100.0%
睦合北	23	19	5	0	47	48.9%	40.4%	10.6%	0.0%	100.0%
睦合南	37	62	25	0	124	29.8%	50.0%	20.2%	0.0%	100.0%
睦合西	19	22	10	0	51	37.3%	43.1%	19.6%	0.0%	100.0%
荻野	50	66	28	1	145	34.5%	45.5%	19.3%	0.7%	100.0%
小鮎	34	45	10	2	91	37.4%	49.5%	11.0%	2.2%	100.0%
南毛利	64	102	31	4	201	31.8%	50.7%	15.4%	2.0%	100.0%
南毛利南	20	26	2	2	50	40.0%	52.0%	4.0%	4.0%	100.0%
玉川	9	12	4	0	25	36.0%	48.0%	16.0%	0.0%	100.0%
森の里	19	39	10	2	70	27.1%	55.7%	14.3%	2.9%	100.0%
相川	30	27	10	1	68	44.1%	39.7%	14.7%	1.5%	100.0%
緑ヶ丘	13	14	6	1	34	38.2%	41.2%	17.6%	2.9%	100.0%

図表 49【2-76】 近所付き合いの現状について（居住年数別）

居住年数	近所付き合いについて					構成比				
	互いに相談しあうような生活面での協力関係ができる程度	互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度	会話はほとんどしないが、会ったらあいさつはする程度	ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度	計	互いに相談しあうような生活面での協力関係ができる程度	互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度	会話はほとんどしないが、会ったらあいさつはする程度	ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度	計
1年未満	2	14	55	16	87	2.3%	16.1%	63.2%	18.4%	100.0%
1年以上5年未満	26	77	127	35	265	9.8%	29.1%	47.9%	13.2%	100.0%
5年以上10年未満	19	64	98	9	190	10.0%	33.7%	51.6%	4.7%	100.0%
10年以上15年未満	14	82	66	5	167	8.4%	49.1%	39.5%	3.0%	100.0%
15年以上20年未満	16	62	37	1	116	13.8%	53.4%	31.9%	0.9%	100.0%
20年以上	146	421	141	10	718	20.3%	58.6%	19.6%	1.4%	100.0%

図表 50【2-77】 近所付き合いの意向について（居住年数別）

居住年数	近所付き合いについて					構成比				
	互いに相談しあうような生活面での協力関係ができる程度	互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度	会話はほとんどしないが、会ったらあいさつはする程度	ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度	計	互いに相談しあうような生活面での協力関係ができる程度	互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度	会話はほとんどしないが、会ったらあいさつはする程度	ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度	計
1年未満	22	26	30	6	84	26.2%	31.0%	35.7%	7.1%	100.0%
1年以上5年未満	68	102	72	8	250	27.2%	40.8%	28.8%	3.2%	100.0%
5年以上10年未満	47	88	36	2	173	27.2%	50.9%	20.8%	1.2%	100.0%
10年以上15年未満	37	81	28	3	149	24.8%	54.4%	18.8%	2.0%	100.0%
15年以上20年未満	42	39	24	1	106	39.6%	36.8%	22.6%	0.9%	100.0%
20年以上	236	287	67	3	593	39.8%	48.4%	11.3%	0.5%	100.0%

図表 51【2-78】 近所付き合いの現状について(住居の種類別)

住居の種類	近所付き合いについて					構成比				
	互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度	互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度	会話はほとんどしないが、会ったらあいさつはする程度	ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度	計	互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度	互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度	会話はほとんどしないが、会ったらあいさつはする程度	ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度	計
戸建て(平屋)	24	64	24	1	113	21.2%	56.6%	21.2%	0.9%	100.0%
戸建て(2階以上)	149	492	227	13	881	16.9%	55.8%	25.8%	1.5%	100.0%
集合住宅	48	161	265	60	534	9.0%	30.1%	49.6%	11.2%	100.0%
その他	1	6	8	3	18	5.6%	33.3%	44.4%	16.7%	100.0%

図表 52【2-79】 近所付き合いの意向について(住居の種類別)

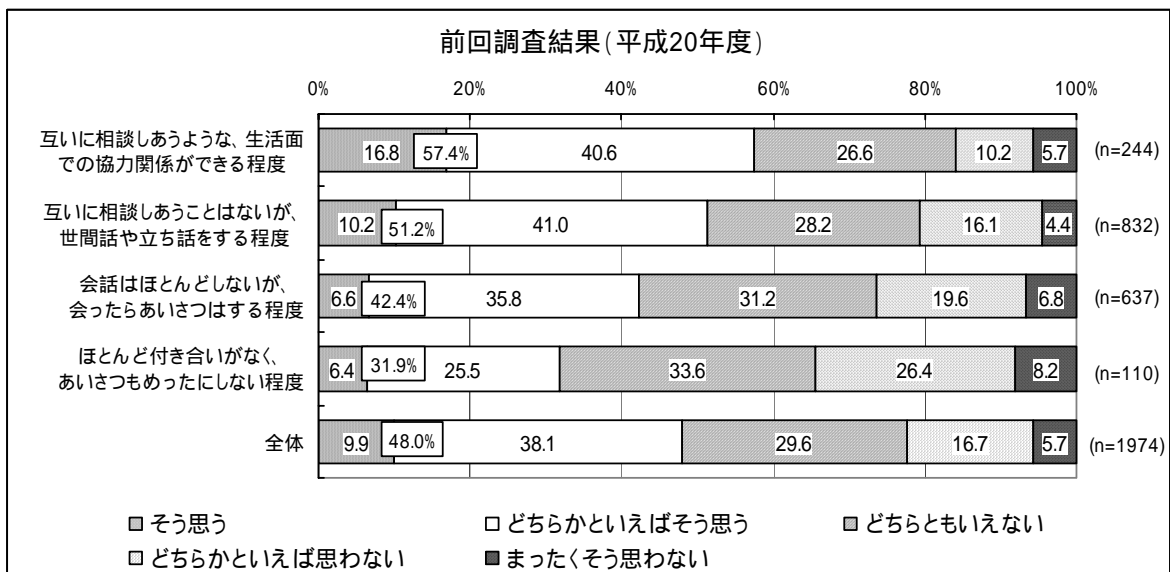
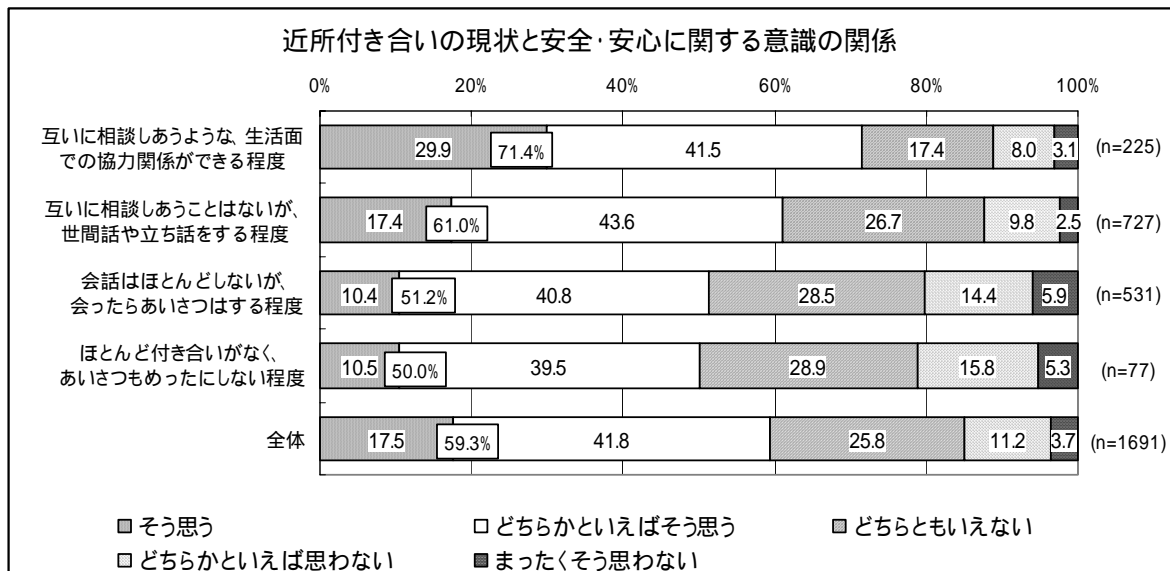
住居の種類	近所付き合いについて					構成比				
	互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度	互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度	会話はほとんどしないが、会ったらあいさつはする程度	ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度	計	互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度	互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度	会話はほとんどしないが、会ったらあいさつはする程度	ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度	計
戸建て(平屋)	28	48	13	0	89	31.5%	53.9%	14.6%	0.0%	100.0%
戸建て(2階以上)	296	370	94	6	766	38.6%	48.3%	12.3%	0.8%	100.0%
集合住宅	127	197	145	17	486	26.1%	40.5%	29.8%	3.5%	100.0%
その他	1	6	9	1	17	5.9%	35.3%	52.9%	5.9%	100.0%

b. 近所付き合いの程度と安心・安全に関する意識

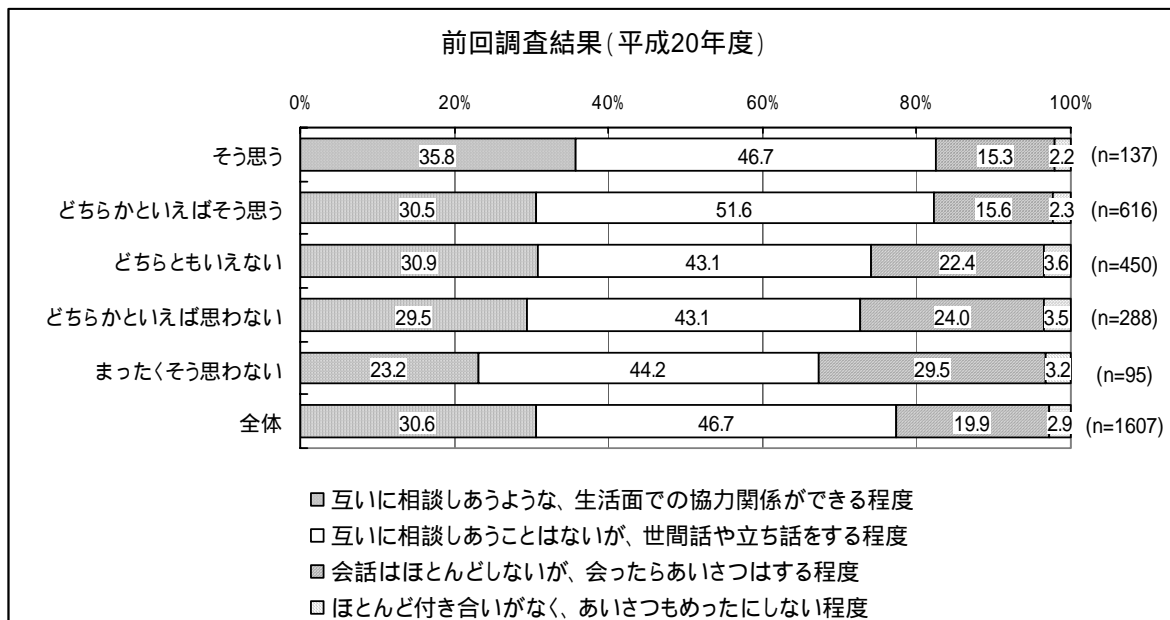
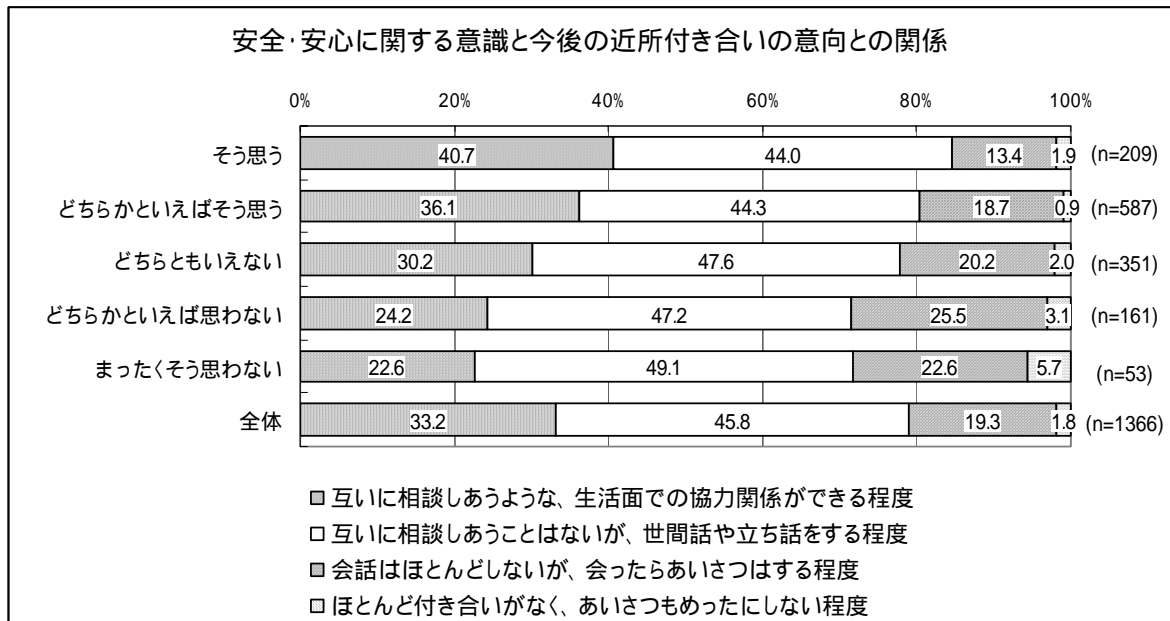
近所づきあいが親密になるほど、居住地域が安心・安全と考える人が多い。

- ・現状で親密な近所づきあいをしていると回答した人や、今後の意向において親密な近所づきあいを希望すると回答した人は、居住地域が安心で安全であると回答する割合が大きくなったことから、居住地域の安心・安全感を高める上で、近所づきあいが重要であることがうかがえる。
- ・前回調査（平成 20 年度）と比較すると、全体として居住地の安心・安全に不安感を持っている人の割合が減少し、安心・安全と回答した人の割合が増加したため、個々の項目で大幅な割合の増加・減少がみられたが、安心・安全感を高める上で、近所づきあいが重要となる傾向に変化はなかった。

図表 53【2-80】 近所付き合いの現状と安心・安全に関する意識の関係



図表 54【2-81】 安心・安全に関する意識と今後の近所付き合いの意向との関係



・ 調査票と集計結果

世帯票

世帯主あるいは世帯を代表される方、どなたかお一人の方が、世帯を代表してご記入ください。

あなたの世帯についておたずねします

問1. お住まいのある地区は、次のどこですか。(1つに) (n=1660)

1. 厚木北 (10.5) 2. 厚木南 (10.6) 3. 依知北 (5.8) 4. 依知南 (5.6) 5. 睦合北 (3.5)
6. 睦合南 (9.0) 7. 睦合西 (3.7) 8. 荻野 (11.5) 9. 小鮎 (6.9) 10. 南毛利 (15.1)
11. 南毛利南 (3.6) 12. 玉川 (2.0) 13. 森の里 (4.7) 14. 相川 (4.8) 15. 緑ヶ丘 (2.7)

問2. あなたは現在のお住まいに住んで何年になりますか。(1つに) (n=1687)

1. 1年未満 (5.5) 2. 1年以上5年未満 (16.5) 3. 5年以上10年未満 (12.3)
4. 10年以上15年未満 (10.9) 5. 15年以上20年未満 (7.4) 6. 20年以上 (47.5)

問3. あなたのご家族は何人ですか。

自分も含めて 人

ご家族のうち、過去1年の間にけがをした方は何人いますか。

自分も含めて 人

ご家族のうち次の1～6に該当する方はいますか。(当てはまるものすべてに)

1. 12歳未満の女の子 (30.6) 2. 12歳未満の男の子 (34.5) (n=556)
3. 12歳以上18歳未満の女の子 (15.1) 4. 12歳以上18歳未満の男の子 (17.1)
5. 介助、見守りの必要な18歳以上65歳未満の方 (5.9)
6. 介助、見守りの必要な65歳以上の方 (26.1)

問4. あなたのお住まいの種類は次のうちどれですか。(1つに)

なお、「3. 集合住宅」に該当する方は何階にお住まいかご記入ください。 (n=1689)

1. 戸建て(平屋) (7.9) 2. 戸建て(2階以上) (56.5) 3. 集合住宅(階) (34.2)
4. その他() (1.4)

セーフコミュニティについておたずねします

問5. 平成22年11月に厚木市はWHO(世界保健機関)セーフコミュニティ推進協働センターのセーフコミュニティ認証を取得しました。あなたは、セーフコミュニティの取組みをご存知ですか。(1つに) (n=1685)

1. セーフコミュニティの考え方や活動など、よく知っている (9.7)
2. セーフコミュニティという言葉は聞いたことがある (43.3)
3. 知らない (46.9)

問6. 市民や行政などが協働して、安心・安全なまちづくりを進めるセーフコミュニティの取組みを、今後も継続して推進していく必要があると思いますか。(1つに) (n=1653)

1. 必要がある (57.5) 2. どちらかといえば必要がある (23.2) 3. どちらともいえない (17.7)
4. あまり必要がない (0.7) 5. 必要ない (1.0)

厚木市での暮らしについておたずねします

問7. あなたのお住まいの地域は、総じて安心して安全だと思いませんか。(1つに) (n=1691)

1. そう思う (17.5) 2. どちらかといえばそう思う (41.8) 3. どちらともいえない (25.8)
4. どちらかといえば思わない (11.2) 5. まったくそう思わない (3.7)

問 8 . あなたは、ご近所の方との程度お付き合いがありますか。また、今後はどの程度お付き合いをしていきたいですか。(現在、今後、それぞれ該当する欄1つに) (n=1560) (n=1366)

お 付 き 合 い の 程 度	現 在	今 後
1 . 互いに相談しあうような、生活面での協力関係ができる程度	(14.4)	(33.2)
2 . 互いに相談しあうことはないが、世間話や立ち話をする程度	(46.6)	(45.8)
3 . 会話はほとんどしないが、あったらあいさつはする程度	(34.0)	(19.3)
4 . ほとんど付き合いがなく、あいさつもめったにしない程度	(4.9)	(1.8)

お子さん(0～15歳未満)がいる方におたずねします
(2人以上いる方は年齢が一番下のお子さんについてお答えください)

問 9 . お子さんの年齢をご記入ください。(数字を記入ください) 歳

問 10 . 過去1年の間に、お子さんが厚木市内(自宅を除く)で、事故やけがをした状況についてお答えください。その際、回りに大人はいましたか。医療機関には行きましたか。(当てはまるものすべてに) (n=342)

けがをした状況	該当するものに	大人がいた場合に	医療機関に行った場合に
1 . 海や川、プールなどでおぼれた	(0.3)	(1.1)	(2.1)
2 . 交通事故(単独、自転車・自動車の乗車中)	(5.3)	(6.9)	(18.8)
3 . 道路や歩道を走っていて転倒	(12.3)	(39.1)	(6.3)
4 . 公園(ブランコ・すべり台・鉄棒)でのけが	(7.6)	(19.5)	(4.2)
5 . 動物や虫などによるけが	(5.3)	(9.2)	(12.5)
6 . 人や物(例:電柱等)に衝突	(3.8)	(10.3)	(4.2)
7 . 階段や高所からの転落	(2.0)	(4.6)	(8.3)
8 . 建物や車両などのドアに挟まれたけが	(1.8)	(4.6)	(2.1)
9 . 学校でのけが・事故(クラブ活動中なども含む)	(11.7)	(25.3)	(37.5)
10 . 保育園・幼稚園でのけが・事故	(7.0)	(18.4)	(18.8)
11 . その他(具体的に:)	(2.3)	(4.6)	(4.2)
12 . けがはしていない	(62.0)		

問 11 . 過去1年の間に、お子さんが自宅で、事故やけがをした状況についてお答えください。その際、回りに大人はいましたか。医療機関には行きましたか。(当てはまるものすべてに) (n=322)

けがをした状況	該当するものに	大人がいた場合に	医療機関に行った場合に
1 . ベッドや椅子などから転落	(7.5)	(29.6)	(16.7)
2 . ベランダや窓の手すりを乗り越え高所から転落	(0.6)	(2.8)	(0.0)
3 . 階段から転落	(2.2)	(4.2)	(8.3)
4 . たばこやおもちゃなどの異物誤飲	(1.2)	(2.8)	(12.5)
5 . 就寝中の窒息	(0.0)	(0.0)	(0.0)
6 . 火気や熱湯、暖房器具などの接触によるやけど	(2.2)	(9.9)	(8.3)
7 . 入浴中の溺水	(0.3)	(1.4)	(0.0)
8 . 廊下や浴室などでの転倒	(6.5)	(23.9)	(4.2)
9 . 刃物や鋭利なものによるけが	(3.4)	(8.5)	(8.3)
10 . 家具や物に体をぶつけるなどの衝突	(11.5)	(38.0)	(16.7)
11 . ドアや窓、家具などで挟まれたけが	(7.1)	(28.2)	(16.7)
12 . 動物や虫などによるけが	(5.0)	(9.9)	(12.5)
13 . その他(具体的に:)	(0.9)	(4.2)	(12.5)
14 . けがはしていない	(70.2)		

個人票

15歳以上の方お一人ずつご記入ください。世帯票を記入された方もご記入ください。

事故やけがについておたずねします

問1. 厚木市内(自宅を除く)での、事故やけがの状況についてお聞きします。

1-1. 過去1年の間に厚木市内でけがをして手当てを受けたことがありますか。軽傷、重傷を問わずお答えください。(該当する欄に あるいは数字を記入) (n=3043)

	該当するものに	けがをした回数
1. けがはしていない	(88.1)	/
2. けがをしたが、医療機関へは行かなかった	(6.0)	
3. けがをして、医療機関に通院した	(5.7)	
4. けがをして、医療機関に入院した	(0.7)	

1-2. 1-1で、過去1年の間に厚木市内で「けがをした」と回答した方におたずねします。けがをした原因はなんですか。 (n=363)

(当てはまるものすべてに、そのうち、通院や入院したものには をつけてください)

1. 交通事故 (13.2) 2. 転倒 (40.8) 3. 転落 (6.3)
 4. 接触または衝突 (8.0) 5. 切傷・刺傷 (23.7) 6. 挟まれた・加圧 (6.6)
 7. 虫刺、咬傷(ハチ、動物など) (6.1) 8. その他() (12.7)

1-3. 1-1の「過去1年の間に厚木市内でけがをした」場所はどこですか。 (n=353)

(当てはまるものすべてに)

1. 道路・歩道 (48.4) 2. 学校(6.8) 3. 勤務先 (16.1) 4. 農地・林地 (4.5)
 5. 公園 (2.8) 6. 駅 (2.8) 7. 商業・飲食・娯楽施設 (3.7)
 8. スポーツ施設 (8.8) 9. その他() (17.6)

問2. 自宅での、事故やけがの状況についてお聞きします。

2-1. 過去1年の間に自宅でけがをして手当てを受けたことがありますか。軽傷、重傷を問わずお答えください。(該当する欄に あるいは数字を記入) (n=2836)

	該当するものに	けがをした回数
1. けがはしていない	(87.8)	/
2. けがをしたが、医療機関へは行かなかった	(8.8)	
3. けがをして、医療機関に通院した	(3.3)	
4. けがをして、医療機関に入院した	(0.2)	

2-2. 2-1で、過去1年の間に自宅で「けがをした」と回答した方におたずねします。一番大きなけがをした原因はなんですか。(1つに) (n=338)

1. ころんだことによるけが(転倒) (21.9)
 2. 階段などから転がり落ちることによるけが(転落) (6.8)
 3. 包丁やナイフなどの刃物や鋭利なものによるけが(切傷・刺傷) (40.2)
 4. ドアや窓、家具などではさまれたけが(挟まれた・加圧) (7.7)
 5. 熱湯などによるやけど(火傷) (9.2)
 6. 薬のケースなどを間違えて飲んでしまった(異物誤飲) (0.6)
 7. その他(具体的に) (13.6)

2-3. 「過去1年の間に自宅で一番大きなけがをした」場所はどこですか。(1つに) (n=2836)

1. 居室 (20.6) 2. 廊下 (6.0) 3. 階段 (7.9) 4. トイレ (0.3)
5. 浴室 (2.2) 6. 台所 (39.2) 7. 庭 (14.9) 8. その他() (8.9)

2-4. 「過去1年の間に自宅で一番大きなけがをした」時間帯は何時頃ですか。(数字を記入)

時台 (24時間で記入ください。例：午後4時頃は16時台)

犯罪被害や不安などについておたずねします

問3. あなたがお住まいの地域の治安について、1年前と比べてよくなったとおもいますか、悪くなったとおもいますか。(1つに) (n=2838)

1. 良くなった (5.2) 2. 変わらない (68.1) 3. 悪くなった (13.9) 4. わからない (12.8)

問4. あなたは、日ごろ、ご自身や家族が犯罪被害などにあうのではないかという不安をどの程度感じていますか。(A~Dのそれぞれについて、1~4の番号のうち1つに)

なお、該当しない場合(自転車、パソコンを持っていない、子どもはいない等)は、「5」に をつけてください。

項 目	非常に不安	かなり不安	やや不安	不安はない	n
ア. 暴行や傷害などの暴力的な犯罪にあう不安	(5.6)	(10.8)	(51.5)	(32.1)	2833
イ. 自宅にどろぼう(空き巣など)に入られる不安	(13.2)	(20.4)	(52.0)	(14.5)	2916
ウ. ひったくりにあう不安	(6.5)	(15.0)	(48.8)	(29.7)	2879
エ. 自転車を盗まれる不安	(12.4)	(19.3)	(44.6)	(23.8)	2306
オ. 自動車やオートバイを盗まれる不安	(11.3)	(17.0)	(45.8)	(25.9)	2364
カ. 自動車内の部品や金品を盗まれる不安	(10.5)	(11.0)	(48.6)	(23.3)	2418
キ. 痴漢にあう不安	(4.6)	(9.6)	(34.0)	(51.9)	2784
ク. 振り込め詐欺や悪質商法などの詐欺犯罪にあう不安	(5.4)	(10.8)	(39.4)	(44.4)	2880
ケ. 自宅や自動車などが落書きをされたり、壊されたりする不安	(6.7)	(12.2)	(44.0)	(37.1)	2862
コ. 不審者に声をかけられるなどの不安	(6.1)	(11.2)	(44.2)	(38.5)	2859
サ. 子どもが不審者に声をかけられたり、連れ去られたりする不安	(16.3)	(20.7)	(40.1)	(22.9)	1647
シ. 人につきまとわれたり、のぞかれたりする不安	(5.7)	(10.5)	(40.7)	(43.1)	2848
ス. インターネットを利用した犯罪の被害にあう不安	(10.1)	(21.5)	(42.9)	(25.4)	2316
セ. 凶悪犯罪(殺人、放火、強盗、強姦)にまきこまれる不安	(5.4)	(12.0)	(48.2)	(34.4)	2856
ソ. 地震や風水害にあう不安	(20.7)	(27.0)	(40.9)	(11.4)	2923
タ. テロに巻き込まれる不安	(3.4)	(6.1)	(36.2)	(54.3)	2843
チ. 飲酒運転による交通事故、ひき逃げなどの悪質・危険な交通法令違反の被害にあう不安	(10.3)	(18.4)	(53.2)	(18.1)	2891
ツ. いやがらせやいたずらなどをされる不安	(6.1)	(12.1)	(47.0)	(34.9)	2874
テ. その他の不安(具体的に)	(5.6)	(6.3)	(16.2)	(71.9)	1538
ト. 全体的に	(4.2)	(13.1)	(57.9)	(24.8)	2481

問5．あなたがお住まいの地域の状況について、不安をどの程度感じていますか。

(ア～ソのそれぞれについて、1～4の番号のうち1つに)

項 目	非常に不安	かなり不安	やや不安	不安はない	n
ア．空きビルや空き店舗、使われていない倉庫がある	(2.5)	(6.8)	(25.3)	(65.4)	2853
イ．繁華街での客引き、キャッチセールスが目に付く	(5.8)	(11.5)	(29.0)	(53.7)	2853
ウ．夜、街灯が暗いところがある	(15.9)	(22.6)	(42.4)	(19.1)	2889
エ．木や茂みなど管理が行き届いていない場所がある	(11.2)	(18.3)	(38.1)	(32.4)	2876
オ．人通りの少ない道	(15.2)	(23.0)	(44.5)	(17.3)	2915
カ．風俗産業などの看板やチラシなどが目に付く	(5.4)	(7.4)	(26.2)	(60.9)	2865
キ．スプレーによる落書きがある	(5.0)	(10.4)	(34.4)	(50.1)	2874
ク．ごみやタバコの吸殻が散乱している	(5.6)	(13.4)	(39.5)	(41.6)	2877
ケ．路上への違法駐車や放置自転車がある	(8.2)	(15.9)	(39.6)	(36.3)	2881
コ．少年などのたむろ、たまり場がある	(7.3)	(14.7)	(33.9)	(44.2)	2872
サ．近所づきあいのない人がいる	(4.6)	(11.5)	(42.5)	(41.4)	2877
シ．ゴミ出しルールや騒音を出すなど、地域のルールやマナーを守らない人がいる	(10.6)	(16.2)	(38.3)	(34.9)	2900
ス．近所にトラブルを起こす人がいる	(4.7)	(7.4)	(26.8)	(61.1)	2861
セ．その他の不安(具体的に)	(5.4)	(4.6)	(14.6)	(75.4)	1512
ソ．全体的に	(3.4)	(12.2)	(47.4)	(36.9)	2350

問6．あなたは、犯罪被害に巻き込まれないために、どのような対策をとっていますか。

(当てはまるものすべてに)

(n=2994)

- 1．特になにもしていない (18.1)
- 2．夕方等に部屋の明かりをつけたり、テレビの音を出すなど、家に人がいると思わせるようにする (37.7)
- 3．外出時に玄関や窓に鍵をかける (88.6)
- 4．夜間に門灯・玄関灯をつける (38.4)
- 5．街灯や防犯灯のランプが切れていたら管理者に連絡する (27.5)
- 6．センサーライトの設置 (24.4)
- 7．留守にするときには隣近所に声をかける (14.1)
- 8．自転車の防犯登録 (43.5)
- 9．警備会社のホームセキュリティサービスの利用 (4.5)
- 10．地域パトロール活動への参加 (13.6)
- 11．市が発信している防犯・防災情報「ケータイ SOS ネット」に登録している (5.8)
- 12．家財の盗難など犯罪被害にあったときのための損害賠償保険(任意)に加入している (14.2)
- 13．防犯ブザー等の防犯グッズを携帯している (6.9)
- 14．その他() (3.0)

問7．犯罪を抑止するための対策として、それぞれの事柄についてどの程度重要だと思いますか。(ア～キのそれぞれについて、1～4の番号のうち1つに)

項 目	重要 である	どちらか といえば重要 である	どちらか といえば重要 でない	重要 でない	n
ア．個人の防犯対策	(73.4)	(24.2)	(1.9)	(0.5)	3031
イ．地域住民の防犯ボランティア	(38.8)	(53.2)	(6.7)	(1.3)	2961
ウ．自治体の防犯活動への取組み	(49.2)	(46.0)	(3.6)	(1.2)	2981
エ．市民と行政との協働による犯罪抑止への取組み	(55.2)	(40.0)	(3.5)	(1.3)	2960
オ．警察の防犯活動の充実	(75.3)	(22.9)	(1.2)	(0.6)	2998
カ．企業や事業者による地域の防犯活動への取組み	(36.0)	(51.0)	(10.6)	(2.4)	2926
キ．学校における防犯対策	(60.2)	(34.6)	(4.1)	(1.1)	2957

あなたの基本的なことについておたずねします

問8．性別（どちらかに） (n=2994)

- 1．男性 (48.4) 2．女性 (51.6)

問9．年齢（平成23年9月1日現在で、1つに） (n=3148)

- 1．15～19歳 (3.7) 2．20～24歳 (4.4) 3．25～29歳 (5.5) 4．30～34歳 (8.0)
 5．35～39歳 (9.0) 6．40～44歳 (7.8) 7．45～49歳 (6.7) 8．50～54歳 (5.7)
 9．55～59歳 (7.8) 10．60～64歳 (12.9) 11．65～69歳 (10.9) 12．70～74歳 (8.7)
 13．75～79歳 (4.8) 14．80歳以上 (4.1)

問10．通勤・通学先 (n=2946)

- 1．厚木市内 (35.3) 2．厚木市外 (25.4) 3．通勤、通学をしていない (39.2)

アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました。

安全・健康・コミュニティに関する調査報告書

平成 24 年 2 月

企画・編集 厚木市 協働安全部 生活安全課
セーフコミュニティ担当

〒243-8511 神奈川県厚木市中町三丁目 17 番 17 号
TEL 046(225)2865 FAX 046(221)0260